

一 上棟式祝詞

これの神籠に招ぎ奉り令坐奉る 掛巻も畏き親神天理
王命の御前に慎しみ敬い恐み恐みも白さく
親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉りて
天理教 分教会はも既設の境内建物は平屋建て
ありしかも狭く且つ老朽化せし為 これより後の教会
内容の充実を期し地下に駐車場を設け 地上に木造
亜鉛メッキ鋼板葺式階建なる 神殿兼教職舎を
境内地一杯に新たに設け奉らむと一同心を一つにして
御願に及びしが 去る 月 日鮮やかに御本部よ
り理の御許しを戴き 引続き 月 日明るく
厳かに地鎮祭並に起工式を執り行いたり
その後工程は渉外的な事情によりやや延びしが工事
関係者一人ひとりの並々ならぬ努力のお陰で漸く棟木
取り上げむばかりに成りたるを以て 今日を生日の
足日と上棟の儀式執り行わむと御前に御酒御食海川
山野の種々の味物を置き高成して捧げ奉らくを甘らに
安らかに聞食し諾ひ給いて 道の子達が諸手に取る綱根
の只一筋に曳き上げ奉る棟木の緩みなくやがて取付け
む桁梁の損い動く事無く守り幸え給い 豫め定めたる
設計のまに／＼平けく安けく竣功えしめ給い 併せて
形のふしんに伴い心のふしんの成果もひときわ高く大
きく挙げしめ給い ひいては思召下さる世界一列兄弟
姉妹の陽氣ふしんに正しくつながらしめ給いと 一同
と共に恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す

二 部内分教会就任、移転建築落成、改称奉告祭祭文

木の香りも新しいこの神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

これの教会は はじめ昭和 年 月 日 という名称のもと 様

を初代会長として 県 市 区 町 丁目 番地にお許しを頂き

その後昭和 年 月 日 様が二代会長となり 県 市 区

町 番地に任命移転のお運びをいただかれました しかるに昭和 年

月 日 様が出直され 引き続き翌 年 月 日 様が後を

追うようにして出直され その後は後継者がなか／＼と与わらず徒らに年月を重ねて参りました この度図らずも上級教会長様からお声を頂き 大教会長様始め上級教会長様方から力強いご要望を受け かつ又役員並びに信者の方々から誠意溢れるご支援を頂き 去る昭和 年 月 日御本部より届かない私に忝けなくも教会長の任命があり 現在地に神殿建築の上 その名も 分教会として移転するお許しを頂きました 理の重みを全身に感じながらいち早く

工業有限会社の施工によりふしんにかかり ここに見事にその落成を見させて頂きました

お陰様で昨 月 日夜大教会長様のお手によって 親神様 教祖のお目標様のご鎮座を頂き 併せて祖霊様のご鎮座も恙なく終わりましたので お許しを頂きました今日のおよき日心づくしのお供物を献じて 教会長就任 移転建築落成並に 改称の奉告祭をつとめさせて頂きます

思い返せば今は七き祖母 様が早くからこの道にお引寄せ頂き 朝に夕にみかぐらうたを唱和しながらどんな中も勇んで明るくお通り下された伏せ込みが 尊い話の種ともなるのでありますが 今日の日まで熱心に稽古を続けて参りました てをどりと鳴物をたど／＼しいながら打揃って精一杯真実につとめさせて頂きます

親神様には一同のこの勇んだ姿をご覧下さいまして一段とお勇み下さいますよう心より御願申し上げます

今日の時句は教祖 年祭を後 年余りに迫った重大な時句であります 親神様のよふぼく 教祖の道具衆として世界たすけの上に親しくお招きいただいた光栄を一段と深く心に刻み ひたすら教祖の面影を求め 身近に教祖を拝しつつ ここを の陽気ぐらしのひながた道場として 名称の理にふさわしい信仰を着実に盛り上げながら 思召頂く教会内容の充実を心を揃えて計っていきたくと念願いたしております

親神様にはかくお誓い申し上げます一同の眞実をお受取り下さいましての名称の理の栄をお見せ下さいますと共に 人々の心は次々に改まり神人和楽親子団欒の陽気世界が一日も早く訪れますようお導きの程を慎んでお願い申し上げます

三 地鎮祭並びに起工式祭文

木の香もなお新しいこれの神床に 目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様の宏大無辺な親心のお蔭でこれの天理教

分教会は立教 年 月 日 神殿及び附属建

物建築のお許しを戴き 早速その普請にかかりました
が かくの如く見事に落成し 去る 月 日 晴

れやかに而も厳かに鎮座祭翌 日は奉告祭をつとめ
させて頂くことが出来ました。ところが残りました古
い教職舎 平方米の老朽化がはげしく而も間取り

も悪く これを修理し改築するよりも寧ろ取壊ち新築
する方がいと衆議一決し上級会長様方の心よい賛同
を戴きましたので 茲に木造亜鉛メッキ鋼板葺式階建
教職舎 その床面積壹階 平方米 式階

平方米を引続き 建設の施工のもと心嬉しく新た
に工事にかからせて頂きたいと存じます

既に取り壊ち部分の解体も終わり改めて空地の整備も済
ませて頂きましたので 只今から地鎮祭と共に起工式
を執行わせて頂きます

お道の普請はたすけふしぎふしんであり 形のふしん
に先行する心のふしんを促進するようお教え下されて
おりますが この思召をしっかりと心に体し一段とに
をいがけおたすけに心を注ぎ地域社会に神名を流し陽
気ぐらしの輪が大きく拡がって参りますよう一手一つ
につとめさせて頂きますが どうか親神様には怪我過
ちなく前回同様美わしく完成致しますようお導きの程
を一同と共に慎んでお願い申し上げます

四 大祓祭文

これの仮の神床に暫し御遷座申し上げました 親神天
理王命の御前に慎んで申し上げます

これの天理教 分教会は去る 月二十六日神殿建
築の尊い理の御許しを頂き 月 日に地鎮祭並びに
起工式を執り行い 渉外的な事情によりやや延びまし
たが 工事関係者の並々ならぬ真実の努力により

月 日明るく厳かに上棟式をつとめさせて頂きまし
た お陰様でその後は工事も順調に捗り 月

日には新しい畳も入り ほぼ完成を見るに至りました
ので お許し通り 月 日に鎮座祭 翌 日には
神殿建築落成奉告祭を一手一つに迎えさせて頂きます
この栄えある両祭典に先立って その諸準備をすすめ
る為教会長家族一同が喜び勇んで木の香新しい各部屋
に諸道具と共に引越をさせて頂く事に相成りましたが
ここに神床を始め神殿並びに教職舎の隅々 併せて家
族一人ひとりに至るまで打ち拂う麻のさやぎのさや／
＼に清々しく祓い清めさせて頂きます

今後は一層互いに立て合い助け合って 形のふしん以
上の心のふしんに励んで参りますが親神様にはこれの
教会が地域社会の陽気ぐらしひながた道場にふさわし
くなりませう お導きの程を一同と共に慎んで御願
い申し上げます

五 神実様遷座並に鎮座祭祭文

これの木の新しい御社を清らかに払い清めて今し厳かにお遷り頂きお鎮め申し上げました。くにとこたちのみこと。をもたりのみこと。くにさづちのみこと。月よみのみこと。くもよみのみこと。かしこねのみこと。たいしよく天のみこと。いぎなぎのみこと。いぎなみのみこと。となる親神天理王命の御前に天理教。分教会長

慎んで申し上げます

親神様には私たち人間の上に片時の休みもなく親心一条にお働き下され。お陰で毎日明るく陽気に暮らさせて頂き洵に感謝の念に堪えませぬ

さてこの 布教所は昭和 年 月 日 氏を

所長として開設されましたが 早や 年の風雪をしのぎ順調に今日の姿にまでお連れ通り下され家族もそれぞれ成人させて頂きました。本日は所長の母 刀自の 年祭をつとめさせて頂くに当たり 教祖百年祭の年にふさわしく一より始めるの心を定め 御社も新らしくして 刀自の遺族の方々一同の参列の下 神実様を只今厳かに鎮座させて頂きました

これより後は教祖存命の理を心に体しなってくる総てを御理に照らして判断し ひながたの道をいよ／＼身近に拝して教祖に ご満足頂く歩みを心掛け 来秋迎える立教百五十年目指して にをいがけおたすけの上にも一段と拍車をかけて参りますが 親神様には馳せ巡る先々に不思議な理の働きをお見せ下され 思召下さる陽気ぐらしの実が次々と拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

六 増改築御願祭文（上棟式に代えて）

これの神床にめどうとしてお鎮まり下さいます親神天理
王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な片時の休みもなくお働き下さるお蔭
により一同壮健に毎日を送り迎えすることが出来洵に感
謝の念に堪えません 殊には 市 区 町

丁目 番地なる 布教所に於いては 親神様の

思召を心に体しひながたの道を見つめながら長の年月い
くたの理の御用に心の限り真剣におつとめ下されて居り
ますが 先年土地・建物の問題も見事に解決し この程
不思議な巡り合わせを得て陽のよく当たる南側の庭に予
期せぬ居間などの増改築工事をさせて頂く運びに相成り
ました

工程もいち早く進捗しましたので今日の吉日を選び定め
一同打ち揃い いわば上棟式に代わる喜びの御式を只今
からつとめさせて頂きます

かねがね形のふしんに先行する心のふしんと私たちは聞
かせて頂いて居りますが 今日深い感謝のふしを通し
て一層成人の道を辿らせて頂き世界一列兄弟の御教えを
更に広く大きく流させて頂きますから 何卒今後の工事
も順調にはかどり 予定通り恙なく竣工を見ますようお
導きの程を一同に代り慎んでお願い申し上げます

七 布教所 移転鎮座並に大祓祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお遷し申しお鎮まり下さいました。くにとこたちのみことをもたりのみこと。くにさぶちのみこと。月よみのみこと。くもよみのみこと。かしこねのみこと。たいしょく天のみこと。をふとのべのみこと。いざなぎのみこと。いざなみのみこと。なる親神天理王命の御前に慎んで申し上げます。

親神様には片時の休みもなく 布教所の一同の上に親心深くお働き下され お陰様で一同明るく勇んで一日々々を暮され洵に御礼の申しようもございません 殊には当布教所の所長 家の家族は 市 区 丁目 番 号

に長年起き伏しされ 初代所長なる母親も至って壮健であり狭いながらも子供達 人を加え総勢 人が心を揃えひたすら理づくりに励み 不足どころか思召の陽気ぐらしを目指して心の成人につとめておられました。が 此度親神様の不思議な御守護により ここ 市 区 丁目 番地 号の 平方米の家屋に移転する喜びに浴することが出来ました 早速今日の引越しのよき日の只今 布教所の神実様を心新たに鎮座させて頂いたのでございます

引続き それでも知らず／＼の中に積んで参りました心の埃と共に家屋全体を隈なく払い清めさせて頂きますが 愈来年早々 教祖 年祭を迎えさせて頂く今日の時旬 一層親神様を朝夕に拝し御教えを心の定規とし世界一列を救けるため どんな節の中も勇んでお通り下された教祖のひながたを偲び今日の移転を跳躍台として更に世のため人のため真実の限りを尽くして参りますが どうかこの布教所を基点としてなされるたすけ一条の道には倍旧のお力添えを賜り 人を救けて我が身助かる共生の幸せがこれの 家にも巡って参りますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

八 神実様鎮座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお鎮め申し上げました。くにとこたちのみこと、をもたりのみこと、くにさづちのみこと、月よみのみこと、くもよみのみこと、かしこねのみこと、たいしよく天のみこと、をふとのべのみこと、いざなぎのみこと、いざなみのみことなる親神天理王命の御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

親神様には私達人間の上に片時の休みもなく親心深くお働き下され、お陰で毎日明るく陽気に暮らさせて頂き誠に感謝の念に堪えません。殊には夫婦は人の可愛い男の子に恵まれ、生業の道も極めて順調で去る。月末、市、区

丁目

番号なるこの土地に新築されたこの家屋に引越

され、既に大被の御式も済ませて頂きました。

この上は親神様の大恩は申すまでもなく、御両親のご恩にも深く感謝し、更に今後は一層教祖の御教を心の定規とし、ひながたを身近に拝し、夫婦共々一段と心の成人を期すると共に、人生の真のあり方を広く世の人々にも移していきたいと念願し、溢れる喜びの下、この月この日の吉き日、神実様を只今鎮座させて頂きました。

講名を

講と名付けましたが、これより後には更にかしも

のかりものの理を心に強く治め、ひのきしんの実践に励み、なるほどの家庭を目指し、旬々の御用の上にも心の限り力の限りつとめさせて頂きたいとお誓い下されておりますが、これの講社を拠点としてなされるたすけ一条の道の上には珍しい不思議なご守護を賜り、尚これの周辺に思召し下さる陽気ぐらしの実が次々と拡がって参りますようお導きの程、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

九 ○ ○ 家地鎮祭及び起工式祝詞

此の所に忌竹さし立て標縄引き延え神籠立てて招ぎ奉り
令せ奉る掛巻も畏き親神天理王命の御前に恐み恐みも白
さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉りて △

△出張所なる ○ ○ 家はも生業の道もいと順調に 夫婦心を
一つに合わせ子達 □ 人も健やかに 教会より程近きメゾ

ンホール △ 番館に長年朝な夕な明るく暮らされしが この
度旬満ちてこれの 市 町 番

平方米なる敷地に木造コ口ニアル葺二階建一棟
平方米なる住宅を 建設株式会社設計施工のもと

に設け奉らむと 今し大地の高き低きを曳きならし 御柱
が根の礎を底つ石根に築き固めむとして 今日の日日の

足日に地鎮祭と共に起工の御式仕え奉らむとし 御酒
御食海川山野の種々の味物を捧げ奉りて拜がみ奉らくを

平らけく安らけく諾い聞し食して 工事に親しむ人々の身
に怪我過ち無く美わしく竣工しめ給い やがてこの住居

に寄り集う家族親族はもとより ○ ○ 家の一人ひとり身も
心も壮健に相和し相助け合うて これの所より陽氣ぐら

しの実を示しつつ 上り坂を辿らると共に 底つ石根の
極み 下つ綱根の限り波布虫の禍いなく由留岐害うことな

く 工事費の月々の支払いも見事に終え 千代万代に
堅磐に常磐に守り幸え給えと恐み恐みも乞い祈み奉らく

と白す

十 地鎮祭詞

此の所に斎竹さし立て標縄引き延え神籠立てて招ぎ奉り令坐奉る掛け巻くも畏き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを喜び奉り辱けなみ奉り 家はも早くよりこれのお道に引き寄せられ生業の道の傍ら人救いの心を碎きつつ朝な夕な明るく暮らされしがこの度長年のつとめ稔りて これの 都 区

番地なる土地に

造

葺

建 棟なる住居を設け奉り 神実様を移し鎮

め奉り土地所の陽氣ぐらしの雛形たらんと今し大地の高き低きを曳き平し御柱が根の礎を底つ 石根に築き固めんとして今日の生日の足日に地鎮の御祭仕え奉らくと 御酒御食海川山野の味物を捧げ奉りて拜み奉らくを諾い聞し食して これより後も家族親族一同身も心も健やかに起き伏し給わむ事はしもとより 高く尊き神名がこれの周辺に流ると共に底つ石根の極み下つ綱根の限り 波布虫の禍無く由留岐害うことなく千代万代に堅磐に常磐に守り幸え給えと恐み恐み乞い祈み奉らくと白す

十一 移転鎮座祭祭文

此れの新たな神床を清らかに払い清めて 今し厳かにお遷し申しお鎮めいたしました くにとこたちのみことをもたりのみこと くにさづちのみこと 月よみのみこと くもよみのみこと かしこねのみことたいしよく天のみこと をふとのべのみこと いぎなぎのみこと いぎなみのみことなる親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には片時も休みなく 私たち子供の上に親心深くお働き下され洵に感謝の念に堪えません

殊には は教会に生まれ教会に育ちいつしか信仰の良さが身に付き 市 町 番地に拠点を

置き にをいがけおたすけの道にいそしんで参りましたが このほど縁談が整い近く結婚式を挙げることになりましたので この旬に将来の出張所の充実を期してこ

こ 町 に移転をさせて頂きました かくてこの月この日神実様を只今遷座し鎮座させて頂いたのでございませす

今後は道の台と仰せられる新妻と共に 一層原典に忠実にひながたの道を厳しく身近に拝してつとめの完成を目指してよふぼくづくりに励むと共に 親里ふしんにも真実を傾けていきたいと願っておりますが どうかこの新しい出張所を根城としてなされるたすけ一条の道の上に充分のお力添えを賜り これの周辺に広く大きく神名が流れ思召される陽気ぐらしの家庭があちこちに見えて参りますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

十二 移転鎮座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて 今し厳かにお遷し申し改めてお鎮まり下さいました くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさづちのみこと つきよみのみこと くもよみのみこと かしこねのみこと たいしよくてんのみこと をふとのべのみこと いざなぎのみこと いざなみのみこととなる親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には 片時も休みなく親心深くお働き下さいますお蔭により一同毎日明るく陽気に暮させて頂き洵に御礼の申しようもございません

殊には 市 町 番 号の住居に長年起き伏ししておりました 家の 人娘は それ／＼独立した世帯を構え一様に孫達にも恵まれ 皆幸せに一日々々を送り迎えさせて頂き 親としての喜びをこよなく味わっておりますが 何時しか春秋を重ねて高齢の身となりました 時恰も の許に嫁ぎました長女

が家族一同の協力のもと ここ 市 町 番 号に主人 の名義にて 新築の家屋をお与え頂きましたところ この旬に の両親に一緒に住んで貰い 遅ればせながら身近な世話どりをして親孝心の道を辿り度いと申し出られました

全くこれに過ぎる喜びはなく 感謝の涙と共に元の親実の親なる親神様を捧持し今日の上き日の只今心新たに鎮座させて頂きました次第でございます

今後は一層親神様を朝に夕に拝し御教えを心の定規とし 世界一列を救けるため どんな節の中も勇んでお通り下された教祖のひながたを偲び 今日 of 遷座を明日からの飛石として跳躍台として 更に地域社会の人々のため真実の限りを尽くして参りますが どうかこれの講社を起点として なされるたすけ一条の道の上にも倍旧のお力添えを賜り 家はもとより隣家に住む 家家族一同も含め人を救けて我が身救かる共存共栄の実が これの周辺に溢れ出て思召下さる陽気ぐらしの輪が広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます

十三 講社新築落成御礼祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な私達子供の上に親心深くお働き下さ
れ洵に感謝の念に堪えません 殊には 市 区

町 丁目 番地なる 講に於いては 早くより

家族ぐるみ信仰の道を学ばれ 日々陽気に銘々の立場か
ら真剣にお通り下されて居りましたが 長年のつとめこ
こに稔って この度 市 区 町 番地 号な

る 坪の晴れやかな高台の上に木造瓦葺二階建塙棟

坪なる住宅を新築され去る 月 日恙なく移

転を完了されました

つきましては今日を吉日とその落成の御礼づとめをつと
めさせて頂き 一同打ち揃って改めて親神様の深い親心
に感謝申し上げる次第でございます

更には喜びの今日を新たな首途として木の香新しいこの
住宅を心よく使わせて頂き ます／＼喜びの心を運び喜
びの声をかけ陽気ぐらしの雛形家庭となって その理を
周囲にうつし進んでにをいがけお救けにも心を配って
親神様の思召にいよ／＼添わせて頂きたいと念願させて
居ります

どうか親神様にはます／＼ 家の家族の上には

もとより 講を通してなされる人救けの上にも充

分お働き下され 一日も早く真正の平和世界が訪れます
ようお導きの程を慎んで御願ひ申し上げます

十四 講社鎮座祭祭文

これの新床に只今嚴かにお鎮り下さいました　くにとこ
たちのみこと　をもたりのみこと　くにさづちのみこと
　月よみのみこと　くもよみのみこと　かしこねのみこ
と　たいしょく天のみこと　をふとのべのみこと　いざ
なぎのみこと　いざなみのみことなる親神天理王命の御
前に慎んで申し上げます

人間の陽氣ぐらしをひたすらにお望み下さる親神様には
日夜み心の限りをつくして子供の成人を促され且つお育
て下さいます思召の程　まことに感謝に堪えません　この

家の人々も早くから奇しきお手引きを頂いてその
思召を聞き　御教えの理を心に治めて日々喜び勇んで御
恩報じの道に　お連れ通り頂いております御慈悲の程
思えば誠に勿体なく有難い次第でございます

就きましてはこの　都　区　なる家屋を

様が購入されました喜びの機会に　分教会

長なる母上とも談じ合いを重ねてこの奥床に親神様をお
祀り申し上げ　朝夕に親しくお仕えさせて頂きたいと　今
日のよき日にお鎮めの御祭をとり行わせて頂きました
御前には心尽くしの品々を供えて玉串の取々に御礼申し
上げる状を何卒御心安らかにお受け取り下さいまして
今より後は今日の意義深い悦びを忘れることなく　常に
教祖のおひながたを心に湛えて一段と思召に添わせて頂
けるよう　日々理の御用にも勇んでつとめ切らせて頂く
所存でございます

何卒願う心の真実に尚も自由のご守護を賜り　家人達の心
の成人は申すまでもなく　講社を通じてなされるたすけ一
条のこのお道もいよいよ高く伸び栄えますよう　お導き
の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

十五 講社改築落成奉告祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な成人の道をお連れ通り下され 洵に
感謝の念に堪えません 殊には 市 区 丁
目 番地 号なる 講に於いては 早くより信
仰の道を学ばれ日々陽気に銘々の立場から真剣にお通り
下されて居りましたが 去る 月 日長年のつとめ稔っ
て 居間台所などの改築工事に着手され その後工事も
順調に而かも急速に進みここに一切のふしんが美事に竣
工いたしました

つきましては今日を吉日とその落成奉告祭をつとめさせ
て頂き 一同打ち揃って改めて親神様の深い親心に感謝
申上げる次第でございます

更には喜びの今日を新たな首途として木の香新しいこれ
らのふしんを心よく使わせて頂き ます／＼喜びの心を
運び 喜びの声をかけ 陽気ぐらしの雛形家庭となってそ
の理を周囲に移し進んでにをいがけお救けにも心を配っ
て親神様の思召にいよ／＼添わせて頂きたいと念願され
ております

どうか親神様にはます／＼ 家の家族の上にはもと
より 講を通してなされる人救けの上にも充分お働
き下され 一日も早く真正の平和世界が訪れますようお
導きの程慎んで御願ひ申し上げます

十六 神床改築鎮座祭祭文

これの新たな神床を清らかに払い清めて今し厳かにお遷し申し
お鎮めいたしました くにとこたちのみこと をもたりのみこ
と くにさづちのみこと 月よみのみこと くもよみのみこと
かしこねのみこと たいしよく天のみこと をふとのべのみこ
と いざなぎのみこと いざなみのみことなる親神天理王命の
御前に慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な私たち子供の上に限りない親心をおかけ下
され洵に感謝の念に堪えません

殊には 市 区 丁目 番地 号なる 講で

はそれぞれ早くから親神様のお引寄せに与かり教人としてよふ
ぼくとして又信者としてお育て下さり幾重の節もお蔭様で越え
させて頂きましたが この信仰の喜びを尚一層世の人々に少し
づつでも映していきたいと念願いたしております

親神様におかれましては救け道場の出張場所として又家の守り
神として長くお鎮まり頂きましたが その御社も時が経ち年月
が過ぎるに従って古くなりましたので 今まで以上の成人を期
する上からも御本部の 礼拝場ふしんの上棟式を旬としてこ
の月この日の今宵木の香も新しい神床にお移り頂きました

今後は益々親神様の御教を心の定規として教祖の五十年のひな
がたを日常生活の中に生かしつつ 先祖の霊様にも一層感謝申し
上げ時旬の御用は心の限り力の限りつとめさせて頂きたいとお
誓い下されておりますがこの 講を拠点としてなされるた
すけ一条の道の上には珍しい不思議なお働きを賜り 尚講社につ
ながる人々が混迷の世界を明るくする一灯となって これの周辺
に思召し下さる陽氣ぐらしの実が次々と拡がって参りますよう
お連れ通りの程を 一同に代わり慎んでお願い申し上げます

十七 神実様鎮座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお鎮まり下さいました。くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさづちのみこと 月よみのみこと くもよみのみこと かしこねのみこと たいしよく天のみこと をふとのべのみこと いざなぎのみこと いざなみのみことなる親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には片時の休みもなく私たちの上に深い親心一条にお働き下されお蔭で毎日明るく陽気に暮らせて頂き洵に感謝の念に堪えません殊には 市 区 町

番 号に住まわれる 氏は の教会後継

者と学舎を同じくし学友の立場から早くより教会に出入りし自然と信仰が身に付き三ヶ月の修養科も楽しく終えられておりましたが ご家族のご理解も深まりここに旬満ちて 真柱様のお入り込み記念とも思われる

この月この日よき今宵神実様を只今鎮座させて頂く運びと相成りました

これより後は益々かしものかりものの理を心に強く治めひのきしんの実践に励み喜びに明け感謝に暮れる なるほどの家庭を目指し 先祖の御霊様方にも一層敬慕の情をつくし 世界たすけの旬々の御用にも心の限り力の限りつとめさせて頂きたいとお誓い下されておりますが この講社を拠点としてなされるたすけ一条の上には珍しく不思議なご守護を賜わり 尚これの周辺に思召下さる 陽氣ぐらしの実が次々と拡がって参りますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

十八 講社神実様並に霊様鎮座祭祭文

これの新婚住宅の新たな神床に改めて厳かにお鎮り下さいました
くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさづちの
みこと 月よみのみこと くもよみのみこと かしこねのみこと
たいしよく天のみこと をふとのべのみこと いぎなぎのみこ
と いぎなみのみことなる親神天理王命の御前に 併せて 今
日のよき日静かにお遷し申しました 家先祖の霊 故

大人之霊 故 刀自之霊 故 大人之霊 故

刀自之霊の御前に慎んで申し上げます

親神様には私達人間の上に片時の休みもなく親心深くお働き下
されお蔭様で毎日明るく陽気に暮らせて頂き感謝の念に堪えま
せん 殊には 講の講元なる 氏は去る 月

日 氏と芽出度く婚姻の式を挙げられこれの 都

区 町 番地 号に新世帯を構えられましたがこの喜

びづくめの機会に親神様教祖の大恩へのご恩返しはもとより
血のつながりによる先祖への 心新たに親孝心の真実を積み上
げるべく講名を 講と改称し 講元を主人の 氏に変更
し 家の先祖の霊様を只今お遷し申し朝な夕なその御恩に報
いる努力をお二人でお誓い下されたのでございます

これより後は一段とめい／＼の心のふしんに励むと共に 学校に
於ける子弟の教育を芯とし広く地域社会の幸せを増進すべく
にをがけおたすけを通しての理の上の成人にも心掛けて頂きま
すが どうか親神様にはこの一同の真心を充分にお受け取り下
さいましてこれの周辺に陽気ぐらしの実が次々と拡がって参り
ますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

十九 ○○家神実様遷座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお遷し申し
お鎮め申しました親神天理王命の御前に慎んで申し上げ
ます

親神様には朝な夕な私達子供の上に親心深くお働き下さ
れ洵に感謝の念に堪えません

殊には長い間静かな で講社祭をされておりました

た夫妻は 勤務先の変更からこれの 市なる に

移転され 幸い夫婦共々教壇に立つという御守護に浴し

漸く生活も落ち着いて参りましたので お二人の結ばれ

た○○日を記念し 今日(きょう)の吉き日の今宵元(こよひ)一日(いちにち)を振り返(かえ)

り新たな門出(かどで)をすべく神実様(かみまさま)を只今(ただいま)遷座(せんざ)し鎮座(ちんざ)させて頂(いた)

いたのでございます

教え導(みちび)く生徒達(せいぢたち)は均(ひと)しく親神様(おやがみさま)の可愛(かわい)い我が子(こ)であり相(あい)

互(たが)いは国境(こくきょう)も民族(みんぞく)も越(こ)えて睦(むつ)び合(あ)うべき兄弟姉妹(きょうていだいまい)

て 而(しか)も皆神様(みなかみさま)の懐(ふとこ)ろ住(すま)いをしており 陽氣遊山(ようきゆうざん)の世界(せかい)づ

くりを目指(めざ)さねばならないという人生(じんせい)の基本姿勢(きほんしせい)を自覚(じかく)

し親(おや)の道(みち)を子(こ)が通(とお)り 上流(じょうりゅう)が下流(かりゅう)に及(およ)ぶという天然自然(てんぜんしぜん)

の理(り)を忘れず ひたすら自(み)らの心(こころ)の成人(せいじん)を期(ま)して参(ま)りま

すが 同時(どうじ)に成程(なほほど)の理(り)は八方(はっぽう)という(と)仰(お)せられたお言葉(ことば)

通り 信仰(しんじょう)を通(とお)じて培(やしな)われた誠(まこと)の道(みち)成程(なほほど)の道(みち)が 職場(しよくば)

地域社会(ちいきしやかい)に溢(あふ)れ出(で)て 神名(かみな)を称(た)える陽氣(ようき)ぐらしの輪(わ)が

年限(ねんげん)と共に広(ひろ)く大(おお)きく拡(ひろ)がって参(ま)りますよう お導(みちび)きの

程(ほど)を一同(ひと)と共に慎(つつし)んでお願い(ねが)い申(ま)し上げます

二十 神実様遷座並に鎮座祭祭文

市 区 町 番 号なる これの神床の木

の香も新しい御社に今し厳かにお鎮り下さいました くにとこ
たちのみことをもたりのみこと くにさづちのみこと 月よみ
のみこと くもよみのみこと かしこねのみこと たいしよく
天のみこと いぎなぎのみこと いぎなみのみことなる親神天
理王命の御前に慎んで申し上げます

人間の陽氣ぐらしをひたすらにお望み下さる親神様には日夜み
心の限りをつくして子供の成人を促され 且つお育て下さいま
す思召の程まことに感謝に堪えません これの 講につな
がる人々も早くから奇しきお手引きを頂いてその思召を聞き
御教えの理を心に治めて日々喜び勇んで御恩報じの道にお連れ
通り頂いております御慈悲のほど思えば誠に勿体なく有難い次
第でございます

この度鉄骨 階建の ビルが新たに落成し既に地階では

商店も面目を一新して再開いたしましたが ようやく
最上階の 住居も落着いて参りましたので 今日の上き日の今
宵 親神様並に御霊様を只今お遷し申し上げ かくの様に鎮座
の御祭を執り行わせて頂いております

今後はます／＼親神様の御教えを生活の定規とし 陽氣ぐらし
のあり方を教祖五十年のひながたの中に見つめつつ 先祖の御
霊様にも朝夕御礼申し上げ 時旬の御用にも精一杯御奉公させ
て頂きたいと念願されておりますがどうか 講を通してな

される世界一列の救けの上には充分のお力添えをお与え下され

商店の賑わいはもとより 家の内々にもまたその親
族の上にも併せて 講社に つながる人々の上にも いよ／＼
一手一つの陽氣が漲りますよう親心深くお連れ通りの程を一同
に代わり謹んでお願い申し上げます

二十一 講社祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

親神様は教祖を通し「世界一列を救けるため天降った」と仰せられました。私たちは早くから教祖の道具衆としてお引寄せ頂き洵に感謝の念に堪えません。その中でも今日の吉き日はこれの△△△△宅の月次祭の日柄に当たりますので、只今から一手一つに明るくたすけづとめを勤めさせて頂きます。

おふでさきに、このみちはどふゆう事にをもうかな
このよをさめるしんじつのみち

とありますが、全人類が待望する陽気世界の大小しんに必要な心は総て誠真実であり、その具体的な行いはひのきしんにをいがけ、おたすけの動きであります。又同時にその最も大切な心使いの基は、いんねんの自覚から湧き上がるたんのうの笑顔でなければならぬとお教え頂いております。

真柱様は「今年是天理教教校開校百年の年であり、おぢばに於ける各種信仰の集いに新しい方々を次々と送り出し、人救けの実働の歩みを更に加速せねばならない」と強調されました。

今後は改めて自らの信仰の元一日から今日に至る長年の丹精を思い起こしまづはおつとめの充実を目指し、家族親族を始めとし、近隣社会の人々に心新たに真実を傾けて参ります。が私達の馳せ巡る先々に不思議不思議の理が見え、思召し通りの陽気ぐらしの輪が更に広く大きく拡がって参ります。ようお導きの程を一同と共に慎んで御願い申し上げます。

二十二 金婚式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
分教会長 慎んで申し上げます

真珠湾攻撃が火蓋となった大東亜戦争勃発の翌年の秋即ち昭和
十七年十月二十日 本部からお許しを頂いたばかりの神奈川の
些かなの御神前で初代会長 夫妻が仲人となり

当時 歳の氏と 歳になる 姉との結婚式

が 厳かに而もなごやかに執り行われました

その後 お二人は厳しい戦争下仲睦まじく励まし合って 新婚

早々の月日を重ねられている中 長女 を授かり 又日本にと

って未曾有の敗戦の大混乱の中 次女 引き続きいて長男

が与えられ 何時しか月移り年去りて早くも半世紀が過ぎ 今日

の茲にお二人とも元気で芽出度く金婚式を迎えられました これ

偏に親神様のこよなく温かき大恩 又月日のやしろ ひながたの

親と拝ぐ教祖の御教えの賜物であり の歴史と共に歩まれ

た霊様方の御指導と この参拝場にお座り頂く皆様方の真実の

お力添えのお陰であり 誠に感謝の念に堪えません

今は孫達もそれ／＼立派に成人され幸せな高齢者夫婦としてひ

たすら労わり合い慰め合い 又救い合って思召に近い陽気づくめ

の月日を送り迎えされておりますが 九十歳となっても尚前向き

で たすけ一条の道を貫かれた教祖を改めて身近に求め 数知

れない恵みを受けている地域社会にも酬い切れるよう 一日

生涯の喜び一杯で今後の人生を歩んで頂きたいと思っております

す どうか親神様倍旧の親心をもってお二人の将来を充分にお

導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

二十三 結婚式祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に主礼 慎んで申し上げます

この度 の長男 は親神様の不思議なお働きに
より の次女 と縁談相整い 夫妻を

媒酌人として 今日の日吉き日御前に参出て婚姻の式を執り
行わせて頂く事に相成りましたのでこの由を申し上げ
只今より教祖の御前でお流れを戴き 契りの盃を取り交
わさせて頂きます

このよのぢいとてんとをかたどりて ふうふをこしら
えきたるでな これハこのよのはじめだし
と朝な夕な唱和させて頂いて居りますが 夫は大地を包
む大空のように 妻は万物を生み育てる大地のようであ
れとお教え下されております

二人は今日を人生の新たな門出として 常に親神様の御教
を羅針盤とし どんな中も明るく通られた教祖を身近に拝
し 互いに信じ合い扶け合い つつ なるほどの人 なくては
ならぬ人を目指したすけ 一条の道を力強く辿り 思召下
さる陽気遊山の世界づくりの一翼を精一杯担って参りた
いと心を定めておりますが 何卒親神様には松の緑の色濃
く呉竹の操正しく 梅の八千代の春を重ねて香わしく 玉
の緒の命長く 久しく変ることなく 成人の道をお連れ通り
下さいますよう 一同と共に慎んで御願ひ申し上げます

二十四 結婚誓詞

この度 親神様の不思議なお働きにより 私達二人は
只今契りの杯をいただき 生涯夫婦としての固めをさ
せて頂きました事を 深く厚く御礼申し上げます
ふたりの心を治めいよ 何かの事をも現われる
と仰せいただきますが 今より後 改めて親神様の御教
を人生行路の羅針盤とし 教祖のひながたを辿り
両親を始め周囲の方々に喜んで頂けるようつとめ 二
つ一つの心を持って どんな節からも鮮やかな芽を出
し世の為人の為力の限りつくさせて頂く決心でござい
ます
何卒親神様の広く温かい親心に かくお誓い申し上げ
る私達二人の門出の真心を充分にお受取り下され 共
に白髪をいただくまで 松の緑の色変わりなく末広が
りの人生をお与え頂けますようお導きの程を

新郎

新婦

慎んでお願い申し上げます

二十五 布教門出の誓い

これの神殿にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御
前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様の御守護に依り平成 年 月 日夫婦とな
らせて頂きました以来丸 年の歳月が経ちました お
陰様でその間何不自由なくお連れ通り頂き 又親神様
からの大切なお預かりものとしての我が子 人をも
与えられ誠に感謝の念に堪えません

その中後継者としてのひながたを歩むべく 夫婦共々
どんな小さな事からでも親のかわりを少しでもさせて
頂くようつとめさせて頂いてまいりましたが この度
会長様よりお言葉を頂戴し 尚一層親神様の思召を感
じさせて頂き 又教祖のひながたを少しでもたどらせ
て頂き度く左記なる

東京都 市 町 目 番地 号 荘 号室
を布教の拠点と定めさせて頂き 親子 人日々をい
がけおたすけに励ませて頂き 思召下さいます陽気ぐ
らし世界建設のため精一杯つとめさせて頂く覚悟でご
ざいます

親神様には何卒この心定めのお誓いを十分お受け取り
下さいまして どんな中をも親心深くお連れ通り頂き
ますよう慎んで御願い申し上げます

二十六 単独布教出発御礼共に御願祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

この度親神様の深い親心と不思議なお力添えによりな
ってくる理に恵まれ生かされて 分教会のよふぼく

は隣接する 教区の 市を選んでいよいよ正
真正銘の単独布教に出発させて頂くことに相成りました
顧みますれば教会に生まれ育ち 今年 月 大学を
卒業させていただきましたが 学業のかたわらお道の学
生会のリーダーとして 心の成人に励んで夜も昼もない
明け暮れを過ごして参りました

混迷の世に船出するに際し神名を流すことの使命と誇り
を自らに感じ 世界並の仕事に就くことをいさぎよしと
せず 進んでこの 月より教会長資格検定講習会を受講
し ぢばの理を存分に身に浴びてこの程修了させて頂き
ました

ひろい世界の中なれば 救けるところはままろう

と みかぐらたにも仰せ下されておりますが 私たち人
間の元の親 実の親を知らず我が身が親神様からのかし
ものでありかりものであることもわきまえず 徒らに己
が知恵や力だけをたのんで闇路にさすらっている人々の
数は巷に溢れております

どうか親神様 がこの時この旬に臨み よふぼく本
来の道をまっしぐらに辿ろうとする真実を充分にお受取
り下され 市を拠点としてその周囲に思召の陽気ぐ
らしの灯りが次々とついて参りますようお連れ通りの程
を慎んでお願い申し上げます

二十七 単独布教出発御礼共に御願祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理
王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申
上げます

この度親神様の深い親心とご存命の理を持ってお働き下
さる教祖のお蔭により教祖百年祭に向かつて東西礼拝場
ふしんにかかられるこの旬に は 市に七
転八起の勇を鼓し単独布教に出させて頂き 先ず 講
を結成する事に相成りました

顧みますれば身上の回復を願ってこの に伏せ込ん
で以来長の年限 ひのきしんに にをいがけに又おたすけ
にと道一条の明け暮れを過ぎし 教会活動の一切を手が
けてひたすら成人の道を辿って参りましたが やはり未信
者に神名を流す時間を多く持つことこそよぶべく本来の
使命と 改めてその実践にふみ切ることに相成りました

広い世界の中なれば 救けるところはままあろう
と みかぐらたに仰せ下さっておりますが 私たち人間
の元の親実の親を知らず 我が身が親神様からのかしも
のかりものであることもわきまえず 徒らに己が知恵や
力だけを頼んで闇路をさすらっている人々の数は巷に溢
れております

どうか親神様御本部の神殿ふしんと云う千戴一遇のふし
なればこそ 未開地開拓の道を真一文字に進もうとする
真実を充分にお受取り下され これを機会に○○分教会
全体が布教意欲に燃え上り 思召下さる陽気ぐらしの輪
が 私たちの周囲に格段と拡がって参りますようお連れ
通りの程を慎んで御願い申し上げます

二十八 布教門出の誓い

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

神因縁があったのでしうか 忝けなくもお手引
きを頂き道のよふぼくとなり ここに御恩報じを
念願し たすけ一条につとめきらせて頂く決意を
固めました

私は齡まだ若く人生経験も豊かではありませんが
常に教祖のひながたをたどり親神様のよふぼくた
る誇りを持ち神一条に徹する素直さと勇氣を持っ
て 私の布教地であります において陽氣ぐら
し世界建設のため力一杯進ませて頂く覚悟でござ
います

何卒この心定めのお誓いをお受け取り下さいまし
て今後だんだんのお仕込みを頂き 身も健やかに
未長く御用にお使い頂きますよう

慎んで御願い申し上げます

二十九 商店新築落成式祝詞

掛け巻くも畏き親神天理王命の御前に慎しみ敬い恐み恐みも白さく

この度 市 区 丁目 番地 号なる〇〇講

は親神の奇しく妙なる御恵みを嬉しみ奉り辱けなみ奉りて 長の年月に亘るこれのお道の信仰も慚く稔りなお又

家族親族諸人達の真心からなる親心に支えられ

商店としての家業も日に月に栄ゆく中 今までの店のあ

り様にてはあらゆる点にて不都合となりし為 こゝに

建築主を 氏と定め一同相謀り鉄骨 階建 延

平方米となる普請を 工業株式会社 施工のも

と新たに設け奉らんと事始められしが 工事順序正しく

滞うる事なく彌進みに進みて 今し斯くの状に事成し終

えたるは これ偏に親神の深く厚い手引きと 普請に携わ

れし諸人達の真剣なる努力の賜物なり

こゝを以て今日を生日の足日と新築落成の儀式執り行う

と 先ず事の由を告げ奉らくを 御前に御酒御食海川山野

の種々の味物を置き享成して捧げ奉らくを 甘らに安ら

に聞食し諾い給いて 今日の竣工を新たな門出として

元一日の心にかえり 親神の御教のまに 教祖のひな

がたを辿りつつ いや 一手一つとなりて新たな姿形

にふさわしく家業の道に努め勞づき はた又この建物の

中にて営まれる事務所の仕事の成果を挙げんものと努め

励む心定めなれば 行末の日と月が重なるにつれ彌繁昌

に栄えしめ給い 今日の落成の意義を高からしめ給えと恐

み恐みも乞い祈み奉らくと白す

三十 ハワイ留学御礼御誓祭文

これの 分教会の目標としてお鎮り下さいます 親神天理
王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

この度親神様の深い親心と不思議なお働きにより なってく
る理に守られ生かされて 布教所のよふぼく 君が
愈々ハワイ留学の為 明日午後 時 日本航空 便にて
羽田空港より出発させて頂く事に相成りました

数多い高校卒業生の中から選り出された倅せと それに伴う
重大な責任と使命を強く心に感じつつ 只今から御礼と御誓
いの玉串を捧げて頂きます

だん／＼と何事にもこの世は 神のからだや思案してみ
よ

とおふでさきに仰せ頂きましたが ハワイでの学生生活も
又親神様のふところ住まいの中に営まれ成り立つことを心に
銘じ 安らかに親神様にもたれ既に現地で学んで居ります

の先輩達共に心楽しく勉強してきて頂きたいと願って居
ります 同時に又

この道はどういう事に思ふかな この世治める真実の道
と 思召された親神様の御名を 教祖の栄ある道具衆の一人
として たとい一言であってもハワイの地に流して頂きたい
とお願いいたして居ります

どうか親神様世界一れつ兄弟の目標を高々とかかげながらか
くお誓いし かく申し上げる本人の心の真実を充分にお受取
り下さいまして 如何なる雨風の中も慈悲深くお守り下され
君をとりまく周りの方々の期待にも充分答えさせて頂
けますよう お連れ通りの程を 慎んで御願ひ申し上げます

三十一 七五三祝祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理
教 分教会長 慎んで申し上げます

この度親神様の宏大無辺なお働きにより

の長女 は 七歳

の長男 は 五歳

の三女 は 三歳

になり 今日（きょう）のよき日（ひ） 七五三の御祝（お祝い）の日（ひ）を迎えさせて頂（いた）き
ました

お陰様（かげさま）で毎日（まいにち）明るく元氣（げんき）に飛（と）び回（ま）っており その成長（せいちょう）ぶりを
眺（なが）め 両親（りやうしん）を始め（はじめ）一同（いちどう）こよなき幸（しあ）わせを味（あ）わって下（くだ）さっており
ます

思（おも）えば私達（わたしたち）がぐっすり寝（ね）込（こ）んでいる間（あいだ）も 温（ぬ）み水（す）気（き）五（ご）分（ぶ）五（ご）分（ぶ）
の御守（ごしゅ）護（ご）に浴（よく）し つく息（いき）ひく息（いき）など片時（かたとき）の休（やす）みもなく体（からだ）の
隅（すみ）々（ず）までお見守（みまも）り下（くだ）さっている賜物（たまもの）であり 誠（まこと）に御礼（おんれい）の言（こと）葉（は）
もございませ

この上（あ）は我（わ）が子（こ）といえども その実（じつ）は親神（おやがみさま）様の可（かわ）愛（あい）い子（こ）供（ども）を
お預（あず）かりしているという自覚（じかく）と責任（せきにん）を改（あらた）めて心（こゝろ）に治（おさ）め 陽（よ）気（き）
遊（あそ）山（さん）の世界（せかい）づくりにという親神（おやがみさま）様の人（じん）類（るい）創（そう）造（ぞう）の思（おぼ）召（めし）に添（そ）って
今（こん）後（ご）は一（いっ）層（そう）世（よ）の為（ため）人（ひと）の為（ため）に精（せい）一（いつ）杯（ぱい）の真（ま）実（じつ）を傾（かたむ）けて参（まゐ）りますが
どうか親神（おやがみさま）様（さま）には先（さき）になり後（あと）になり いよ／＼親（おや）心（こゝろ）深（ふか）くお連（つ）
れ通（とお）り下（くだ）さると共（とも）に 今日（きょう）の喜（よろこ）びを持（も）場（ば）立（たち）場（ば）を通（とお）し 広（ひろ）く
地（ち）域（いき）社（しゃ）会（かい）の人（ひと）々（々）に移（うつ）せまますよう お導（みちび）きの程（ほど）を一同（いちどう）と共（とも）に慎（つつし）
んでお願（ねが）い申（もう）し上（あ）げます

三十二 婚約式祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命
の御前に 天理教 分教会長 慎んで申
し上げます

この度 の長男 は 親神様の奇しく妙なる
お働きにより の長女と縁談が相整いましたので今
日のよき日御前に参出で 婚約の御式をかくの如く執り行わ
せて頂いております 近く結婚式となり天下晴れての夫婦と
相成りますが

この世の地と天とを型どりて夫婦をこしらえきたるでな
とお言葉にありますように 夫は大地を包む大空のように妻
は万物を生み育てる大地のようであれとお教え下されており
ます

改めて我が夫 我が妻もその実は生かされて生きる親神様の
可愛い我が子同士であり 又眼に入れても痛くない両親にと
っての大切な息子であり娘であることを自覚し 広い世界に
ただ一人の浅からぬ縁あって結ばれる二人であることを心に
治め互いに信じ合い扶け合って なるほどの夫婦なくてはな
らぬ夫婦となることを目指して 如何なる風雪の中も陽氣づ
くめに今後の人生を辿るよう共々固く心を定めておりますが
何卒親神様には松の緑の色濃く呉竹の操正しく八千代の春を
重ねて梅の香かぐわしく 玉の緒の命長く久しく変わる事
なく成人の道をお連れ通り下さいますよう両家のご家族一同
と共に慎んで御願ひ申し上げます

三十三 お喰初め祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理
王命の御前に天理教 分教会長 慎んで

申し上げます

去る 年 月 日芽出度くこの世に生を

亨けました の長男 君はその後も親

神様の広大無辺なお働きはもとより 家族を始め多く
の人々の温かい親心に守られ極めて壮健に月日を重ね

月 日の今日の上き日 早やお喰初めの御
式をつとめさせて頂くように相成り 誠に感謝に堪え
ません

どうかこれより後も 口にする海川山野のいろ／＼な
食べ物が充分血となり肉となり かしものかりものの
この体を末長くお借り出来ますよう そうしてやがて
は親神様の思召である 陽気ぐらしの世の建設に人一
倍役立つよふぼくとして 素直に明るく 成人させて
頂けますよう お導きの程を一同と共に慎んで御願ひ
申し上げます

三十四 お宮詣り祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

たいないゑやどしこむのも月日なり

むまれだすのも月日せわどり

と仰せ下さいましたが この度親神様の不思議なご守護により 平成 年 月 日 父

母 の長男 が明るい元気な産声を挙げてこの世に生を享けさせて頂きました

お陰様で母子共々壮健であり産後の日経ちも順調で今日は早や一ヶ月の日数を経過しましたので只今より

厚く御礼申し上げるべく 親神様の御前にお宮詣りをして下さいました

この上はこの深い親心にこたえ かしものかりもの教えを一層強く心に治め 親の道子が通る という

厳粛な因縁一条の流れを自覚し 両親はもとより一同もひたすら 心の成人にとめさせて頂きますから

親神様も の上には限りないお恵みをおかけ下され 世界たすけのお道の子供として将又有為なる

社会の子供として 充分に長命の理と末長い多幸の人生をお与え下さいますよう慎んでお願い申し上げます

三十五 厄払祭文

これの神床にめどうとしてお鎮まり下さいます親神天
理王命の御前に天理教 分教会長 慎ん
で申し上げます

県 郡 町

番地に住まわれる

はかしものかりものの恵みを十分に受けこの
度 歳を迎えさせて頂きました お陰様で只今で
は毎日陽気に暮らさせて頂いて居ります しかし

歳と云えば世間では女の厄年とも云われております
誰しも越さねばならない一つの峠であり大切な節であ
ると悟らせて頂きますが お道のものとして この節
から却て解かな芽を出すべく 一層の心の成人をはか
り大きなお役を背に負って勇んで と の神殿ふ
しんに心をそそぎ 引続き打出された上級神殿ふしん
の上にも存分の御奉公を誓わせて頂きます

どうかこの厄年を大難は小難に 小難は無難にお連れ
通り頂き お道を信じる者の光を喜びを却て周囲に移
していきますよう お導きの程を本人に代わり慎んで
お願い申し上げます

三十六 自転車フレーム御被い

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます 日々は親神様のこよなく温かい親心に生かされ守られて 家一同不自由なく明るく暮らさせて頂き 誠に感謝の念に堪えません

この度○○○○所屬 さんは フランスで開催される自転車ロードレースに参加するためしばし親許でくつろがれ 月 日改めて渡仏される事に相成りました

就いてはこのレースに使用するフレームを新しく求められ 只今門出の喜びに大きく胸をふくらませておられますが ここで御被いの御式を心を籠めて勤めさせて頂きます

思えば眼は耳はもとより両手両足など体の一切は親神様からの借物であり このフレームをつける自転車もまた親神様の深い御恵みによる資源によって造られたものであることを自覚し 陽気ぐらしを望まれる思召に添って正しくしかも勇んで使わせて頂きますが さんはレースの一つ／＼を大事にし自力での十分な展開を期すると共に レース中他の選手から与えられる急激な変化にも見事に対応出来るようにと ひとすら願っておられますが 両親も又 我がものと御教え下された心一つを世界一列きようだいの路線を違えず 世の人々の幸せのために使わせて頂きたいとお誓い下されております

どうか親神様にはかくお誓いする真実を充分にお受取り下さいまして この新しいフレームが行くところ動くところ災なく凶事なく いつも健やかに一日々々を通れますようお導きの程を 家の一同に代り慎んでお願い申し上げます

三十七 新車購入御礼並に無事運転御願

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

日々は親神様の深く温かい親心に生かされ守られて ○○家一同明るく不自由なく暮らせて頂き 誠に感謝の念に堪えません

この度長い間種々の御用の上に恙なく使わせて頂いた車が古くなりましたので新車 を購入されその喜

びに改めて大きく胸をふくらませておられますが 今日より長期に亘り運転されるに当り被いの御式をつとめさせて頂きます

思い返せば眼も耳も手足もかしまのかりものでありこの新車を始め一切のものは 人間全体の幸せをひたすら望まれる親神様からの厚い御恵みであることを自覚し 我がのものとお与え下された心一つを 家族も社会の人々も共に睦び楽しむ至福の境地を目指し 先づはよろめく心 ぶつかる心 争う心を自粛し思召下さる陽気づくめの路線に添って清く正しく運転し続ける心を固く定めて頂きますが 今後この新車が東に西に南に北に幾く年幾万料の道を走り巡りましても その行くところ動くところ災なく凶事なく 更にはこの車を通して一層周囲の喜びが増進して参りますようお願いの程を ○○家一同に代わり慎んで御願い申し上げます

三十八 車購入御礼並びに無事運転御願祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

日々は親神様の深く温かい親心に生かされ守られて△△△△も明るく不自由なく暮らせて頂き誠に感謝の念に堪えませんが 過ぐる 年間程心持よく使わせて頂いた以前の車は一寸した不注意からの事故の為廃車の止むなきに至りましたのでこの度中古ながら新車同様の日産 横浜 なるナンバーの車を購入し 改めてその喜びを噛みしめておりますが 今日より長期に亘り運転するに当り心新たに祓いの御式をつとめさせて頂きます

車による大事故が殊の外多い現在 一層深く私達人間の身上は親神様からの貸物借物であり この車を始め一切の物は親神様からの厚い御恵みでありお与えである事を自覚し 自由に使う事をお許し下された心一つを 家族を始め社会全体の幸せを目指し 先づはよろめく心ぶつかる心争う心を自粛し思召下さる陽気づくめの路線に添って清く正しく運転し続ける心を定めておりますが 今後この車が東に西に南に北に幾年幾万料の道を走り巡りましても その行くところ動くところ災なく凶事なく 更には周囲の喜びが深くなって参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

三十九 無事運転御願祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

日々は親神様の深く温かい親心に生かされ守られて ○○家はもとより 布教所に集う道の子供達一同明るく不自由なく暮らさせて頂き誠に有難く厚く／＼御礼申し上げます

この度 君が幸い自動車の運転免許を取得し只今その喜びに大きく胸をふくらませておりますが 新しく買い求めました車を今日より長期に亘り運転させて頂くに当り祓いの御式をつとめさせて頂きます

思い返せば交通事故の殊の外多い現在 眼も耳も手足もすべて親神様からのかしまりものであり 車を始め一切のものは私達人間に対する御恵みであることを改めて自覚し 親神様の切なる思召である家族も社会も共に睦び楽しむ至福の境地を目指し 先ずはよろめく ぶつかる 争うなどの心を自粛し 陽気づくめの路線に添って清く正しく運転し続ける心を固く定めて頂きますが 今後 君がハンドルを手にして東に西に南に北に幾年幾万料の道を走り巡りましても その行くところ動くところ災なく凶事なく更には運転の度毎に一層周囲の幸せが深くなつて参りますようお導きの程を ○○家一同に代わり慎んで御願ひ申し上げます

四十 成人式及び無事運転御願祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理
教 分教会長 慎んで申し上げます

この度 の長女 は親神様の限りなく温
かい親心のもと 両親はもとより兄達を始め先輩の方々の御
好意を受け 二十年の歳月を送り迎え今年芽出度く成人式を
迎えさせて頂き 洵に感謝の念に堪えません

尚その上に 皆様方の好意溢れる御指導を仰ぎ 自動車の運
転免許証を手にする事が出来ましたので 今後恙なく車の
操縦が出来ますよう御願いの御式を併せてつとめさせて頂き
ます

茲に一人前の女性として社会の荒波に船出したとは云え 人
生の嵐は時として強く それに引きかえ船の舵を取る手は弱
く その為に幾度か苦難の節が訪れてくることと思ひますが
常に正しい羅針盤を親神様の御教 ひながたの道に求め 又
先人の貴重な教訓を静かに思い起こして なってくる一切を
喜びに悟り 明るい希望を将来にかけ勇んで前進して頂きた
いと心より願っております

同時に車の運転に対しては 先づはよろめく心 ぶつかる心
争う心などを日常生活の中で自粛し 更には運転の度毎に
一層周囲の幸せが深くなっていくよう真実の助言を重ねて参
ります 親神様には の上にこれから後も珍しい理
の働きを次々にお見せ下さり 持場立場を通して思召下さる
陽気遊山の世界づくりに充分役立ちますようお導きの程を一
同に代り慎んで御願ひ申し上げます

四十一 成人式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様の深く温かい親心に生かされ守られ お陰様で

は二十年の歳月を送り迎え 今年芽出度く成人

式を迎えさせて頂きました。厚く御礼申し上げます

茲に改めて『身はかりもの 心一つが我がのもの』と仰

せ下されたお言葉を味わい 親神様の大恩を忘れず 常

に『ひながたの道』を身近に拝し 手塩にかけて下さ

れた両親を始め先輩の皆様方に充分安心して頂けるよ

う ひたすら心のふしんにつとめたいと決意いたして

おります

ここに一人前の大人として社会の荒波に船出したとは

云え 人生の嵐は時として強く それに引き替え船の

舵を取る手は弱く その為に幾度か苦難の節が訪れて

くることと思えますが その都度 正しい羅針盤を見

つめ直して持場立場を通し勇んで前進させて頂きます

から 親神様にはこれから後も 先になり後になって

御慈悲深くお連れ通り下され 陽気遊山の世界づくりに

充分役立ちますようお導きの程を 慎んで御願い申し

上げます

四十二 成人式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

は親神様の限りなく温かい親心のもと

手塩にかけて下された両親を始め先輩の皆様方の御厚意を受け お陰様で二十年の歳月を送り迎えし 今年芽出度く成人式を迎えさせて頂き洵に感謝の念に堪えません

茲に一人前の大人として社会の荒波に船出したとは云え 人生の嵐は時として強く それに引きかえ船の舵を取る手は弱く その為に幾度か苦難の節が訪れてくることと思いましたが その都度 正しい羅針盤を親神様の御教え『ひながたの道』に求め 併せて諸先輩の貴重な教訓を静かに思い起し 決してひるむことなく明るい希望を将来にかけ勇んで前進させて頂きたいと決意いたしております

親神様には これから後も珍しい理の働きを 次々にお見せ下さり 持場立場を通して 思召下さる陽気遊山の世界づくりに充分役立ちますようお導きの程を慎んで御願い申し上げます

四十三 上棟式祝詞

掛け巻くも畏き親神天理王命の御前に慎み敬い恐み恐みも白さく

この度 市 区 丁目 番地 号な

る 講はも 親神の奇しく妙なる御恵みを嬉し
み奉り辱けなみ奉りて長の年月に亘るこれのお道の信仰
も慚く稔り 商店としての家業も日に月に栄ゆく
中 古く朽ちかけし店を取りこぼち 建築主を
氏となし 一同心を揃え相謀り鉄骨 階建 延

平方米なる普請を 工業株式会社 of 施工のもと

新たに設け奉らんと 過ぎし 月 日土地鎮めの

業つとめ奉りしが 事始めたる工事順序正しく滞うる
事なく彌進みに進みて 今し棟材一取り上げんばかりに
成りにたるを以て 今日を生日の足日と上棟の儀式執り
行うと 先ず事の由を告げ奉らくを御前に御酒御食海
川山野の種々の味物を置き高成して捧げ奉らくを甘ら
に安らに聞食し諾い給いて 家族親族諸人達が諸手に取
る綱根の只一筋に曳き上げ奉る棟材の緩みなくやがて
取付けむもろ／＼の材料の損ない動き鳴る事無く守り
幸え給い 豫め定めたる設計のまに／＼平けく安けく
竣功えしめ給い 併せて形のふしんに伴い心のふしんの
成果もひとときわ高く大きく挙げしめ給えと恐み恐みも
乞祈み奉らくと白す

四十四 ○○家大祓祭詞

此の所に神籠立てて招ぎ奉り令坐奉る掛け巻くも
畏き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉り
家はも朝な夕ないと睦じく明るく暮らさ

れ生業の道も極めて順調に営まれしが お陰様で

ここ 市 区 丁目 番 号なる

宅地 平方米の上に新しく建てられし木造

カラーベストコロニア葺二階建サイディングボー

ド外壁 平方米なる住宅を求められ

今日を生日の足日と大祓の御祭仕え奉り 御酒

御食味物を捧げ奉りて拝み奉らくを諾い聞食し給

いこれより後も幾久しく家族親族共々身も心も

壮健に起き伏し給わむ事はしもとより 雨風の難

み天災地変の災あらむにも揺ぎ損なわるる事なく

波布虫の禍あらしめ給わず 千代万代に堅磐に

常磐に守り幸い給い それ／＼が埃を払い心を澄

まし 持場立場を通し更に世の為人の為につとめ

労かむとする 家の陽氣ぐらしの姿を周囲

の社会に次々と移し給えと恐み恐みも乞い祈み奉

らくと白す

四十五 長寿祝祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様の長年に亘る心づくしのお陰により今度

様は 八十八歳の米寿

様は 七十七歳の喜寿

様は 七十歳の古稀

様は 六十歳の還暦

の お祝いをともども健やかに迎えさせて頂きました事はこの上もなく有難く心より厚く御礼申し上げます

月日には人間創めかけたのは 陽氣遊山が見たいゆえから
また かりもの分かれば扶け合いの心浮ぶ

と仰せ頂きましたが 今日までお連れ通り頂いた大恩を改めて心に銘記し 今後は更にこの深いご恩に報いるべく親神様の思召に添い 命のある限り前向きで ひたすら教祖ひながたを身近に拝して 一段と旬の御用に勇み立って参ります

私達の周囲にはかりものの身上である事も知らず またこの世が神の懐住まいであることも弁えず 我が身我が家の幸せを一途に追い求めて血眼になっている人達ばかりが溢れております 私達が折角学ばせて頂いた教理を生かし あの日の時を越えた数々の人生経験を語り草として取次ぐことは年を重ねた私達に課せられたむしろ使命であると自覚いたします どうか親神様 今後は一層この使命が充分に果たせますよう お導きの程一同と共に慎んで御願い申し上げます

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

教典第一章に“世界中の人間は、我が身思案に頼って、心の闇路をさまようている。それは元なる親を知らず、その心に触れないからである。”と記されていますが 私達は早くからお道にお引き寄せ頂いたお陰で なってくる一切に親神様の温かい親心が感じられ 日々明るく陽気に暮らさせて頂いております

その中にも今日の吉き日はこれの△△△△家の月次祭の日柄に当たりますので 日頃の御高恩に感謝し 只今から一手一つに勇んでたすけづとめを勤めさせて頂きます

さてお言葉に“誠々々 天然自然の道がつく”とありますが 私達よふぼくに光り輝く信仰があれば 自ら親から子へ 子から孫へと末代かけて信仰が伝わり 又友人から職場へ近隣へと神名が流れてゆき 各よふぼく家庭から必ず別席者が生まれてくるものと信じます

その為には先ず私達が ひながたの道の確信たるおつとめの充実を期し 同時に混迷の社会の中で 神の理を顕揚する親里や上級ふしんに真実の伏せ込みをさせて頂くことであると自覚致しております

どうか親神様には 次の塚である○○分教会の創立○○周年を目指して かく誓う一同の真心を充分にお受け取り下さいまして 私達の行く手を一層力強くお導き下さいますようお願い申し上げます

四十七 講社祭三

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

私達は早くからかしかものかりもののご教理を学ばせて頂いたお陰で「今日も眼が見える耳が聞こえる」と感謝しながら日々心の成人に励んでおりますが その中にも今日の吉き日はこれの△△△△家の月次祭の日柄に当たりますので 只今から一手一つに勇んでたすけづとめを勤めさせて頂きます

さて教祖は五十年の間あらゆる人間思案を断ち神一条の道を貫かれ 万人救かる”ひながたの道”をお遺し下さいましたが 神一条の道とは親神様の思召通りの道であって その方向は ”世界中みな一列は澄み切りて 陽気づくめに暮らすことなら”

のお言葉通り いつも仲良く談じ合って 人間全体が陽気ぐらしをすることであると信じます 尚”皆勇ましてこそ真の陽気と云う”とおさしづにありますが 自分一人が陽気づくめの心になっても 一緒に暮らす周りの人々も笑顔でなければ 私達は真の陽気ぐらしを味わうことは出来ません

今日の祭典を通し改めて信仰の喜びを深め 先ずは我が家が喜び溢れるよふぼく家庭になるよう心がけ 更におぢばや上級への真実の伏せ込みと共に 地域社会の人々の暗い顔に 明るい笑顔を刻むよう にをいがけお救けに精一杯努めさせて頂く決心でございます

どうか親神様には このように誓う一同の誠心を充分にお受け取り下さいまして 私達の行く手に不思議不思議の理をお見せ下さいますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

四十八 入園入学入社御礼お誓い

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様の親心あふれるお働きのお陰により麗らかなこの陽春四月幼稚園や保育園に入る園児達は

小学校入学の児童達は

中学校入学の生徒達は

高校入学の高校生は

大学短大及び専門学校に進学する学生達は

更に学業を終え新たに就職する者は

であり一人一人明るい希望と決意に胸ふくらませてその心準備を致しておりますが 只今から親神様の御前に進み出でお礼とお誓いの参拝をさせて頂きます 家族一同子供達の先頭に立ち一段と自らの心の成人を計り 親神様の思召 ひながたの道に沿って陽気ずくめの社会作りに更に眞実を傾けて参りますが どうか親神様には夢多い子供達の将来を一層力強くお守り下され清く正しく明るくお育て下さいますよう一同と共に慎んで御願い申し上げます

四十九 講社教祖に捧げる祭文

御存命の教祖に慎んで申し上げます。この四月十八日は二百回目の御誕生日まことにお芽出度うございます。

思えば教祖は人間創造の母胎としての魂のいんねんの上から全人類を可愛い我が子と思し召され、四十一才より九十才に至るまで実に五十年に亘る長い年月、月日のやしろとなって、この世治める真実の道^をを明かされ、人生航路の羅針盤をお与え下された許りでなく、ひながたの親となって如何なる厳しい苦勞の中も、自ら歩いて陽氣ぐらしの出来る通り方を、お示し下さいました。更には私達子供の成人をひたすら望まれ、二十五年の御寿命を縮められ、やしろの扉を開き、肉体の拘束を越えて、末代かけての世界救けに門出されました。ところが私達は、ついつい我が身我が家の思案が先立ち、世界並同様の日常生活となり、教祖が遠くなって、折角お引き寄せ頂いたご期待に添いかねている申し訳なさを、今更の如く痛感致しております。

改めて「ひながたの道より道無いで」と仰せ下されたお言葉を心に体し、日々かきものかりものの感謝を深め、なっていく一切を喜べる境地を学び、何時でも何処でもひのきしんの実践に励み、成程の人となって、地域社会に神名が流れ、教祖がお待ち下さるおぢばへ、周囲の人々を次々にご案内させて、頂けるよう真実の限りを傾けて参ります。どうか教祖、かく誓う私達を心ゆくまでお導き下さいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

五十 講社お預り祭文

これの○○講のお社にお鎮まり下さいます神実様の御前に慎んでお願い申し上げます

今日この日を暫しの別れの日として 尊き講社の理を元の△分教会に預かりすることに相成りましたが この節を通して改めて約五十年前の○○○様の次男△△君が入信早々の純情な姿が脳裏に浮かび上がって参ります 不幸にしてワツシヨイワツシヨイのか細い掛け声を口ずさみながらひのきしんに勇み立ちつゝ、今生の目を閉じられました が 母親を慕う心が人一倍強かった故ではないでしょうか！

その母の二十年前からの右足の骨膜炎がものゝ見事に救かりこの奇跡に感謝し 早速修養科に入り七き△△君を偲びつゝ、二人分の授業を受け 二人分のひのきしんに励まされた元一日が かくて親神様の極めて純真なよふぼくとなられ いち早く講社を結成し昭和五十年静かに出直されました その後 はご長男○○様ご夫妻がお道の信仰を継承されて今日に至り ○○分教会では珍しいダイヤモンド婚式となる程の家庭生活を楽しまれ 昨年静かに共に眼を閉じられたのであります

今日この日を境として 若い人々は信仰前に姿に返って くれからの人生を歩む予定となり 万止むを得ず神実様をお預かりすることに相成ったのでございます

どうかそれでも今後とも折角の今日までの信仰を生かし おつとめの御声は聞こえなくなっても 生涯陽気ぐらしの世界建設を瞼に描き 家族皆が仲良く相救け合ってお通り下さいますよう 心からお祈り申し上げます

五十一 祓詞

掛卷くも畏き親神天理王命の宇豆の御前に恐
み恐みも白さく

今し故天理教△△分教会○代会長△△△△

大人の遷霊 爰葬の業に仕え奉る教人信者又

家族親族諸人等が意わずも犯しけむ心違に

又見触れ聞き触れけむ埃等のあらむおば 朝の

御霧夕の御霧を朝風夕風の吹きはらす事が如

く麻のさやぎのさやさやに祓い給い清め給い

て斎員等もろもろ手のまがい足のまがいあら

しめ給わず遷霊爰葬の業、元来たがわず美わ

しく仕え終えしめ給えと恐み恐みも白す

五十二 遷霊祭詞（布教所長）

あな悲しあな淋しあな悼ましきかも故天理教△△△布教所長
△△△△大人御遺骸の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく
あわれ汝大人はや遂にかしものかりものの現身を脱ぎ捨てて
長の年月住み慣れし懐かしきこれの現世より口惜しくも出直
しましけり
百年千年の年を重ねて世の永人長人の名を負い給わむ事をし
家族親族は更なり汝大人を知る諸人達も常に頼しみ思いつつ
ありしを 厳しき寒さの冬も去り漸く麗らかなる春を迎えし
この○月 体に異状を覚えられ程近き△△△病院に入院され
しが 幸いにも手厚き医療の甲斐ありて温かき我が家に退院
されたり 汝大人は既に昨年○月には古稀の祝も済まされし
後 半生ながら今暫くは老後の樂しみを子供達と共に十分味
わわれむ事をしひたすら願いてありけるを 去る○月○日再
入院の止むなきに至り結果は予想を超えた身の衰え強く 俄
かに朝を迎え夕を過ごす力も尽き果てこの年この月○日午
後○時半御病改まり○○歳というを生きの涯りと親神のふと
ころの中とは云いながら遠く遙けき旅路に出て立ち給いぬ
あな悲しあなくやし 然はあれども今更に限りある人の力の
得て及ぶべきにあらず 遺れる家族親族並に諸人等謀り定め
て定まれる式のまにまに歎かい悲しみつつも 今宵しも遷霊
の典儀厳かに仕え奉らむとする由を甘らに安らに聞食し諾い
給いて汝が靈はし新たに造り備えるこれの靈代に静けく穩に
しばし遷り留まり坐せと恐み恐みも白す

五十三 鎮靈祭詞

これの小床を仮の靈舎と天の菅曾の清々しく袂い清めて今し鎮め奉り斎
い奉る故天理教△△分教会長△△△△大人の靈の御前に慎しみ敬い歎
かいて白さく

空蟬の人の世は果敢なく定め難きものにして我がものと思うこの身一つ
さえかしかものかりものとは知りつれど 親神は現世での陽氣ぐらしを目
標とされ尚百十五歳を定め命と約束されておりしを汝大人の昨日に変
わる今日の御姿を見奉りては誰かは驚き嘆かざらむなどてこれの分教会
を退向になして かくはあわただしくも出直しまししぞ あな悲しあな
悔し今は早や汝大人の笑ましき面影を見る能わずああ汝大人の明るき御
声に再び触れることなし

思い返せば汝大人は日本海の波打つ静かなる○○の町に生を亨けられ
疾風怒濤の世とも云うべき大東亜戦争中の昭和十九年学舎を終え終戦後
間もなく東京なる△△商店を振り出しとして関東の人となられ 以後は
ブロック工事を専業とされたり やがて波高き人生航路の羅針盤を我が手
にせむものと 聖地おぢばにて三ヶ月の修養科に学ばれ程なく上級○○の
親会長様方の親心溢れるお世話取りを受け 昭和○○年の春芽出度く
故△△刀自と親神の御前で結婚式を挙げられ その後には次々と子達孫達
に恵まれ併せてその幸せを地域社会に及ぼすべく△△分教会を新たに
開設されたり ああされど如何なる思召ならむ凡そ三十七年に亘る長の
年月△△家の台となり芯ともなられし心優しき妻が夫△△大人に深く厚
く感謝しつつ俄かに六十五歳にて来世に旅立たれようとは

汝大人はかかる大節を越え今日に至る三年半はいわば淋しき男やもめの
一日一日なるも朝に夕に逆境の中の光りとも云うべき ひながたの道を
慕いつつひたすら子達孫達の行く先を樂しみ 或いは又△△分教会の
内容充実を只管乞い祈み奉られしに . . .
げに現世に生まれ出づるも出直すも事ごとに親神の御量にしあれば 今
更に歎き悲しむも効無きことと明日を御葬の日と斎い定めて 今宵しも
新靈をこれの靈代に斎い奉り鎮め奉り御前に種種にの物を備え奉りて拜
み奉らくを聞食し諾い給いて 今ゆ後家族親族はもとより道の子たち一
同を八十連綿五十彊八桑枝の如く向坂に立ち栄えしの給えと 正面に飾
られし額の写真に在りし日の御姿と功績を偲び露けき袖の涙をしぼりつ
つ恐み／＼も白す

五十四 鎮靈詞（水子）

これの小床を清々しく被い清めて只今静かにお迎え申
しました△△△△の水子之靈に慎んで御願ひ申し上げ
ます

思えば汝が靈は年変わり青葉の緑も漸く濃く色づく頃
この世に明るく健やかな産声を挙げられむものと家族
一同楽しみに致しておりましたのに 汝が靈が母親の
思いもよらぬ大節から出生の喜びを見ることなく去る
○月○○日未だ二ヶ月の水子のまま惜しくも出直され
ましたことは 誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます
ます

幸い母親はまだ春秋に富み人生を通り直せる二十三歳
の若さ故 この悲しき出直しの節から鮮やかな芽を出す
べく 親神様の御教えを人生航路の羅針盤とし如何な
る逆境の中も人たすけ一条に明るくお通り下された教
祖を身近に拝し 人の為世の為に真心の限りを尽さむも
のと固く心を定めておりますが 汝が靈は心持ちよく
衣を換え改めて来世を迎えられ 命長く思召通りの陽気
ぐらしの人の世を心ゆくまでお味わい下さいますよう
露けき袖の涙をしぼりつつ一同と共に慎んで御祈り申
し上げます

五十五 発葬祭詞

これの小床を仮の喪屋と齋い定めて暫し置き据え安め奉る故天理教△△布教所長△△△
大人の御柩の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく
久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く春山に咲き乱れる花の梢にも
吹き荒ぶ嵐の嘆きある如くあわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わずまだ
心残れるこれの現世を退向になされしは悲しとも悲し口惜しきとも口惜しき限りにぞある
汝大人はや日本海を臨む若狭湾岸の静かなる街○○で産声を挙げられ多くの家族達の温か
い心に育まれしが学舎に入られし頃ほいより風雲急を告げ支那事変より大東亜戦争に至
る疾風怒濤の時代を少年期に経験されたり終戦後程なく△△商店に勤め勞づく兄と共に働
く身となられしがいち早く世界一列兄弟姉妹の陽氣ぐらしをひたすら望まれる親神の御教
えに触れ人生の眞のあり方を学ばむものと親里ぢばにて三ヶ月の修養に励まれたり程なく
親神の奇しき御働きならむ同じ故郷○○で育ちし故△△刀自と婚姻の晴れやかな御式を挙
げられその後はブロック工事を専業としつつ多くの子宝孫達にも恵まれ些かなながら年毎に
幸せ多き家庭を築かれたりやがてここ○○市の周りに「かしものかりもの自覚」「神の
ふところ住まいの有難さ」から逆る心の成人を促し互い立て合い助け合いのこの世に
いささか乍ら資せむものと昭和○○年布教所開設の意義深き旬を迎えられるに至るその
後妻△△刀自は進んで家政婦となられ病床に悩み苦しむ人々への看護に明け暮れされる身
となりしが俄かに重い御病に伏され遂に平成○年五月予想だにせぬ来世に向かつて早くも
門出されたりそれから今日に至る三年半男やもめの淋しさを越え遣れる子達孫達への妻
の愛情に代らむものと尚又たすけ一条の道の上にも努力に努力を重ねられしにああ
空蟬は術なきものか俄かに汝大人も又厳しき御病の床に釘付けとなり遂に親神に祈りし甲斐
もなく医師の業も尽き果ててこの年この月○日午後○時半を生きの限りとして逝く水の還ら
ぬ如く入る月の影消ゆるが如く俄に朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わ
む術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも
今日よりは汝大人の言葉聞けずやなりけむ明日よりは優しき御姿永久に見えずやなりけむ
と雨雲の空かき曇る心地なもするを身退かりし人の蘇るべくもあらず今は一世の終の
式儀仕え奉りて永き別れを告げ奉らくを平らけく安けく諾い給いて我が親神の恩恵を
思い頼み百足らず八十の限路を迷う事なく唯一筋に親神のふどころに行き奉りて遺れる
家族親族たちを己が向々あらしめ給わず清きあかいき心もてそれ／＼の立場つとめに勞
づき奉らしめ給い汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立
ち給い汝大人は再び新しき着物を召されていち早くこれの世に出直し給えと遺されし
功績に深く感謝しつつ露けき袖の涙をはらい慎しみ敬いて白す

五十六 告別詞二

これの小床を飯の喪屋と斎い定めて暫時置き据え安め奉る故天理教△△分教会役員△△分教会長△△△刀自の御柩の御前に慎み敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く 春山に咲き乱れる花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きある如く あわれ汝刀自はもかりものという世の慣い得免がれ給わずまだ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しとも悲し口惜しきとも口惜しき限りにぞある

汝刀自は明治の元勳△△△伯爵の孫たる△△△△△伯の胸の病を我が家に引き取りて真実もて看護に当たられし頃 家政婦として派遣されし後の△△分教会二代会長△△△△△を通じてこれのお道に引き寄せられ 不幸にしてその義兄を最後まで看送りし後 汝刀自の弟たる故△△△△△大人の肺病を救けむものと自らは付き添いとして天理教校別科に入られたり 紅白粉をさらりの捨てきんしゃの着物を真黒な教服に着換え朝は朝星夜は夜星を戴き表に出ては竹箒をとりのうちにありてはお手洗いを次々ともてひのきしんに親しまれし ああ汝が刀自の若き日の御姿四十五年前とは云いながら我が瞼に懐かしく焼き付いたり 親里天理の街を道行きながら粗末にされし釘の一本一本を拾われ六ヶ月の後石炭の箱一杯をお包みにかえて甘露台に御供えされしは 慢性の蓄膿症から美事に解放されしは汝刀自の親神に出会われし最初の体験ならん げに「人を救けて我が身救かる、救ける理が救かる」とか背の君故△△△大人を慕いて我が家を訪れ恥も外聞もなく振る舞う女又女の醜態を汝刀自は眼に一杯の涙をためつつ 教祖のおかのかにかけられしひながたを辿りつつ真心なる接待に身を碎かれる中奇しくも汝刀自積年の子宮の重き患いの御守護を頂かれたり ああ汝刀自の前生のいんねんの深さの故にやようやくにして夫婦の中が元一日に帰りし頃△△△大人は又胸の病で此の世を去りたり かくて母屋を払われ世界たすげにかかる赤飯をたかれし教祖の道すがらそのままに 自らの宅を今なる上級の神殿普請に伏せ込まれ 文字通りの零から出直し○○寺○○を

中心をして南無天理王命の神名を流されたり ああ偉なる哉汝刀自一人の女性の身をもって遂に△△分教会を設立されたり これの木の新しき神殿のあの隅この隅にも四十年に亘る汝自身の全力投球の苦勞が伏せ込まれたり されどその中を終始笑顔をもて貫かれしがおぢばがえりの団体列車を一両づつ先頭から後尾に至るまで赤たすき赤腰巻きでどじょうすくいをしながら歩かれし陽気あふるる御姿 これの小床の写真の中に秘められたり

あわれ空蟬の世は定め難きものか家族親族及△△△につながらる道の子達と共にひたすら親神に乞い祈み奉り元の如く壮健なる体に帰りまさんことをし願いけるにその甲斐もなく医師の業もすべて尽き果てて この年この月○日齡○○才を生きの涯りとこれの神殿普請を来世につづく花道として逝く水の還らぬ如く入る月の影消ゆるが如く惣ちに朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わむ術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも

今日よりは教の理を取り次ぐ汝刀自の言葉了えずやなりけむ明日よりは教祖のひながたを辿る汝刀自の御姿永久に見えずやなりけむと雨雲の空かき曇る心地なもするを

人々暗夜に灯火を失うが如く漂う船の舵なきが如く憂い惑い枕辺に棲這い脚辺に匍匐い嘆き悲しみ慕い奉るも現世の人の理なれど 身退かりし人の蘇るべくもあらず今は御教えの定め式のまに／＼一世の終の式儀仕え奉りて永き別れを告げ奉らくと御前に御酒御食海川山野の味つ物を捧げ奉りて事の由を告げ奉らくを平らけく安けく諾い給いて我が親神の思恵を思い頼み百足らず八十の隈路を迷う事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて 遺れる嫁や孫四人を始め親族はもとよりこれの△△△につながらる△△△布教所以下道の子供達を己が向々あらしめ給わず清き赤き直き心もて先ずは眼先に迫れる教祖九十年祭みふの仕上げのつとめに働き奉らしめ給い汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立ち給い 汝刀自は再び新しき着物を召されていち早くこれの世に出直し給えと上級に對する本席的功績を深く感謝しつつ露けき袖の涙をはらい謹み敬いて白す

五十七 誄詞

これの小床を飯の喪屋と齋い定めて暫時置き据え安め奉る故△△△△大人の霊の御前に慎み歎かいて白さく

あわれ現世の人の世は果なく定め難きものとは知りつれど汝大人の昨日に変わる今日の御姿を見奉りては誰かは驚き嘆かざらむ

汝大人は日本海に臨む○○の港に生を亨けられ 春秋に富む弱十六才にして京都なる呉服問屋に就職され 程なくその輸送部の勤務としてここ横浜に出られしが

何時しか年月は流れて五十有余年を経したり その間に関東大震災を味われ或いは又二人の我が子△△大人△△大人を失われ事は長い一生の最も厳しきふしにしあら

む されどこれ等のふしにもめげず何時までも若い人の如き熱も勢も七転八起の店の経営に身を挺し只管メリヤスや布地などの商業もて人世の為にいたづき前世

よりの深き因縁に引き誘われ家の内に大いなる波風を見て後は只一条にふしから芽を出すことの望みに胸をふくらませ 底つくさんげの道を加えつつ修養科 講習な

どの学会に身を置き親神の御教えに耳を傾け 教祖九十年のしんどの中にある実を学び遂には△△分教会の二代会長となり後 半生をたすけ一条に男の眞実をそそぐべ

くようやくその途上につかれしが ゆきりなくも重き御病に見舞われ給い遂には去る九月の初め○○療養所に入院されたり ここを以て親族家族心を揃えて只管親神

に乞い祈み奉りその心の立替成人を期せしがその甲斐もなく医師の業もすべて尽き果てて この年この月○日 齢七十一才を生きの涯りと逝く水の還らぬ如く入る月の

影消ゆるが如く惣ちに朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わむ術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも

今日より後はその明るい御声に接すること叶わず いそ／＼とこまめに立ち働かれし御姿を眼の当たりにするすべもなし さわあれど二人の女子達もそれぞれ学び舎を

終え最早自らの力もて人の世に首途する順序もつき大人がこの世の仕事も殆ど完成されたり 今は現世の定めと限りしあれば明日を御葬の日と齋い定めて今宵しもこ

れの霊舎に齋い奉り鎮め奉り御前に御酒御食種々の味つ物を捧げ奉りて拝み奉らくを甘らに安らに聞食し諾ひ給いて 今より後これの△△分教会に打群れ集う道の子た

ちを始め○○家につながる親族家族の守護神として鎮まり坐し 汝大人は暫し親神のふところ安らに抱かれ給いやがては身も心も健やかに再びこれが世に出直さん

事と深く心に祈り 更には又上級○○分教会誕生のつゆ払いとなり先導となられし大人が生涯のいさおしを眞心もて感謝しつつ 恐み恐みも白す

五十八 発葬詞

これの小床を仮の喪屋と齋い定めて暫時置き据え安め奉る故天理教△△分教会初代会長△△△△大人の御柩の御前に慎み敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く 春山に咲き乱れる花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きある如く あわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わずまだ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しとも悲し口惜しきとも口惜しき限りにぞある

汝大人はや戦前二十三歳の若さで早くも○○町に店舗を構えられ 戦後はいち早く魚加工場を開設し程なく○○町商店街会長並びに○○区食品組合長等の要職に就かれしが一方 上級△△の草分けの信者故△△△△刀自の孫又故△△△△刀自の娘たる△△△△姉との縁から故二代会長△△△△刀自を知る身となられたり 入信早々長女△△△△若子の出直しという大節の懺悔から講社祭を月二回勤めたいと要望なされ店先に立たれし人毎に天理教のお話を取次ぎ「天理教の△△さん」と呼ばれるようになられしが 自動車事故で無い命をおさづけの理を受けて奇蹟的に救からられてからは折角の店舗を心から放し ひたすらにをいがけおたすけに奔走される中 遂に△△分教会設立という価値深き偉業をなし遂げられたり 再来約四十年東に病人の家を訪ねてはおさづけの理を取り次ぎ 西に家庭事情に悩む人々を訪れ親神の親心を伝えられしが 未熟な布教師のたど／＼しい歩み故何時も苦勞がちでありしが「共に暮らす家内や子供達には長い間どれ程つらい思いを与えたか知れない万感胸に迫る今日この頃だ」と後日本人は述懐されたり 教会名称の理と共に初代会長の道すがらは末代に輝くものではあるが △△分教会並びに△△分教会の道の台として現在二人の娘をお使い頂くと共に これの教会の二代会長△△氏を芯として△△の道に遺されし多くのよふぼく信者達が汝大人の心を改めて自らの心とし これからのたすけ一条の道を一手一つに押し進められむとする眞実を受けられ 今は御教えの定め式のまに／＼一世の終の式儀仕え奉りて永き別れを告げ奉らくを平らけく安けく聞食し諾ひ給いて惑う事なくためらふ事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて抱かれ奉りて 家族親族たちを己が向々あらしめ給わず清き赤き直き心もて それ／＼の道につとめ勞き奉らしめ給い汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立ち給い 汝が大人は再び新しき着物を召されていち早くこれの世に出直し給えと露けき袖の涙をはらい謹み敬いて白す

五十九 講社祭一六五

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

“この道はどふゆう事に思うかな この世治める真実の道”
と仰せ下さいましたが 私達は早くから教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き 洵に感謝の念に堪えません その中にも今日の吉き日はこれの△△△△の月次祭の日柄に当たりますので 只今から一手一つに明るくたすけづとめを勤めさせて頂きます

さて去る御本部の秋季大祭に於いて 真柱様は”『論達第一号』を發布して以来早や三年が経ちましたが この三年の間に二十世紀から二十一世紀に入り 戦争の世紀は終わったと云われる一方で 先頃は早くも極めて不安な事件が起こり 一列兄弟姉妹とお聞かせ頂く 人間同士が激しく戦い傷つけ合う姿が 今も尚世界の各地で絶えない事は誠に痛ましい限りであり 親神様もさぞかしお心を痛めて下されていること、拝察致します”と仰せられました

“はやばやと心そろをてしっかりとつとめするなら世界をさまると”のお言葉を改めて強く噛みしめ 一層真実を込めて日々 月々のおつとめ 同時にをやの思いを世界に伝える努力を一手一つにせねばならないと自覚致しております

私達は教祖直々に夫婦のあり方 親子の間柄 人々との接し方など 陽気ぐらしの世界の基礎とも云うべき人間関係のあり方を懇切にお教え頂きましたが 徒らに疲れ 迷い悩む世の人々に 真実のをやの声を伝え たすけの手を伸ばすべき私達の責務 急務を心に強く抱きしめ 今後は一層真実を傾けて参りますが どうか思し召し通りの陽気ぐらしの輪が 更に広く大きく拡がって参りますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

六十 元旦祭十三

これの名称の理に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の温かい御守護はもとより御存命の教祖の深い親心に導かれ 茲に目出度く立教一六四年平成十三年の新春を明るく迎えさせて頂き一同慎んで寿ぎと共に御礼を申し上げます

顧みますれば昨年は教典公布五十年の記念すべき年であり 尚上級創立〇〇年の年にふさわしく 教典の理解とひのきしんの実践を主たる合言葉として通らせて頂きました お陰様で一人ひとり日常の暮らしの中で自分の成人はもとより 土地所に成程の理を映すよう互いに励まし合って努めさせて頂きました

茲に新玉の年を迎え 御前に千代の若水 鏡の餅に至るまで横山の如く御供申し 只今から鳴物の調べ美しく 一同心を一つに揃え声高らかに元旦祭を勤めさせて頂きます

さて一年後の来春早々には当教会は創立〇〇周年を迎え 引き続きいて秋には大教会の百十周年をつとめることに相成っております そこで改めて教会設立の元一日は 立教の元一日の理を受けて 世界一列救ける為であり その具体的な通り方は教祖が辿られた”ひながたの道”五十年を通して 親しくお教え下さっております 今年はその道”教祖伝を熟読し 真の親心を学び ”尚” 一日一枚のパンフレット配りの実現を ”全員が心揃えてつとめさせて頂くよう誓わせて頂きました

親神様には何卒この心定めを充分にお受取り下さいまして この上とも自由用の御守護鮮やかに 人を救けて我が身救かる共生の幸せをお見せ下さり 私達の周辺に思召される陽気ぐらしの輪が更に広く大きく伸び拡がって参りますようお導きの程を年の始めに当り一同と共に慎んでお願い申し上げます

六十一 除夜祭十二

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の廣大無辺な御働きにより 立教一六三年の今年もお陰で一同励まし合い助け合いつゝ、明るく通らせて頂きました人づくりの年頭の心定めには届きませんでした。△△部内全体としては初席者 中席者又修養科生 更に講習生など新しい方々のお与えを頂き 尚又月々おぢばに帰らせて頂いた方々も多くなり 殊には上級教会創立○○周年記念祭並びに○代会長就任奉告祭には多数の参拝者の御守護を受け 心より厚く御礼申し上げます

顧みますれば今年も尚経済的な不況が国内を襲い リストラの嵐が人々の不安感を駆り立てているばかりか 天災地変など予測せぬ災害も加わって 国内だけでも思召しの陽気ぐらしの世へは洵に程遠い感があります。こゝに今年納めの除夜祭をつとめさせて頂くに当たり 改めて過ぎる一年を冷静に回顧し 明日から迎える新しい年こそは改めて”世界一列を救ける為に天降った”という立教の元一日の御声を深く心に味わい 世界一列兄弟姉妹という真の”世界のふしん”に互い立て合い励まし合って 強く明るく勇んで前進させて頂く決心であります

親神様には知らず知らずの中に積んで参りました数々の埃や人救けの上に真実の届きかねたところなど 今宵の大祓の御式に清々しく清めて頂き 天理教校創立後百周年の新春を迎える意義と その使命を噛みしめつゝ、心新たに明日から馳せ巡る先々に 不思議不思議の稔りが見えて参りますようお導きの程を 一同と共に謹んでお願い申し上げます

六十二 春季大祭祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の温かいふところの中でいつも明るく不自由なく暮らさせて頂き 誠に有り難うございます 私たちはかしまのかりもの御教えを深く味わいつゝ自由に使うことを委された心のふしん怠りなく 受取り上手悟り上手の成人を心掛けながら日夜勇んでつとめさせて頂いておりますがこの月の二十六日は子供可愛い上から二十五年の御寿命を縮めて教祖が扉を開かれ 爾来元の屋敷たるぢばに留まって御存命の理を以て世界救けに門出された元一日に当たりますので御本部ではこの日を記念して年毎に春の大祭をおつとめ下さいます これの教会に於いてもゆかりある今日の上き日この理を受けて立教百六十六年の春季大祭を執り行い日頃の重なる御高恩にお応え申し上げたいと存じ一同下着を重ね足袋を重ねて拘引を覚悟の上真剣におつとめにかゝられた昔を偲び 先人の心を心として只今からおつとめを陽気につとめさせて頂きます

さて私共ようぼく一同は改めて五十年に及ぶひながたの道を思い起こし 立教百六十六年次の塚に向って立教の元一日”みきを神の社に差し上げます”の精神を我がものとし よふぼくであるお互い一人ひとりがおさづけの理を戴いたその日の心を忘れることなく 一日々々一分一秒でも多く我が身我が家を人救けの用の上にお使い頂けるようつとめさせて頂きますが 親神様にはこの上ともに不思議な理のお働きをお見せ下され 私たちの周りが次々に世界一列兄弟姉妹の世界観に目覚めて相互に救け合う陽気ぐらしの輪が広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

六十三 春季大祭二

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の温かい親心に生かされ守られていつも明るく暮らさせて
頂き洵に感謝の念に堪えません 私たちはかしまのかりもの
の御教えを深く味わいつ、我がものと仰せられた心一つのふし
ん怠りなく日夜勇んでつとめさせて頂いておりますがこの月の
二十六日は教祖が私達子供の成人をひらすら望まれる上から二
十五年の寿命を縮めて扉を開かれ 爾来御存命の理を以て世界救
けに門出された元一日に当たりますので御本部では年毎に春の
大祭をおつとめ下さいますが この理を受けて当教会に於いても
立教百六十六年の春季大祭を執り行い 日頃の御高恩にお応え申
し上げたいと存じ 一同下着を重ね足袋を重ねて拘引を覚悟の上
真剣におつとめにかゝられた昔を偲びつ、只今から陽気に勇ん
でたすけつとめをつとめさせて頂きます

さて私共一同は”世界をろっくの地にしたい”と思召し下され
た今日の大祭の意義を常に心に体し 一段と栄えある”世界のふ
しん”にお使い頂く喜びを深め 殊に今年は上級創立九十周年の
年にふさわしく 教義の正しい理解を教典に求め自己の成人をひ
のきしんの実践に計り ひたすらおつとめの充実と完成を目指し
つ、出でては我さえ良くば今さえ良くばの風潮に流されている
世の人々に世界一列兄弟姉妹となる最後の御教の真価を伝える
よう一手一つの真実を傾けさせて頂く覚悟でございます

親神様にはかく誓う一同の心定めを充分にお受取り下さいまし
てこの上ともに私達の馳せ巡る先々に不思議不思議な理の動き
が見え 思召し下さる神人和楽親子団欒の陽気ぐらしの輪が更に
広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎ん
でお願い申し上げます

六十四 男子厄払い詞

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

この 県 市 町 番地に住まわ

れる 氏は親神様の広く高い親心に生かされ守られて かしもの体を今日まで壮健にお貸し頂き、
両親も健在で家内や子供達にも恵まれ 何不自由なく
日々を陽気に過ごさせて頂く事が出来まことに感謝の
念に堪えません

今年は四十二歳となり世に云う厄年を迎えましたので
只今から厄払いのお式をつとめさせて頂く次第でござ
います 厄年は壮年期の更に成熟に向かう脱皮の旬で
あり 一つのふしであると悟り お言葉通りふしから芽
を出すべく 現在の置かられた自らの役目に一層の眞実
を傾けると共に 進んでは社会のため 又家族のために
はたはたを樂させるはたらきを増して 一段と価値の高
いお役がつつとまりますよう 自らの埃を払いつゝ、心の
成人に励みたいと存じますが 何卒打ち払う麻のさやぎ
のさやさやに清々しく被い清めて 恙なく喜びに明け喜
びに暮れる厄年を通して頂けますよう 本人に代わり
慎んでお願い申し上げます

六十五 部内神殿建築奉告祭

これの清々しい神床に厳かにお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様は旬刻限の到来により人間宿し込みの元のやしきに於て創造の母
胎としての魂のいんねんある教祖を通じ おつけ下さいましたこの真実
のお道に 私達は早くからお引き寄せ頂き 世界のふしんの栄えあるよ
ふぼくとして日々お使い下され 洵に感謝の念に堪えません

その中でもこれの教会の元の境内建物は平屋であり 甚だ狭く且つ老朽
化したしましたので度々談じ合いを重ね 漸く相談がまとまりお願いに
及びましたところ 去る一月二十六日神殿建築の理のお許しを頂き ○
月三十日に地鎮祭並びに起工式を執り行い 地主の事情からや、延びま
したが 工事関係者一同の並々なぬ真実の努力により 月 日
厳かに上棟式をつとめさせて頂きました その後は順調に工事も進み
お陰でいとも美わしく竣工致しましたので 昨夜大教会長様御手ずから
お目標様御鎮座の儀執り行うて頂きました

就きましては今日の吉き日に事の由を申し上げ神殿建築落成奉告の御祭
を営み仕え 改めて広く厚い御守護に御礼申し上げますと 心を籠めて
御神饌の品々を献じ 只今から一手一つに勇んでおつとめをつとめさせ
て頂きます

間もなく教祖御誕生二百年の意義深い新春を迎えますが まだまだ名ば
かりの名称の理に過ぎない現状を新たな出発点として 教会は神一条の
理を伝える所であり たすけ一条の取次ぎ場所であって 教会生活は土
地所に於ける人々の和樂を深め 互いに扶け合いつ、心の成人を遂げる
陽氣ぐらしの雛形になるよう御教え頂いております

神床を正しくおぢばの方向に改めさせて頂いた今日の奉告祭を通し 九
十年に及ぶ「ひながたの道」に沿い 一同御存命の理を以てお働き下さ
る教祖にお喜び頂けるよう 互いに立て合い救い合い 一に勢いの誠真
実を傾けて参りますが 教会内容が充実し 地域社会に陽氣ぐらしの輪
が広く大きく伸び広がって参りますよう お導きの程を一同と共に慎ん
でお願い申し上げます

六十六 部内就任移転建築奉告祭

これの新たな神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△
△分教会長 慎んで申し上げます

これの名称の理は△△△△氏を三代会長として東京都〇〇市〇〇町一丁目二番地三号の土地にお許しを頂いておりましたが 去る昭和〇〇年〇月二十六日その夫人△△姉の出直という大節から会長様は身も心も倒され 教会長の重責はもとより にをいがけおたすけへの意欲もすっかり喪失されて 遂に今年 月 日に辞職されるに至りました 土台が七くなりその為に柱までが力をなくしてしまったということは 全く私共のつとめとはたらきが足りなかった為と深く自らを省み 爾来三ヶ年 末代に向かうべき名称の理の重さを思索しつゝ、 ひとすら事情の解決を計って参りました処 この度親神様の温かい親心のお導きにあづかり 上級会長様方からのお声もかかり 役員信者の方々からもご賛同を受けましたので 届かぬ者ではございますが急いで建物の増改築を定め 去る〇月二十六日御本部にて任命移転のお運びをかたじけのういたしましたこゝに四代会長に就任させて頂き 又これの〇〇県〇〇市〇〇五五五番地に移転のお許しをいただき 昨夜は大教会会長様のお手によって親神様教祖をお鎮めいただきましたので 今日の日吉日に事の由を申し上げます 只今から関り係う人々心を一つに揃え襟を正して御前で陽気に奉告祭のてをどりをつとめさせて頂きます

現状は殆ど零からの出発であり単独布教師同然の門出ではありませんが 教祖百年祭三年千日の大切なこの旬に鑑み 親神様の御教えを一層これから道中の指針とし 教祖のひながたを身近に拝し 幾多の先輩先生方の道すがらをつぶさに学びつゝ、なってくる一切を喜びに悟って どんな中も勇んで神名を流させていただく覚悟でございますから この心定めの実を充分にお受け取り下さいまして これの名称の理の内容は年毎に充実に 思召し下さる神人和楽親子団欒の陽気ぐらしの輪が ここ〇〇市の周辺に次々と拡がって参りますようお導きの程一同と共に慎んでお願い申し上げます

六十七 部内就任奉告祭

陽氣ぐらしをするのを見てともに楽しもうと思いつかれてこの世をお創め下されてよりこの方 永の年限朝な夕な冷き御守護を下さる親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

これの名称は昭和 年 月二十六日△△△△を初代会長として その設立を御本部より御許可頂きましたが 今日この節に当たってその由緒沿革をしのび静かに元一日の理を思い返してみたいと存じます

上級教会の親会長様は昭和 年三月 深い自己の悪因縁を悟りその商売を捨て子供二人を置き去りにして単身故郷より布教に飛び出されましたが その行く先がその妹に当たる初代夫婦の住むこの地であったのでございます 一見家庭崩壊に見える姉の道に常識的な見地から反対しつつも 飲まず喰わずの布教生活を見るに忍びて居りましたが 昭和〇〇年〇月次男の△△△△大人 続いて三年後長男△△大人を量らずも失い この頃から漸くお道を学び始め その後はひたすら信仰の上から上級に運びつくす道の子となり やがて名称の誕生となったのでございます

当時は二代会長△△△△大人は専ら商売の道につとめ親しんで居りましたが 事業が伸びかかると肺病の床に伏し 為に仕事がかばかしくなく 経済が行き詰まってくるかと寝て居られなくなって事業をやり直すといったシーソーゲームを続けている中 身の不徳と将来を救け一条の道に捧げるべく去る昭和四十年 月二十六日謹んで任命のお運びを御本部より受けてのでございます かくて先づ上級のひのきしんを信仰の生き甲斐として老骨に鞭打ちつつ、一方には友人知己の身辺を訪ねてにをいがけの道を学んで居りましたが 事既に遅く病重り昨年十一月二十三日ひのきしんに因縁深い勤労感謝の日 その身上をお返したのでございます

かくて届かぬ私ではございますが この教会の大節後 大教会長様が二代の御霊前に参拝される直前 上級会長様のお心を察し 御声に答えるべく三代会長に就任する固い決意を定めさせて頂いたのでございます 今△△△〇〇の二人の子の我が子も漸く成人し 生活苦のみに追い回されて意義の少なかった前半生をさんげし 後半生を親神様の御教えと教祖のおひながたによって飾るべく なってもならないでも精神一つで 一月二十六日おぢばに運び真柱様より三代会長の御任命を受けたのでございます

何卒この真実の心を充分にお受け取り下さいまして 今後一人々々のおたすけの実が拳がり 名称らしい名称へと理の栄えが一足々々御守護頂けますよう親神様のかわらぬ御恵みの程を幾重にも幾重にもお願い申し上げます

六十八 部内鎮座祭祭文

此れの新しき神床に今し厳かに御鎮め申し上げました親
神 くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさ
づちのみこと 月よみのみこと くもよみのみこと か
しこねのみこと たいしよく天のみこと をふとのべの
みこと いざなぎのみこと いざなみのみことなる天理
王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し
上げます

量るに横浜市西区〇〇町一丁目一二三番地に於てお許し
頂きましたこれの教会は今度不思議なる御守護により
この戸塚区〇〇町〇〇番地の里に移転することに相成
り 早速任命移転の一切の手続きを完了致し度いと只今
その準備を進めて居りますが 秋の大祭を執り行わせて
頂くべく今日の吉き日にお目標様をこれの新しき神床に
お鎮めさせて頂きました 鎮座祭をつとめさせて頂くべ
く一同身も心も清めて その式を執り行い併せて勇んで
陽氣てをどりをつとめさせて頂きます

何卒一同が教祖年祭の旬の理を聞き分けてつくし運ぶ真
実まことの心をお受け取り下さいまして これの神床を
いずの磐境と変る事なく動くことなくお鎮まりの上 今
もこれからも弥益々不思議な御守護をお見せ頂き 救け
一条の道を四方八方におつけ下さるよう一同と共に慎ん
でお願い申し上げます

六十九 月次祭

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の厚き親心のまに／＼ 日夜絶え間なくお見守り下され 時
に臨み旬に忘れて だん／＼のお仕込みを賜り 成人の道恙なきよ
う日々結構のお連れ通り下さいます果てしなき親心の程は 思えば
思う程有難く 唯々勿体ない極みでございます 私共は届かぬなが
らも ひたすら御恩報じを念じて それぞれの持場立場を通し日々
励み怠りなく勤めさせて頂いておりますが 今日吉き日は これ
の教会にお許し頂きました月次祭の日柄に当たりますので 只今か
ら一手一つに明るく勇んでたすけづとめを勤めさせて頂きます 御
前には今日一日を楽しみに寄り集い 喜びの心も一入に おうたに
唱和して 日頃賜る厚き御恵みに事改めて御礼申し上げます 尚も変わ
らぬ御守護にお継りする道の子供達の真実の状をもご覧下さいまし
て 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

更には又 私共一同は教祖年祭へ三年千日の仕切の時旬を迎え 同
時に大教会の神殿ふしんが来年五月には竣工 十二月には鎮座祭
奉告祭が執行されることに相成っておりますこの時に ”形のふし
んに先行する心のふしん”を求められ ”たすけ不思議ふしん”と
も教えられているお言葉を思い起こし 一層たんのうの喜びを深め
”ひのきしんの日常化”を計り 逢う人毎に信仰の良さが伝わる
よう努力して参りますが 何卒この心定めを真実をお受け取り下さ
いまして別席者や修養科生が次々と授かりますよう 又おぢばや大
教会のふしんに充分なご奉公が出来ますよう 併せて私達の周囲に
大きく神名が流れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申
し上げます

七十 月次祭一六五

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
△△分教会長 慎んで申し上げます

”このみちはどふゆう事に思うかな この世治める真実の道”
と仰せ下さいましたが 私達は栄えある親神様のよふぼく 教祖の道
具衆として このお道にお引き寄せ頂き 洵に感謝の念に堪えません
その中にも今日の吉き日は これの教会にお許し頂きました月次祭
の日柄に当たりますので 只今から鳴物の調子を合せ 声高らかに
明るく勇んでたすけづとめを勤めさせて頂きます

さて 御本部秋季大祭の於いて真柱様は ”『諭達第一号』を發布
して以来早や三年が経ちましたが この三年の間に二十世紀から二
十一世紀に入り 戦争の世紀は終わったと云われる一方で 先頃は早
くも前途に不安を覚えずにはおれない衝撃的な事件が起こり 一列
兄弟姉妹とお聞かせ頂く人間同士が劇しく戦い 傷つけ合う姿が 今
も尚 世界の各地で絶えないことは 誠に痛ましい限りであり 親
神様もさぞかしお心をお痛め下されていることと拝察致します”
と仰せられました

”はや／＼とところそろをてしっかりとつとめするなら世かいをさ
まる”

と仰せ下された御言葉を強く噛みしめ 一層真実込めて日々月々の
おつとめに心を揃え 同時にをやの思いを愈々世界に伝える努力を
一手一つに払わねばならないと自覚致しております 私達は教祖直
々に 夫婦のあり方 親子の間柄 人々との接し方など 陽気ぐら
しの世界の基礎ともいふべき人間関係のあり方を懇切にお教え頂き
ましたが 心のよりどころを持たず 家族の絆は却って弱まり 徒
に 疲れ 迷い 悩む 世の人々に真実のをやの声を伝え たすけ
の手を伸ばすべき私達よふぼくの責務・急務を心に強く籠めて 改
めて一手一つの真実を傾けて参りますので どうか親神様には思召
し通りの陽気ぐらしの輪が広く大きく私達の周辺に拡がって参りま
すようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

七十一 創立記念祭

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長

慎んで申し上げます

親神様は人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世をお創めになり その後も限りない親心をもてお育て下さいますお蔭により ようやく今日まで成人させて頂きましたご高恩の程 片時も忘れる事なく朝夕深く厚く御礼申し上げます 殊に旬刻限の到来と共に元のぢばに於て 教祖をやしろとしておつけ下さいました親神様直々のこのお道は 年と共に国の内外に伸び展けて参りましたが その中にも昭和十七年 月 日△△△△△を主管者として横浜市中区〇〇町一丁目一二三番地なる元の中学校前に〇〇分教会という名称の理をお許し頂きました 時恰も大東亜戦争下の厳しい世界事情のため 県庁の許可が得られず認可は成らず 為に親神様・教祖の御分霊は拝戴できず 遂に初代会長は未完成のまま、苦難の生涯を終えました

ところが当時の人々 み教え通り節から芽を出すべく勇みに勇んで現在地を求め △△△△を芯として改めて教会の出願に及び 昭和 年 月 日宿願のお目標様をご下附頂く事が出来ました 嬉しさの涙に暮れたま、このお目標様を胸に抱き 大教会 〇〇 〇〇の各上級を経て△△△なる〇〇に参拝させて頂きました 際 横浜は大空襲にあい 教会施設は灰燼に帰してしまいました 又一かけから神殿復興ふしんにかかり 待ちに待った鎮座祭並びに設立奉告祭はようやく昭和二十二年 月十一日 十二日の両日に亘って感激に打ち震えながらつとめさせて頂く事が出来たのであります

爾来いくたの風雪をしのぎ山坂を超え一手一つとなって親神様の思召を伝え教祖のひながたを辿って行くまにまに 部内教会布教所並びに講社の数も次々に増え ようやく現在の如き成人の姿をお与え頂きました こ、に人々事謀り昭和十七年の御本部のお許しを起点とし 今日の吉き日当教会創立〇〇周年記念祭を執り行う事に相成りました

過ぎし〇〇年間のあの日この日を思い起こし感謝しつ、 只今から部内一同心を一つに揃えて てをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます

今日の栄えある記念祭今後の新たな飛石とし跳躍台として新たな目標 すなわち”大教会神殿ふしんへの伏せ込み” おつとめの充実” 各よふぼく家庭より別席者を “を三代指針として やがて三年半余り後に迎えます教祖年祭に向かつて ひのきしんの上につくしの上に 或いは匂いがけお救けの上に心の限り力の限りつとめ切らせて頂きたいと固く心を定めて居りますが 私達一同が東に西に南に北に馳せ巡りますすけ一条の先々にいよいよ不思議なお働き深い親心を賜り 又人々の心は次々に更まり思召し下さる信神和楽親子団欒の陽気ぐらしの世の状が一日も早く訪れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

七十二 創立記念祭お誓い

青葉若葉の緑したたる五月の今日の吉き日 茲に○○分
教会創立△△周年記念祭を心賑やかに迎えさせて頂き
只今は大教会長様始め来賓諸先生からご懇篤なるお言葉を
頂き感謝の念に堪えません

顧みれば今日の時旬は 教祖年祭を凡そ三年半後に控
全教挙げてたすけ一条の道を驀進している最中でありま
すが 私達○○につながるものは かねてから大教会長様
よりその看板を書きかえるという大きな喜びを迎えるた
め 三年千日の間にすっかり銘々が成人すると共に おた
すけの実を挙げるようにと有難いお声を頂いて居ります
偉大なるこのお道を世界の隅から隅まで広めようと 今尚
ご存命のまゝ、元の屋敷にとどまってお働き下さる教祖の
ご理想をもう一度改めて深く心に刻み 私達一人々々”つ
とめ ”と”さづけ ”を中心としてひのきしんの上につく
しの上に或いは又匂いがけお救けの上真実の信仰を体得
しながら前進させて頂く固い決意を定めて居ります そ
の為に一層原典を私達の血肉とし 世界治めてという誇
りを衿持し○○につながる教会長始め用木信者の端々に
至るまで一手一つとなって教勢倍加の実現をはかり お
ぢばに献灯の感激を味わえるよう力強く明日からの第一
歩を踏み出す事を一同と共に慎んでお誓い申し上げます

○○代表

△ △ △ △

七十三 創立記念祭祖靈殿に於ける御礼祭文

これの祖靈殿にお鎮まり下さいませ。○○初代△△△△△を始め
○○の上に伏せ込まれし数々の靈様達の御前に天理教○○分
教会長 慎んで申し上げます

日々は親神様の絶え間なきお働きに生かされ御存命の教祖の
御守護に守られ 更に又蔭になり日向になりお導き下さいませ
す御蔭によりまして これの教会も創立以来 年の歳月を
過ぎし今日のような喜びの姿をお与え頂きました

そうして去る五月 日大教会長様始め△△ △△ △△の
上級の会長様△△△△△先生などの来賓諸先生の御臨席を恭う
し ○○に繋がる教人用木信者二百名余り御前に参り出で○
○創立 周年記念祭を盛大に執り行わせて頂きました

就きましてはこの栄えある記念祭を通し

“東西礼拝場ふしんへの伏せ込み” 講社五十ヶ所の新設と
充実”

を一同で誓い やがて迎えます大教会の○○周年並びに教祖
年祭に向かつてひのきしんの上につくしに上に 或いは又旬
いがけお救けの上に心の限り力の限りつとめ切らせて頂きました
いと共々に心を定めました

どうか靈様達 私達一同が東に西に南に北に馳せ巡りますた
すけ一条の先々の上に天翔り国翔けて いやいよ不思議なお
働き深い親心を賜りますようお導き下され 先輩の遺された
大いなるひながたを立派に継承し進んでその理を光らせ得ま
すよう 長年に亘る御礼と共に慎んでお願い申し上げます

七十四 部内記念祭祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長
慎んで申し上げます

親神様は陽氣遊山を見たいと思召され 無い人間無い世界をお創め下さいましたが、その後
も限らない親心を以てお育て下さいますお陰により漸く今日迄成人させて頂きました御高思
の程 片時も忘れることなく朝夕御礼申し上げますが 本日は当教会創立○○周年記
念祭を執り行う喜びの日と相成りました

顧みますれば 昭和○○年四月二十六日 上級からお打ち出しの「十力所の名称設立」のお
声を体して△△△△を初代会長として 横浜市保土ヶ谷区 町の借地借家ながら 又内容
も極めて不充分のまま、設立された教会でありましたが、その後教祖七十年祭活動に真実の限
りを伏せ込む中 不思議／＼な理の動きを受けて 現在地五百平方メートルの境内地が与えられ
更にこの地上に百平方メートルの神殿兼教職舎が完成し 昭和○○年三月 日鎮座祭 翌 日
奉告祭が執り行われた次第でした

爾來 親神様の思召しを取次ぎ 教祖ひながたの道を伝えつゝ、役員よふぼく一同 酷暑嚴
寒を厭わず 続く教祖八十年祭の旬の御用にも総力を注いでいる中 二階建ての神殿百五十
平方メートル落成 昭和五十年 月 日鎮座祭 翌 日奉告祭を盛大につとめさせて頂く
ことが出来ました

ところが さあ九十年祭へと勇みに勇み立った矢先 △△△△の俄な出直しに続き その一
月後 前会長のがその後を追うが如くこの世を去ったのであります まさしく暗夜に灯を失
ったような嘆きに教会が一時啞然となりましたが 教祖ひながたの道すがらを偲び 上級会
長様始め役員よふぼく一同から真実溢れる激励を受けて 昭和○○年十月二十六日私が二代
会長の御任命を戴き 今日に至ったのであります

その後教祖百年祭直前の昭和六十年十一月二六日には大教会の事情教会整理として当教会部
内の○○布教所長△△△△が○○分教会という名称の理を受け その会長に就任致しました
過ぎし○○年間のあの日この日を思い起こし感謝しつゝ、只今から部内一心を一つに揃え
てをどりを陽氣に勇んでつとめさせて頂きます

今日の栄えある記念祭今後の新たな飛石とし跳躍台として新たなる目標 すなわち“大教会
神殿ふしんへの伏せ込み”“おつとめの充実”“各よふぼく家庭より別席者を”を三代指針
として やがて三年半余り後に迎えます教祖年祭に向かって ひのきしんの上につくしの上に
或いは匂いがけお救けの上に心の限り力の限りつとめ切らせて頂きたいと固く心を定めて居
ります 但 私達一同が東に西に南に北に馳せ巡ります 一条の先々にいよいよ不思議な
お働き深い親心を賜り 又人々の心は次々に更まり思召し下さる信神和衆親子団欒の陽氣ぐ
らしの世の状が一日も早く訪れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます
只今から過ぎし○○年間のあの日この日を改めて思い起こしつゝ、一同心の襟を正して陽氣
に勇んでたすけつとめをつとめさせて頂きます

この上は更に一手一つとなり一層教祖ひながたの道を更に身近に拝して にほいがけおたす
けに勇み立ち 旬々の理の御用に心の限り力の限り伏せ込ませて頂き 教勢の伸展を計って
参りますが 親神様には私達の馳せ巡る先々に不思議／＼な理の動きを次々お見せ頂き、そ
の人々の心は次第に更まり思召し下さる陽氣ぐらしの輪が、これの教会周辺はもとより 所
属のよふぼくの近隣にも広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお
願い申し上げます

七十五 ボランティア開始お願い

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れるお働きのお陰で 日々は明るく壮健につとめさせて頂いておりますが 殊に今日に至るまで素直にお道の信仰を学び順調に成人の道を歩んで参りました△△△△姉は この度老人介護のボランティアの開催に当り 会長という大任を受持つ事に相成りました

改めて親神様に厚く御礼申し上げ いよいよ深く御教えを身に体し 五十年に及ぶ尊い教祖のひながたに添って ご縁を頂いた老人達を幾久しく陽気づくめの日常生活を続けられるよう誠一条に導かせて頂きますが親神様には何卒△△△△姉の上に こよなき御力添えを賜りますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

七十六 デイサービス開設御礼お願い

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の温かく深い親心に生かされ守られて 私達はお陰で何時も明るく壮健に暮らさせて頂き厚く厚く御礼申し上げます

この度△△△△姉は長年の間 在宅痴呆性老人とその家族が地域で明るく暮らせるよう〇〇という名称のもと ボランティアグループの責任者となって地域デイサービスに今日まで励んで参られましたがいよいよ介護保険法等関係法令に準じた「通所介護」の事業を一層適正かつ円満に運営する為 必要とする組織・人員及び管理規定等 所要事項を定め運営規定とし 主として痴呆高令者に適切な通所介護サービスを提供する事を目的とし 横浜市 区 町

丁目 番地に於いてデイサービス〇〇を 平成 年 月

日より開設される事と相成りました

思えば痴呆高令者やその家族の方々には 日々の世話取りに疲れ果て、むしろ人生のはかなさや悲しみに打ち沈んでおられる方々が多いように感じられます 私達は一人でも多く そのような方々の笑顔を刻む彫刻師となる使命に燃えて お教え頂いたかきものかりものの信仰を心に抱き ひのきしんに次ぐひのきしんの勇んだ姿を自らの体に現わして 訪れる先々に生かされている喜びと生き甲斐を 改めて新しく生み出したいと念願しております

九十歳の高令ながら”月日のやしろ”ひながたの親”として救いに終始された教祖を身近に拝して一日々々を積み重ねて参りますが親神様には何卒デイサービス〇〇に所属する全員が一手一つになって門出する「通所介護」のこの事業が 今後益々順調に伸びて参りますようお願い申し上げます

七十七 合祀祭文（布教所長）

これの○○分教会の靈代に只今嚴かにお鎮まり下さいました
故天理教○○布教所長△△△△△大人の靈の御前に天理教

分教会長 慎んで申し上げます

あわれ汝大人は去る 月 日午後 時ゆくりなくも○

○歳にて俄に出直されましたことは 思えばやはり悲しく淋しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり なってくる

一切はむしろ大難でも小難にお見せ頂き 尚又救きたい上からの親心 深い思召しの現れとお教え頂いておりますから

徒に歎き悲しむというよりも 本当は御礼申し上げますべきものと 家人達は 後々の成人を謀りつ、 朝夕ねんごろに

お仕えされて参りましたが 今宵懐かしき汝大人を これの教会にもお鎮め申し上げ 現世にありし頃の笑ましき面影を

偲び 優しく清かりし御心をたゝえ 長の年月に亘る御功績に厚く感謝申し上げますと存じます

どうかこれから先々汝大人との縁につながる子達孫達ご生前のあの日この時を味わいつ、 改めて心にかけてられし○

○布教所の伸展を力強く計って参りますが 汝大人はよりよき来世を楽しみつ、陽氣遊山の世界づくりに一層お勇み立た

れますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

七十八 合祀祭文（よふぼく）

これの○○分教会の祖霊社に只今厳かにお鎮まり下さいました故よ
ふぼく△△△△刀自之霊の御前に天理教 分教会長 慎ん
で申し上げます

あわれ汝刀自は去る 月 日齡八十五歳という長命ながら 俄に
現身をかくされたことは やはり痛ましく淋しい限りでございます
さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも
出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなっってくる一切は大
難どころか小難であり 尚それ以上にあとに続く一同を救きたい上
からの親心 深い思召しの現れとお教え頂いておりますから 徒に歎
き悲しむというよりも 本当は御礼申し上げるべきものと 一同こ
れからの成人を期し”古き道ありて新しき道”と仰せられたお言葉
を思い起こし 汝刀自をのご生前を改めて偲ばせて頂いております
汝刀自は当教会の草分けの頃より初代会長夫妻の影の力となり 教
会設立の際には信徒総代をつとめられた○○大人の妻として 又昭
和○○年栄えあるよふぼくとなられたすえの刀自の嫁として終始真
実の限りを尽くして△△商店を支えられました 更に昭和○○年夫
に先立たれ 続いて姑を来世に送り出した後も○人の子供の養育に
当り 末子○○氏が遂に一人前の店主として成人されるに至った今
日迄 昭和○○年早々自らもよふぼくとなって講社の責任を受け持
ちつゝ粘り強く長年に亘る立場を立派につとめ抜かれました 影の
苦勞を勇んで果たされたあの日 この時を回想し厚く厚く感謝申し
上げます
こゝに種々の味物を御前に供え 遺族を始め親しき人々が心を籠め
て伏し拝む状を心よくお受け取り下さいまして△△講はもとより当
教会につながる道の子供達の先々に更に陽氣ぐらしの実が見えて参
りますよう 併せて汝刀自は来世よふぼくとしてより以上の御活躍
と御多幸の人生を歩まれますよう 一同と共に慎んでお願い申し上
げます

七十九 講社祖靈殿合祀祭文

これの○○講の御霊代に今し嚴かにお鎮まり下さいました故
△△△△大人之靈の御前に慎んで申し上げます

あわれ汝大人は去る 月 日長命とは云いながら齡八十
五歳というをこの世の限りとして ゆくりなくも俄に出直さ
れましたことは 思えばやはり淋しく名残惜しい限りでござ
います

さはあれ人間というは身の内かしもものかりものなれば 生き
るも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなっ
る一切は大難は小難であり 更には又後に続く一同の成人を
望まれる上からの深く温かい親心現れであって 必ずふしか
ら芽が出るとも仰せ頂いております

一同改めて汝大人はこれの○○家の長男として御両親への孝
心はもとより 惜しくもいち早く来世に先立たれし妹弟の上
にも何かと心砕きつゝ、その上親戚の一人々々への誠を捧げ
ながら 炎熱の夏も酷暑の冬も厭わず 朝は早くから夜は遅
く迄 己が務めを十二分に果たされし長の年月を偲び 改め
て現世にありし頃の笑顔脳裏に浮かべつゝ、一同と共に厚く
厚く感謝申し上げたいと存じます

茲に家族親族 親しき人々と共に 只今心を籠めて かくの
如く合祀祭をつとめさせて頂いた眞実を充分にお受け取り下
さいまして これの△△講につながる子達孫達の先々に至る
まで一層の陽氣ぐらしの実が見え これの周辺により広くよ
り大きく神名の流れて参りますようお導きの程を一同と共に
慎んでお願い申し上げます

八十 部内祖霊殿合祀祭文

これの○○分教会の祖霊社に只今厳かにお鎮まり下さいました初代会長△△△△刀自之霊の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

あわれ汝刀自は去る 月 日長命ながら齢九十五歳というをこの世の限りとしてゆくりなくも出直されたことは 思えばやはり淋しい口惜しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば 生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなってくる一切は大難を小難にお見せ頂き 更には後に続く一同の成人を望まれる上からの親心 深く温かい思召しの現れとお教え頂き 尚ふしから芽が出ることも仰せ頂いておりますから 徒に歎き悲しむというよりも本当は御礼申し上げるべきものと 一同これからの前進のため”古き道ありて新しき道”とお指図下されたお言葉を思い起こし 殊に終戦直後の苦難の中からいち早く修養科に学ばれ その後間もない昭和○○年以来凡そ四十年の長きに亘り 雨の日も風の日も吹雪舞う中も上級への日参を続けられ 而もその間 生涯の救け一条を誓い 陽気づくめの完成を夢見て昭和○○年○月二十六日教会を設立されるまでに至った尊いあの日この日を偲び 併せて現世にありし頃の笑顔脳裏に浮かべつゝ、届かぬ私達一同を 時に強く 時に優しくお導き下された御功績に厚く厚く感謝申し上げたいと存じます

これより○○家の墓地に埋葬するに先立ち 家族親族 親しき人々と共に心を籠めて合祀祭をつとめさせて頂いた真実を充分にお受け取り下さいまして 末代かけてのたすけ一条の道を一手一つに勇んで辿れますよう かくて当教会につながる道の子供達の先々に陽気ぐらしの実が見え その周辺により広くより大きく神名の流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

八十二 教会墓地春秋墓前祭

これの所を千代の住所と永久に変わる事無く 動く事無く静か
にお鎮まり下さいます○○初代会長△△△△大人之霊を始め
△△△△稚子之霊 △△△△大人之霊 △△△△刀自之霊
△△△△大人之霊 △△△△刀自之霊 △△△△大人之霊
△△△△刀自之霊 △△△△大人之霊 △△△△稚子之霊
△△△△大人之霊 △△△△刀自之霊 △△△△大人之霊
△△△△刀自之霊 △△△△大人之霊 △△△△刀自之霊
△△△△刀自之霊 (納骨された全霊様の名前を読み上げる)
の御墓の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上
げます

去る三月 日○○分教会祖霊殿に於いて賑々しく春(秋)
季霊祭をつとめさせて頂きましたが 今日栄えある往還道
を回想し数々の御苦勞を重ねられた御霊様達の御生前中を思
い合わせ今昔の感に堪えず万感胸に迫るの思いがいたしまし
た

只今お道では教祖年祭に向かつて全教挙げてたすけ一条の道
に東奔西走いたしておりますが 我が○○でもこの時旬に臨
んで一手一つになって教祖ひながたに近づこうとつとめ励ん
でおります

どうか御霊様は心持よく親神様のふところにお休み下され
又この世に出直され末代かけての陽氣ぐらしの世界実現にお
励み下さいますようお願い申し これの御墓を通し懐かしい
思い出を繰り広げつゝ、慎んで祭文とさせて頂きます

八十三 墓標建立墓前祭

これの所を千代の住所と永久に変わる事無く 動く事無く
安く穏にありし日の古き衣を鎮め奉り坐せ奉る昭和
年 月 日八十歳を以て逝かれし故△△△△△
大人を始め 昭和 年 月 日三十歳の世帯盛
りに身退りし故△△△△△刀自 同 年 月 日いと短
きつぼみの一才にて あっけなくこの世を去られし故
△△若子の御墓の御前に 慎み敬い恐み恐みも白す
汝が大人たちの家族親族を始め 相識れる人親しき
人々長男○○氏の家庭に相寄り集い 現世の在りし日
の俤を偲びつゝ、 どやありけむ かくやありけむとと
りどりの話の花を咲かせつゝ、 厳かに靈祭を仕え奉り
しが 今し墓標建立の儀式を併せてつとめ奉らくと
打ち揃いてこれの御墓に足を運び 除幕の儀こゝに恙
なく仕え終え 海川山野の種々の味物を捧げ奉り拝み
奉らくを甘らに聞食し諾い給いて いや／＼／＼家門を守
り負持つ祖先の名を高めんものと それ／＼／＼に固く心
を定め相誓える様を 御心持美わしく受け給い 遺れ
る家族親族を始め御子たちの行く末を天翔り玉翔り守
り幸い給い 思召される陽気ぐらしのひながた家庭を
周囲の社会にうつし給えと 恐み恐みも白す

八十四 結婚誓詞2

この度親神様の不思議なお働きと 多くの皆様の温かい親心の守られ 只今芽出度く教祖の御前で契りの盃を取り交わし 生涯夫婦としての固めをさせて頂きました事はまことに感謝の念に堪えません

今日より後 私達は親神様の御教をいよいよ深く学び教祖の尊きひながたを朝に夕に仰いで 諸先輩が残された大いなる道を謙虚に讃えつゝ、二つ一つの心に睦び合い 行く手に如何なる節があるろうともその中に秘められた思召しを悟り そこに得難い喜びがあることを見出し 白玉の真白髪に至るまで たすけ一条の心を堅持して 一日生涯のお言葉を胸に理の親の心を我が心とし 理の子の悩み憂いを我が事として道の後継者にふさわしく真っしぐらに先づは教祖年祭を目指して精一杯伏せ込まして頂きたいと念願いたしております

何卒広く大らかな親心にかくお誓い申し上げる私達二人の門出の真心を充分にお受け取り下さいまして 先になり後になり末長くお導き下さいますよう 新郎△△△新婦△△△慎んでお願い申し上げます

八十五 結婚式のため門出の祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

去る 月 日これの教会で厳かに婚約の式をつとめさせて頂きました の二人は いよいよ旬満ちて

今夜の飛行機でホノルルに向かって成田空港を飛び発ち 世界一列兄弟姉妹の御教えのもと 部内 布教所長 を祭主として太平洋を隔てたハワイで芽出度く結婚式を執り行うことに相成りました

尚新郎となる の両親並びに長兄夫婦 又新婦となる の両親並びに兄妹がそれぞれ両家を代表して共に随行され 若い二人の栄えある式典に参加されると共に この機会に初めての海外観光を楽しまれる予定に相成っております

今後の一生を夫婦として新たに船出せんとする二人の 長年に亘る御恩に対する御礼心の美事な現れでございます 而もハワイで一同を迎える布教所長の家族も用意万端を整えて喜びの心一杯で到着を待っているという知らせが入っております

何卒親神様にはかくの如く門出する一同の真実を心よくお受け取り下さいまして 結婚式より始まる旅の道中 笑顔又笑顔で恙なくお連れ通り下さいますよう 更に帰浜後はいち早く神実様をお祀り申し講社となつて一層の成人を心定めいたしておりますが 地と天 火と水 しゃちとかめ 種と苗代の思召しのまにまに互い立て合い助け合いつつ営む新世帯を 芯とする陽気ぐらしの輪が 周辺に広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申しあげます

八十六 教職舎上棟式

これの所に招ぎまつりました親神天理王命の御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

紋型ない処からお始め下されました救け一条の道は親神様の御守護と教祖の御威徳により年と共に栄え行き 神名を称えて帰り来る信徒の数は次々に増加し 当教会に於いては月々に上級或いは講演講師をお迎えし 心の成人の為いろいろと御仕込みやら御教理を頂き その為客間の必要性は次第に増し 又一方理の日を楽しみにおつとめ下さる道の子供達に喜びの理を添える炊事場の設備も不便を感じずるに至りましたので 部内教会長布教所長信徒らが皆々心を一つに合わせ 客間並びに炊事場等の新築をさせて頂くことに精神を定め その工事請負師を△△△△氏に御願い申し木造瓦葺き二階建五十坪の大ふしんにかからせて頂き 去る 日厳かに地鎮祭を執り行わせて頂きました 以来親神様の厚き御守護の下に工程も思いの外進捗致しましたので 今日を吉日と選び定め真心を捧げて上棟の式をつとめさせて頂く運びと相成りましたどうか私共の眞実を御覧下さいまして今後工程の上にはいやが上にも御守護下さいまして恙なく竣工を見ますよう御導きの程を切に御願い申しあげます

尚形の建築ばかりでなく 私共が日夜心がけております心のふしんの上には絶大なる御加護を御垂れ下さり 親神様思惑の御心通り陽氣ぐらしの世界に立て替えさせて頂くよう救け一条に勇む用木の先々に不思議な救け珍しい理の動きをお与え下さいますよう一同と共に慎んで御願い申しあげます

八十七 神殿建築落成奉告祭

これの木の香も新しい神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
分教会長 慎んで申し上げます

親神様の絶え間なき御守護によりたすけ一条のこのお道は年を逐うて伸び弘がり
神名をたたえ生かされた感激を味う道の子供達は日に月に増して 只管に
成人の道をお連れ通り下さいます御恵みの程は 海山も唯ならず誠に勿体ない
極みでございます 私共は常々御高思を拝謝して届かぬながらも思召にお応え
させて頂けるよう日夜勇んで勤めさせて頂いております

その中にもこれの名称は二十年前神殿建築の予定地として隣接境内地を購入し
ておりましたが 戦災直後前会長を芯としていち早く焼跡の中から建ち上がっ
た元の神殿もようやく狭くなり 十分におつとめをつとめさせて頂くには不便
勝ちとなりましたので 教祖百年祭を目指して更に一層の信仰信念の充実強化
を計り度いと 幾度も談じ合いを重ねて御本部よりそのお許しを頂き △△△

△氏の設計監理のもと ○○建設株式会社との施工と定まり 昨年 月 日芽
出度く起工式を執り行い 爾来工事も極めて順調に恙なく しかも内部も外観
も予定以上に麗しく美事に竣工を見るに至りました事は 全く親神様の自由の
お働きに依るものと部内よぶべく信者一同感激も一入に 昨夜は厳かに大教会
長様によりお目標様御鎮座の儀も滞りなくお勤め頂きました 就きましたは今
日の吉き日に事の由を申し上げて神殿建築落成奉告祭を執り行い 只今から一
同心を一つに揃えておつとめを陽気につとめさせて頂きます

御前には母屋ふしんと共に この新しい神殿建築に一年の長きに亘って涙ぐま
しくも身をつくし心をつくされた道の子供達が栄えある今日この日を一日千秋
の思いで遠方近方から寄り集い 同じ思いに伏し拝み心から御礼申し上げる状
をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて”道と世界は合図立て合う”と仰せられましたが 混迷の現在の世相に赤
々と光明を点じられた東西礼拝場ふしんに一同思いを注ぎ ひながたを身近に
拝しつゝ、”新しい母屋へ修養科生を送ろう”との大教会よりの指針に沿って
一にも二にもおたすけと一手一つに世界たすけに邁進して参りますが 何卒こ
の心定めの真実をお受け取り下さいましてこの上ともに自由の御守護を賜り
世の人々の心は次々に道の理に目覚めて 思召下さる陽気ぐらしの輪が 私共
の周囲に広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願
い申し上げます

八十八 神殿起工式祓詞

之の處に日室木立て親神天理王命を遙かに伏し拝み謹んで申し上げます

今日のこの日は天理教△△分教会神殿建築の事始めの佳き日に当たりますので只今より定めめの儀式を執り行わせて頂きます

何卒親神様にはこれの教会長を始め役員部内教会長用木信者亦工事関係者一同の眞実をお受け取り下さいまして滞りなく祭儀を勤め了へさせて頂きます様 謹んでお願い申し上げます

八十九 部内教会地鎮祭起工式祝詞

此の所に忌竹さし立て標縄引き延え神籠立て、招ぎ奉り令せ奉る掛巻くも畏き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵を嬉しび奉り辱けなみ奉りて天理教○○分教会はも既設の境内建物は平屋であり狭く且つ老朽化せし為茲に神名を高く顕揚せむものと地下に駐車場を設け木造亜鉛メッキ鋼板葺貳階建床面積一階八十二平方米二階八十八平方米なる神殿兼教職舎をおぢばに正対して新築するお許しを一月二十六日に戴き引き続き三月日親神様教祖のお目標様並びに祖霊様を上級教会に敬々しく遷座申し上げたり愈々○○設計の詳細なる設計及び申請を経て△△建築の施工のもとに設け奉らむと改めて今し大地の高き低きを曳きならし御柱が根を石根に築き固めむとして今日の生日の足日に地鎮祭と共に起工の御式仕え奉らむとし御酒御食海川山野の種々の味物を捧げ奉りて拝がみ奉らくを平けく安らけく諾い聞し食して工事に親しむ人々の身に怪我過ちなく美わしく竣工しめ給いこれの教会の内容が形のふしんにふさわしく一段と充実し地域社会に陽気ぐらしの輪が拡がり思召し下さるたすけ一条の実が更に大きく見ゆるよう千代万代に堅磐に常磐に守り幸え給えと恐み／＼も乞い祈み奉らくと白す

九十 信者宅二軒大祓祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命に御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

親神様の温かい御守護のもと私達一同はかしまのかりもの身
恙なく 何不自由なく明るく暮らさせて頂き洵に感謝の念に堪
えません

その上この度長らく使わせて頂いた〇〇市〇〇町の家屋を売却
しこ、△△市△△町三十番地十二号の地上五十坪に在るこの
新築家屋百平方米を〇〇〇〇名義にて購入出来 併せて三十番
地十号の隣地なる土地五十一坪 建物百二十平方米を叔父に当
たる△△△△の名のもと所有の喜びをお与え頂き重ね／＼御礼
の申しようもございません

〇〇家は昨年五月から既に住まわれておりますが △△家に於
いても両親 夫妻と共に愈々今後長く居住されるに付き
改めて両家を清々しく払い清めさせて頂きます

親神様は“心一つが我がのもの”と仰せられ心の自由を私達一
同にお恵み下され“心澄み切れ極楽や”とお教え下さいました
土地所を大祓いさせて頂く以上に ついに人間思案に扱えられ長
年知らず／＼の中に積んで参りました心の埃を共に洗い流し
天井にも壁にも畳にも感謝の心を移し喜びの声をかけ 陽気ぐ
らしのひながた家庭にならねばならないと新たに決意させて頂
きます どうか親神様には かく誓う心定め充分にお受け取
り下さいまして それぞれが持ち場立場を通して今後の日常生
活に向かう両家の家族一同を幸せに 而も有意義にお導き下さ
いますよう慎んでお願い申し上げます

九十一 信者宅増改築祈願祭詞

此の所に神籠立て、招ぎ奉り令せ奉る掛巻くも畏き親
神天理王命の御前に恐み／＼も白さく

親神の広き厚き御恵を嬉しび奉り辱けなみ奉り 横浜
市西区〇〇町三丁目一七〇番地七号なる△△△△家は
も早くよりこれのお道に引き寄せられ 御教の定規に
合せ教祖ひながたを思い浮かべつ、各も／＼心の成人
を計り親族家族共に朝な夕ないと睦まじく明るく暮ら
されしが この度長年のつとめ尚一段と稔りて こゝ
に木造瓦葺にて二階三部屋を芯とする十五坪の増築併
せ十坪に及ぶ改築を加え 完成後は三五坪に届く堂々
たる住宅ふしんを設け奉らむと 今日誕生日の足日と
増改築祈願の御祭仕え奉り 御酒御食海川山野の種々
の味物を捧げ奉りて拝がみ奉らくを諾い聞し食し給い
これより後も家族親族共々身も心も壮健に起き伏し給
わむ事はももとより 雨風の難み天災地変の災あらむ
にも揺ぎ損わる、事なく 浪布虫の禍あらしめ給わず
千代万代に堅磐に常磐に守り幸い給い △△家にある
陽気ぐらしの姿が周囲の社会に次々とその輪を拡ごら
しめ給えと恐み／＼も乞い祈み奉らくと白す

九十二 よのもと会例会

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教

△△分教会長

慎んで申し上げます

私達は早くから”この世治める真実の道”にお引寄せ頂き 栄えある親神様によふぼく 教祖の道具衆としてお使い頂く我が身の幸せを味わい乍ら お陰で日々を明るく勇んで通らせて頂くことが出来洵に感謝の念に堪えません わけても今日の吉き日は これの教会のよのもと会例会日に当たりますので 只今から会員一同鳴物の調べ美わしく声高らかに学びつとめを一手一つにつとめさせて頂きます

さて教祖誕生祭に 真柱様から 陽氣ぐらしは 陽氣づくめの心から生まれるのであるが 何を聞いても見ても有難いと喜べる心が台となる 自分の人生で起こる出来事に 親神様教祖の親心を思案し自身を先ず振り返って 陽氣ぐらしに邪魔になる考え方を改める道を究める そうしてその道を生涯忘れず我が子を始め 更に一人でも多くの周囲の方々に移していく努力を傾けるよう切望されました 当教会ではこの 月三十一日に創立〇〇周年記念祭をお迎えするに 当り 今年は『いんねんの自覚を通して 信仰信念の確率を！謀り尚年間おぢばがえり〇〇〇名を達成しよう』を合言葉として 一日々々の歩みを重ねている最中でありませす

親神様には会員一人ひとりが 更によふぼくとして早くからお引き寄せ下された使命の重さを自覚し 心新たに馳せ巡る先々に不思議不思議の理が現れ 会員の家庭周辺に一段と広く大きく神名が流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

九十三 月次祭教祖誕生祭

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

旬刻限の到来と共に人間宿し込みの元なるぢばに於て母親の魂のいんねんある教祖を通じおつけ下さいました真実の道に 早くからお引寄せ頂き日々明るく世界のふしんにつとめさせて頂ける私達の幸せ 洵に御礼の申しようもございません

わけでも今月十八日は教祖の御誕生日であり御本部では賑やかに本勤が執り行われ 併せて祭典終了直後より中庭に於いて喜びの合唱が繰り広げられますが これの教会に於いても この理を受けて只今より月次祭と共に教祖御誕生祭をつとめ 九十年に及ぶ尊い道すがらを心新たに より深く味わせて頂きたいと存じます

殊に天保九年” 月日のやしろ “とおなり下されてよりは 同時に” ひながたの親 “ともなつてあらゆる逆境の中も堂々と神一条を貫いてお通り下さいましたが 現身をかくされてより今日に至るまで 尚” 御存命の理 “を以てお働き下さいます温かい親心の程 洵に勿体ない限りでございます

お陰で多くの道の子供達が今日の日を楽しみに寄り集い 心を籠めて感謝申し上げますが 殊に昨年十月二十五日には真柱継承奉告祭が執り行われ 諭達第一号を通して「逡巡を去り胸を張って親の声を伝え 自らも勇み 世界を勇ませて神人和楽の陽気世界の建設に力を尽くそう」と力強く仰せ下さいました 尚今年は上級創立百周年を記念し教職舎修練場のふしんが愈々起工されますが” この形のふしんに先行する心のふしん “を目指し 一手一つに進ませて頂きたいと念願致します

何卒親神様には私達一同 この思召を素直に受けて 先づは地域社会に於ける陽気ぐらしのひながた家庭になるよう努力して参りますが どうか私達の馳せ巡るに在いがけおたすけの先々に不思議不思議な理の動きが現れ 一段と広く大きく神名が流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

九十四 教祖誕生祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

旬刻限の到来と共に人間宿し込みの元なるぢばに於て母親の魂のいんねんある教祖を通じおつけ下さいました真実の道に 早くからお引寄せ頂き日々明るく心のふしんにつとめさせて頂ける私たちの幸せ まことに御礼の申しようもございません

わけでも今月十八日は教祖の御誕生日であり御本部では賑やかに本勤が執り行われ 各種の慶祝行事が繰り広げられますが これの教会に於いても その理を受けて只今より月次祭に併せ教祖御誕生祭をつとめ 九十年に及ぶ教祖の道を心新たに より深く味わせて頂きたいと存じます

殊に天保九年”月日のやしろ”とおなり下されてよりは 同時に”ひながたの親”ともなつてあらゆる逆境の中も堂々と神一条を貫いてお通り下さいましたが 現身をかくされてより今日に至るまで 尚”御存命の理”を以てお働き下さいます御慈悲の程 誠に勿体ない限りでございます

お陰様で多くの道の子供達が今日の一日を樂しみに寄り集い 心を籠めて感謝申し上げますが 宏大無辺なこの御恩に報いるため おつとめの完修 年頭の心定め達成 親里への伏せ込みを常に心に掛け立教百六△年の今年も意義深く一手一つにつとめ切らせて頂き 理解者から信仰者へと導く道を真剣に押し進めていきたいと念願して致しております

親神様には私達一同のこの真実を充分にお受け取り下さいまして 陽氣ぐらしの日常生活をそれぞれのよふぼく信者の家庭の上にお見せ頂き 馳せ巡る私たちのにをいがけおたすけの先々に不思議な理の動き 珍しい救けの実をお与え下さり この幸せが周囲に波及して 一日も早く世界よのなかと繁盛と仰せ下さいました世の状にお導き下さいますようお願い申し上げます

九十五 誕生祭教祖に捧げる祭文

御存命の教祖の御前に慎んで申し上げます

今月十八日は教祖が この世にお生まれ遊ばされてから二百貳回目の御誕生日でございますので その理を戴き 只今これの教会でも誕生祭を執り行い一手一つに勇んでたすけづとめをお教え通りつとめさせて頂きましたので御前に参進し お祝いの言葉を申し上げます

教祖御誕生日まことにお芽出度うございます

思えば教祖は五十年に亘る長の年月”月日のやしろ”となって 口に筆に無い人間 無い世界をおはじめ下された元の理を明かされ 自由に使う事を許された人間の心のあり方を詳しくお教え下された許かりでなく”ひながたの親”ともなって如何なる厳しい苦難の中も神一条を貫き自ら歩いて陽氣ぐらしの実をいと懇ろにお示し下さいました 更に子供可愛い上から二十五年先の御寿命をお縮めになり やしろの扉を開いてからも”御存命の理”を以て変わりなく親心深く 世界たすけにお働き下さっております

私達はこのお道に早くからお引き寄せ頂いたお陰で 身近に教祖を拜せるようになり すべてに喜びを求め いかなる節の中も明るく勇んで一日々々を送り迎えする事が出来 無上の幸せを味わっております 今日この吉き日 私達一同 改めて教祖の道具衆として 栄えある世界のふしんにお使い頂ける喜びを一段と深め その自覚を昂めて 一層素直に”ひながたの道”を辿らせて頂き”成程の人”となって にをいかけおたすけの実が一段と広く大きく見えて参りますよう懸命に努めさせて頂く覚悟でございます

何卒教祖 届かぬところは幾重にもお仕込み下さいまして この上ともに陽氣づくめに努めさせて頂けますようお導きの程を一同と共にお願い申し上げます

九十六 誕生祭教祖に捧げる祭文2

御存命の教祖の御前に慎んで申し上げます

今月十八日は教祖が寛政十年大和国三味田にお生まれ遊ばされてから丁度二百回目の御誕生日でございますので、その理を戴き、只今これの教会でも誕生祭を執り行い一手一つに勇んで八交代でたすけづとめをお教え通りつとめ了えさせて頂きましたので、御前に参進しお祝いの言葉を申し上げます

教祖御誕生日まことにお芽出度うございます、引き続き、これより慶祝大会並びに祝賀会を開催させて頂きます

思えば教祖は人間創造の母胎としての魂のいんねんの上から、全人類を可愛い我が子と思召され、四十一才より九十才に至るまで実に五十年に亘る長の年月、月日のやしろ、”となって、口に筆に無い人間、無い世界をお創め下された元の理を明かされ、”この世治める真実の道、”として時に荒波を渡る私達の人生航路の羅針盤をお与え下され許かりでなく、”ひながたの親、”ともなって如何なる厳しい苦難の中も神一条を貫き、自ら歩んで陽氣ぐらしの出来る通り方を、いと懇ろにお示し下さいました、更には私達子供の成人をひたすら望まれ、二十五年先の御寿命を縮められ、やしろの扉を開き、肉体の拘束を越えて末代かけての世界救けにお働き下さっております

しかし私達はついつい我が身我が家の思案が先に立ち、世界並同様の日常生活となり、何時しか教祖が遠くなって、折角お引寄せ頂いた御期待に添いかねている申訳なさを今更の如く痛感致しております

今日の吉き日、改めて、”ひながたの道より道無いで、”と仰せられて御言葉を心に体し、日々かしまのかりものの感謝を深め、なってくる一切に喜べる境地を学び、何時でも何処でもひのきしんの実践に励み、成程の人なくてはならぬ人となって地域社会に神名が流れ、教祖がお待ち下さるおぢばへ、周囲の人々を次々に御案内させて頂けるよう真実の限りを傾けて参りますが、どうか教祖、かく誓う私達を心ゆくまでお導き下さいますよう一同と共に慎んで御願ひ申し上げます

九十七 婦人会總會祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に婦人会○○委員部長 慎んで申し上げます

私達は早くから“この世治める真実の道に”お引き寄せ頂き 栄えある親神様のよふぼく 教祖の道具衆としてお使い頂く我が身の幸せを味わいつ、お陰で日々を明るく勇んで通らせて頂くことが出来 洵に感謝の念に堪えません

わけでも今日の吉き日はこれの教会の婦人会第○○回總會の日に当たりますので 只今から鳴物の調べ美しく声高らかにおつとめ学びを一手一つにつとめさせて頂きます

さて私達会員一同は『ひながたを辿り陽氣ぐらしの台となりましょう』との成人目標を心に置いて『原点にをやの思いを求め、日々におたすけの喜びを味わいましょう』と共に『次代を担うよふぼくを育てましょう』との活動方針に こうのうの理を積ませて頂きたいと念じつ、今日まで歩んで参りましたが 去る四月十九日の婦人会本部第八十三回總會の席上 真柱様から改めて『陽氣ぐらしは陽氣づくめの心から生まれるのであるが、何を聞いても見ても有難い、結構と喜べる心が台となる 自分の人生で起こること出来事に、親神様教祖の親心を思索し、自分自身を先づ振り返って、陽氣ぐらしに邪魔になる考え方を改める道を究める そうしてその道を生涯忘れず我が子を始め、更に一人でも多くの周囲の方々に移していく努力を傾けるよう』切望されました

当教会では只今“『教祖伝』を熟読し、真の親心を学ぼう”と共に“教会の還暦に向かつて、一日一枚のパンフレット配りの実現へ”を合言葉として 一日々々の歩みを重ねている最中でございます

親神様には会員一人ひとりが更に生み育ての天分を生かし 心新たに馳せ巡る先々に不思議不思議の理が現れ 会員の家庭の周辺に 一段と広く大きく神名が流れますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

九十八 婦人会總會2

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に婦人会○○委員部長 慎んで申し上げます

私達は早くから“この世治める真実の道に”お引き寄せ頂き 栄えある親神様のよふぼく 教祖の道具衆としてお使い頂く我が身の幸せを味わいつ、お陰で日々を明るく勇んで通らせて頂くことが出来 洵に感謝の念に堪えません

わけでも今日の吉き日はこれの教会の婦人会第○○回總會の日に当たりますので ○○支部長様をお迎え申し 只今から鳴物の調べ美わしく声高らかにおつとめ学びを一手一つにつとめさせて頂きます

さて私達会員一同は『ひながたを辿り陽気ぐらしの台となりましょう』との成人目標を心に置いて『原点にをやの思いを求め、日々におたすけの喜びを味わいましょう』と共に『次代を担うよふぼくを育てましょう』を合言葉に今日まで歩んで参りましたが 二年後の天理教婦人会創立九十周年記念總會を迎えるに当たり 改めて婦人会長様より『育つ努力育てる丹精 一手一つの和』を胸において 芯に肉を巻く人材育成の上にも“ひながたの道”を勇んで辿るよう要望されました 尚真柱様からは『自分の色に染めることを考えるのではなく 教祖の教えという色に仕上げることは大切でありそれには育てる自分が その通りになるよう努力することが先決である』というお言葉を戴きました

私達会員一同は まさしく混沌たる泥海を思わせるような世相に鑑み 一身一家の都合を捨てて 水の味を楽しみ月の明かりを頼りにしつつ、ひたすら神一条を貫かれて教祖を心新たに身近に拝し 今後は一層縦の伝道 横の布教に持ち場立場を通して真実の限りを傾けて参りますがどうか会員の一人ひとりが馳せ巡る先々に不思議不思議の理が現れ よふぼく家庭の周辺に広く大きく神名が流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

九十九 婦人会總會3

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教婦人会○○委員部長 慎んで申し上げます

親神様の広く温かい親心に守られ 五十年に及ぶ尊いひながたの道のお陰で私達会員一同日々何不自由なく結構にお連れ通り頂き 誠に御礼の申し上げます
もございません

わけても今日の吉き日はこれの教会の婦人会○○委員部第○○回總會をつとめさせて頂く意義深い日柄でございますので 只今から一手一つに学びづとめを勇んでつとめさせて頂きます

さて婦人会の成人目標は『ひながたを辿り陽気ぐらしの台となりましょう』と云うことでありますが 去る四月十九日御本部での第△△回總會の席上婦人会長様は『原点にをやの思いを求めましょう、尚後継者の育成 特に若い世代を丹精しましょう』の活動方針を 教祖百十年祭の年にふさわしく“実行の年”

となるよう 与えられた道を誠心誠意邁進させて頂きましょう』と仰せられました 続いて真柱様よりは『家庭にあっても教会の中でも 更に又社会生活の場に於いても常に周囲との調和を計り 一人でも多くの道の友を生んで頂きたい それと同時に 生みっぱなしではなく育てて頂きたい 生むことも難しいけれども 育てることは尚難しいと思う ところがその尚難しい育てる努力をどうか今年も精一杯傾けて頂きたい』と成人への門出の実行を誓うお言葉を下さいました

併せて今年の大切な旬の目標として 大教会につながる道のよふぼく全体に対し 修養科生二○○○名の大募集のお声がかかっております 思えば生み育ての徳分をお与え頂いた私達婦人会会員こそ この御声を受けて一手一つに勇んで前進せねばならないと自覚致します 私達は今日のこの總會を門出として 一層己の心の埃を払い たんのうに徹し ひのきしんに励み たすけ一条の道に勇躍して参りますが 親神様にはこの心定めの実実をお受け取り下さいまして 私達の周りに陽気ぐらしの輪が更に広く大きく拡がって参りますようお願い申し上げます

一〇〇 青年会女子青年会合同総会

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教青年会△
△分会委員長 慎んで申し上げます

“この道はどういう事に思ふかな この世治める真実の道”

と仰せ下さいましたが 私達一同栄えあるこの御教に兄弟としてお引き
寄せ頂き 届かぬ歩みながら世界のふしんを目指して 一日々々を明る
く暮らせるように相成り まことに御礼の申しようもございません そ
の中にも今日の吉き日は青年会○○分会第○○回 ○○女子青年会第○
○会合同総会をつとめさせて頂く日柄に当たりますので 只今からてを
どり学びを明るく勇んで執り行わせて頂きます

さて去る十月二十七日御本部での第△△回青年会総会の席上 青年会長
様は改めて「布教活動の推進と実働会員の増加」が青年会の基本方針で
あると述べられ 若い時代にこそ先ず大切なことは土壌作り 種蒔き
ひのきしんなどの実践による伏せ込みであり 尚又交付五十周年の記念
すべき今年こそ 教義の正しい理解を教典に求め一層自らの信仰を深め
ることであると仰せ下さいました

創立以来連綿と続いている青年会女子青年会活動の使命は 今も昔もこ
れからも不変であり 世界たすけへ向けてのあらしきとうりようたる役割
を一人ひとりが真剣に果たすことであります かくて相互に励まし合い
つゝ、自分の出来る眼の前の課題の一つ一つを親神様の思召し通りに解
決し やがては全教がより明るく元気に成人の一步を踏み出す原動力に
なってほしいと要望されました 尚それぞれの分会や地域に於いての現
行の活動を再点検し それを充実し 一層前向きに活発な活動を展開す
るよう期待されております

“一人万人に向う 神は心に乗りて働く”とのお言葉を深く味わいつゝ、
会員が一手一つとなって 新しいよふぼく作りに励ませて頂きますが
私達の馳せ巡る先々に不思議不思議の理が現われ 地域社会に思召し
下さる陽気ぐらしの輪が一層広く大きく拡がって参りますようお導きの
程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

一〇一 青年会女子青年合同總會2

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教青年会△△分会委員長 慎んで申し上げます

“この道はどういう事に思ふかな この世治める真実の道”
と仰せ下さいましたが 私達一同栄えあるこの御教に兄弟としてお引き寄せ頂き 届かぬ歩みながら世界のふしんを目指して 一日々々を明るく暮らせるように相成り まことに御礼の申しようもございません

その中にも今日の吉き日は青年会○○分会第○○回 ○○女子青年会第○○回合同總會をつとめさせて頂く日柄でございますので 只今からてをどり学びを明るく勇んで執り行わせて頂きます

さて去る十月二十七日創立八十周年記念の御本部の青年会總會の席上 真柱を継承されたばかりの青年会長様は「世界勇ませ」の誓いも新たに「世界たすけの実践 そして陽気ぐらしの世界実現に 我々が先頭を切るのだ」という気概を持って 一手一つにこれからの道を踏み出して頂きたい」と熱い期待をお述べ下さいました

思えば世界とは地球上の全ての地点を指しており 我々は自分自身の今日の立場持ち場から 国境を越え民族差を超えて正しい人間のあり方を 親神様の御教え又ひながたの道に求め 先ずは地域社会の人々から“成程の言葉” “成程の行い” “成程の人”と慕われるような歩みを相共に励まし合って辿りたいと決意致しております

“一人万人に向う 神は心に乗りて働く”とのお言葉を改めて深く味わいつゝ、一人でも多くの方々に真実を傾けて にをいがけお救いに励む私達の先々に不思議不思議の理の動きが現われ 地域社会に思し召し下さる陽気ぐらしの輪が一層広く大きく拡がって参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

一〇二 青年会女子青年合同総会3

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教青年会△
△分会委員長 慎んで申し上げます

“月日にはにんげんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから”
と仰せ下されておりますが 私達一同この御道にお引き寄せ頂き ひた
すら陽氣ぐらしの世界建設を目指し 届かぬ歩みながら前向きに日々々
を明るく勇んで暮らせるように相成り 御礼の申しようもございません
その中にも今日の吉き日は青年会○○分会第○○回 ○○女子青年会第
○○会合同総会をつとめさせて頂く日柄でございますので 只今からた
すけづとめの学びを一手一つに勇んでつとめさせて頂きます

さて御本部に於いて青年会総会の席上 青年会長様は「かしものかりも
のの有難さ尊さを知り 尚社会生活を営む以上 自分一人だけが勝手に
陽氣に生きることではない」と陽氣ぐらしの姿を提示され 「青年会員
一人ひとりがそれぞれの教会や地域社会に無くてはならない存在になる
ように」と要望されました

又去る第二十回女子青年大会では婦人会長様から「しっかりと心の向き
を教祖ひながた通りに神一条に正して 先ずは教会へ始終参拝し 何時
でも何処でもひのきしんに励み 併せて未信者へのにをいがけを心掛け
コツコツと地道な努力を重ねましょう」とお言葉を賜りました

殊に本年は初めから様々な節を世情にお見せ頂きましたが 教祖百十年
祭が目前に迫って参りました今日 私達はそれぞれの立場持ち場は異な
っても互いに立て合い助け合い 一にも二にもおぢばがえりの人々をお
与え頂き 御存命でお待ち下さる教祖にお喜び頂かねばなりません 今
日の総会を新たな門出として馳せ巡る会員の先々に不思議不思議の理が
動き 陽氣ぐらしの輪がたとえ少しでも拡がって参りますようお導きの
程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

一〇三 初代年祭御礼文

おぢいさん ○○の初代として末代に向う救け一条の土台となって下さったおぢいさん

只今このように孫曾孫打ち揃って参拜させて頂きました 又すでにご承知の通り この他に海外布教を誓って 遠くハワイの地で頑張っている孫曾孫も居ります

戦後生まれた我々は 残念ながらおぢいさんのお顔もお姿も知りません たゞたゞお写真を通してご生前の面影をしのぶばかりであります しかしおばあさんやお父さんたちから そのご苦勞についてはいろ／＼と伺って居ります お父さん達二人の子供を置き去りにして 単身おばあさんがこの横浜の地に出られてからの三年余り 商売を続けながらよく男一人で頑張りましたネ 炊事洗濯又慣れない手付きで疲れた眼をこすりながらつくろいものをしたり その上子供達の勉強まで見られたと聞いております それこそ雨の日 風邪の日 暑い夏も 肌をつんざく厳寒の冬も 文字通り 辛抱強くしかも真面目に貫き通されとのこと このような中にもおぢいさんの優しさと粘り強さがしのばれて 全く驚くばかりであります それに妻子の為とは云いながら 前半生を傾けられた五間々口の文房具商店をいさぎよくたゞまれ あてどもない単独布教の生活に切りかえられましたネ

追われるものの如く横浜に飛び出され とたんに野宿の途中で間違えられ 三日も四日も留置場でとめ置かれた由 全く涙無くして聞く事が出来ません それでも二人の男の子を大学まで出し しかも二人とも「甲種合格になってくれた」とお出直しの真近い頃喜ばれたそうですネ たゞ／＼私たちも惜しまれてならないのは 毎日のように教会設立の願書をお書きになり乍ら 戦時中の法律にはばまれて 名称開設に至らなかつたことであります まさしく教祖に対する夫善兵衛様のご苦勞と 蔭の貴重なお働きを思い起こさずにはいられません おぢいさんが遺されました「我が身どうなっても」の思いは二人の子供に伝えられ 我々孫や曾孫たちにも脈々と生きつゞけております どうか心よりご安心下さいましてこの祖霊殿のお鎮まりになり 多くの先輩方と共に天翔り国翔りけりて 後になり先になり親心深くお導き下さい

今日おぢいさんの年祭を通して 我々尚一層一手一つになって お道の先をまします高めていくよう ご霊前に居並ぶ人たちと共に力強く 又仲良く頑張つて行きたいと思つて居ります

おぢいさん まことに有り難うございました 心からお礼申し上げます

一〇四 布教所移転鎮座祭

此の新たな神床を払い清めて 今し厳かにお遷し申しお鎮め申しました国常立命 面足命 国狭土命 月読命 雲読命 惶根命 大食天命 大戸辺命 伊坐諾命 伊坐冊命なる親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な私達子供の上に親心深くお働き下され 洵に感謝の念に堪えません 殊には〇〇市〇〇町一二三番地 △△荘内に開設された△△△布教所に於いては 先になり後になり或いは表に出 或いは陰にありてその匂いがけお救いの道をお連れ通り頂きましたが 所長夫妻には三人の我が子を戴いたばかりでなく 講社を始め修養科終了のよふぼくなど理の子も次々とお与え頂き 心より御礼申し上げます

この度親神様の奇しきお計らいにより ここ△△市△△四四番地の一なる独立家屋に恵まれ 思召し下さるおつとめもつとめ易くなり 一切の移転手続きも恙なく完了致しました

そこでこの月〇日の今宵 神実様を只今遷座し鎮座させて頂きました 今後は益々親神様の御教を人生行路の定規とし羅針盤とし お望み下さる陽気ぐらしのあり方を教祖五十年のひながたの中に見つめ いよ／＼迫って参りました教祖年祭の仕上げの御用の上にも精一杯心を注ぎ それ／＼の心定めをつとめ上げさせて頂きたいと念願致しておりますが どうか元一日を振り返りながら新しい意欲に燃えてここ△△から再出発を誓う△△△布教所を通じてなされる世界一列の救けの上には倍旧のお力添えをお与え下され 布教所の内容の充実は申すまでもなく 講社を始めよふぼく信者の方々の上にも いよ／＼一手一つの陽気が漲り 近き将来名称の理をお与え頂く稔りの喜びを味わい得ますよう親心深くお連れ通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

一〇五 布教所改築鎮座祭

これの木の香薫る神床を清らかに払い清め 真新しい御社に今し嚴かにお遷し申しお鎮めいたしました くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさづちのみこと つきよみのみこと くもよみのみこと かしこねのみこと たいしよく天のみこと をふとのべのみこと いぎなぎのみこと いぎなみのみことなる親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

親神様には日夜片時の休みもなく 私達子供の上に親心深くお働き下され お蔭で毎日明るく暮らさせて頂き洵に感謝の念に堪えません 殊にはこれの〇〇布教所は昭和〇〇年五月五日開設の承認を戴きましてより丁度三十年の年月が経過致しましたが その間西区西戸部の里より此処〇〇区〇〇に移転し 所長も初代△△△△姉より二代△△△△姉へと若返り 所属のよふぼくも年限にふさわしく成人し 又新しい方々も参拝されるように相成り この頃では月次祭日に参拝所の狭さを感じるようになって参りました 従って一段とつとめの充実を期し神名を称えて生かされて生きる人の世の喜びの輪を拡げるべく 二間の境をとり参拝者一同の眞実により御神前の面目も一新しましたので 今日の上き日の上き今宵神実様を只今鎮座させて頂いたでございます

今後は一層親神様の御教を生涯の定規とし 一日々々の通り方暮らし方を教祖五十年のひながたに求めて人づくりの上に 猶又旬々の御用の上に心の限り力の限りつとめさせて頂きたいとお誓い下されておりますが どうかこれの布教所を基点としてなされるたすけ一條の道の上にも倍旧のお力添えを賜わり 教祖百年祭の年にふさわしく白紙に戻り一より始める一同の先々に人を救けて我が身救かる共存共栄の幸せが充分巡って参りますようお導きの程を慎んでお願い申し上げます

一〇六 講社新設鎮座祭

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお鎮め申し上げました。くにとこたちのみこと、をもたりのみこと、くにさづちのみこと、月よみのみこと、くもよみのみこと、かしこねのみこと、たいしょく天のみこと、をふとのべのみこと、いざなぎのみこと、いざなみのみことなる親神天理王命の御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

親神様は朝な夕な私達子供の上には深い親心と限りないお働きをおかけ下されお蔭で毎日明るく陽気に暮らさせて頂き、まことに感謝の念に堪えません

殊には神奈川県足柄上郡〇〇町〇〇一二三番地に住まわれる△△家はこの度親神様の奇しきお計らいにより長男〇〇氏の身上を台とされ、長年の友人である△△△△姉のお手引きのよりこのお道にお引き寄せ頂きました。早速人生の幸せの基本を体得すべく去る〇月二十六日〇〇氏が三ヶ月おぢばでの修養科へ入学され、続いて母△△△△姉の初席、父△△△△氏の初席、又姉〇〇姉の初席と次々に別席を受けられ、見事に一手一つとなって親神様の御教えを学ぶことになりました。修養科生活の三ヶ月もあつと云う間に過ぎ、この月二十三日の詰所での修養科生の月次祭を共々参拝させて頂き、おつとめ着を着てつとめられる〇〇氏のそのりりしい姿に、一同この道にお引き寄せ頂いた幸せと感激をしみじみ味わう事が出来ました。かねてより父△△△△氏が「会長さん早く神様をお祀りしましたしょう」と申し出てくださっていましたので、この度〇〇〇〇氏の修養科卒業をその絶好の旬と定め、この月この日の良き今宵神実様を只今鎮座させて頂く運びと相成りました。講名を〇〇講と名付けましたが、これより後は益々かしものかりものの理を心に強く治め、ひのきしんの実践につとめ、喜びに明け感謝に暮れるなるほどの家庭を目指し、先祖の霊様方にも一層敬慕の情をつくし、又おぢばでのおやささとやかたふしんと大教会の移転ふしんに心の限り力の限りつとめさせて頂きたいとお誓い下されておりますが、この講社を拠点としてなされるたすけ一条の道の上には珍しい不思議な御守護を給わり、尚これの周辺に思召し下さる陽気ぐらしの実が次々と拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

一〇七 降神之詞

掛かけ卷まくも畏かしこき親おや神が天みて理んり王おう命のみことしばし
此これの神かみ籬ひぢにき来り格ま座ましま坐ませとか恐こみ
恐かしこみもま白ます

一〇八 昇神之詞

此これの神かみ籬ひぢにお招まぎま奉まつりま坐ませま奉まつるお親や神が
天てん理り王おう命のみこと元もとの御み座くらにか還えりま鎮しまりま坐ま
せとか恐こみま／＼もま白ます

一〇九 商店上棟式詞

此れの所に神籬を立て、招ぎ奉り令坐奉る掛巻くも畏き親神
天理王命の御前に慎み敬い恐み／＼も白す

親神の広く深き御恵を嬉しび奉り辱けなみ奉りて ○○家は
も生業の道いと順調に 尚家族一同明るく壮健に暮されしが
この度旬満ちて これの東京都八王子市○○町一二三番地一
号十五坪余なる土地に 鉄骨軽量コンクリート仕上三階建売
棟 此建坪三十坪なる美容店△△及び住宅を株式会社△△の
設計及び施工のもと ○○○○氏名義にて設け奉らむと 去
る○月十五日地鎮祭並びに起工式を執り行いしが 事始めた
る工事滞うる事なく恙なく彌進みに進みて 今し棟木取り上
げむばかりに成りたるを以て 今日を生日の足日と上棟の儀
式執り行うと 先ず事の由を告げ奉らくと御前に御酒御食海
川山野の種々の味物を置き高成して捧げ奉らくを 甘らに安
らに聞食し諾い給いて 諸人等が諸手に取る綱根の只一筋に
曳き上げ奉る棟木の緩みなく やがて取り付けむ桁梁の損な
い動き鳴る事なく 内造りの最中も怪我あやまち無く守り幸
い給い 予め定める設計のまに／＼平けく安けく竣工えしめ
給い これの美容店△△を訪れるお客達の心も形と共に澄み
切り ○○家の家族一人ひとりには相和し相助け合い思召され
る陽気ぐらしの実を示し これの地域社会に互いに睦び親し
む一列兄弟姉妹の輪を次々と拡がり奉らしめ給えと恐み／＼
も乞い祈み奉らくと白す

一一〇 ビル落成式祝詞

掛け巻くも畏き親神天理王命の御前に慎み敬い恐み／＼も白す

この度横浜市西区〇〇町一二三番地一号なる〇〇講はも親神の奇しく妙なる御恵を嬉しび奉り辱けなみ奉りて 長の年月に亘るこれのお道の信仰も漸く稔り なお又家族親族諸人達の真心からなる親心に支えられ〇〇商店としての家業も日に月に栄えゆく中 今までの店の有様にてはあらゆる点にて不都合なりし為 ここに建築主を△△△△△氏と定め一同相謀り鉄骨五階建延三百平方米なる△△ビルの普請を 〇〇工業株式会社との施工のもと新たに設け奉らんと 事始められしが工事順調正しく滞うる事なく彌進みに進みて 今し斯くの状に事成し竣えたるは これ偏えに親神の深く厚い手引きと普請に携われし諸人達の真剣なる努力の賜なり

ここを以て今日を生日の足日と新築落成の儀式執り行わんと先ず事の由を告げ奉らくと 御前に御酒御食海川山野の種々の味物を置き高成して捧げ奉らくを 甘らに安らに聞食し諾い給いて 今日の竣工を新たな門出として元一日の心にかえり 親神様の御教のまに／＼教祖のひながたを辿りつゝ、いよ／＼一手一つとなりて新たな姿形にふさわしく家業の道に努め勞づき はた又この建物の中にて営まれる事務所の仕事の成果を挙げんものと努め励む心定めなれば 行末の日と月が重なるにつれ 彌繁昌に栄えしめ給い 今日△△ビル落成の意義を高からしめ給えと 恐み／＼乞い祈み奉らくと白す

一一一 鎮靈詞（若年者）

これの小床を飯の靈舎と天つ菅曾の清々しく被い清めて 今し鎮め奉り
齋い奉る故△△△△大人の靈の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく

空蟬の人の世は果敢なく定め難きものにして我がものと思ふこの身一つ
さえかしかものかりものとは知りつれど 親神は現世での陽氣ぐらしを

目標とされ 尚百十五歳を定め命と約束されてありしを 汝大人の昨日
に変わる今日の御姿を見奉りては誰かは驚き嘆かざらむなどてこれの世
を退向になしてかくはあわただしくも出直しまし、ぞ かな悲しあな悔

し 今は早や汝大人の笑ましき面影を見る能わず ああ汝大人の若く明る
き御声に再び触れることなし 思い返せば汝大人はや幸少なき身として

この世に生まれ出で給いしが 祖父母が親の代わりとなりてむしろ温か
き懐のまに／＼育ち給いき 冷たき世の嵐は直接幼き汝大人にはか、

らざりしならむ 伸び／＼と思ふがまゝに若さの喜びと夢をはぐくみつ、
人となり給わむ 良き兄代り姉代りの兄弟姉妹の真心を受けしならむ

などで未だ蕃のまゝ、二十五才というをこの世の涯りとして御空を渡るさ
やけき月の影わずかの雲井にさえ打消ゆるが如く たゞ独り淋しく親神

のふところに身退りししぞ 悲しとも悲しく口惜しとも口惜しき極みにな
む 然はあれども現世に生まれ出づるも出直すも事ごとに親神の御量に

しあれば 今更に歎き悲しむとも効無きこととて 明日を御葬の日と齋い
定めて 今宵しも新靈をこれの靈代に齋い奉り鎮め奉らくを 今午後こ

れの○○家はもとより縁ある家族親族 更に△△△講につながる道の子
たちを八十連綿五十彊八桑枝の如く向坂に立ち栄えしめ給えと露けき袖

の涙をしぼりつ、恐み／＼も白す

一一二 告別誄詞

これの所を暫時仮のの斎場と斎い定めて 令坐奉り置き据え安め奉る故天理教○前会長△△△大人の御柩の前に天理教 分教会役員 恐み敬いて告げ白さく

あわれ汝主の御骸をこれの所に安め奉りて 御葬の式典仕え奉るは これなも現世の終の別れの綴目にしあれば 親族家族は申すも更なり 親しき人等信者諸々に至るまで 深く偲び遠く思いかえして嘆き悲しみ仰ぎ慕い奉る心限りなかるべし 吾も亦副斎主として汝主の一世の事蹟思い出列ね称え偲びて 人々と共に永き別れを告げ奉らくと聞食せと白す

そも汝主はや大正 年 月 日△△△△△△の次男として生れ給い 幼き間より人に優れて聡く怜しく 子とある者の道を違えず 菅の根のいと懇切に父母に仕えて孝養の道をつくし給いぬ 汝主早くより信州を出て 花の都に憧れ 鈴ヶ森なる○商店に務めおりし時 くしき縁のまに／＼△△子と婚姻て妹背の中いと美しく 二人力を合せて△△商店を開業せり 年毎に店は栄え 娘二人を挙げし頃 妻の知り合いより天理の教えを聞き いたく感動して早速おぢばがえりをせしに何たる天の計らいにか 俄に長女○子は悪しき病に罹り 医薬の効なく 永久に帰らぬ身となりぬ この悲しみは如何ばかりにか 大人はこの大節に心倒すことなく 益々この道を尊信び 昭和○年四月おさづけの理を戴かれたり その後女三人男二人を授かり 色々忙しい中にをいがけお助けに奔走され 店員を始め知り合いを次々とおぢばへ修養科へと送り仕込まれたり

然るに昭和 年暮 突然交通事故に逢われ 一命も危ぶまれしに 奇跡的な親神の加護を受けられたり この節に魂の因縁を悟られ 神一条の道を定められ 直ちに自ら修養科へ入られたり その後家業を捨て 近くに細やかな住居を借り受け 単独布教を始め給いぬ その翌年教祖年祭の直前 教会を設立せり

大人は教祖雛型の道をまつぶさに踏み行わむことをし御心となし給いて 憩う間もなく信者を教え導き 百千の憂きに耐え辛きを忍びて 教えの道に励み給いぬ かくて大勢の教人信者に守られ 更に次々と神殿並びに教職舎を増改築されて 形の不しんも整えられ 名実ともに堂々たる教会を造り上げられたり

昭和 年より十数年間○支部長を受けられ 尚○年には修養科一期講師をも務め給いぬ ここを以て人々には敬い尊ばれ 世の真人と仰がれつゝありけるを 後継者である△△さんの成人をみて この年の春教会長を譲り 盛大にその奉告祭を務め終え給いぬ 然るに程へて身上に疲れが目立ち暫く入院されしが 充分な回復を待たずに又勇んで布教に飛び出されたり されど親神の如何なる御量にか 突然病に倒れ医師の業も心尽くしの看護もその甲斐なく 七十五才を現世の限りと出直し給いけるは 悲しいとも悲しき極みにぞありける 実に人のこの世は果敢なく定め難きものとは云えど 昨日まで相語らい睦びてありける大人の今日は呼べど叫べど答だになき御姿になり給わぬとは誰かは思いかけたりし 故れ親族家族は打ち驚き 夢に夢見る心地して 呉惑い愁い悲しむもさこそ理ならねど現世の定と慣しあれば 御葬の式儀執り行い今し惜らしき御骸を埋め奉らむとするによりて ありし世の事々思い出づるがまゝに 誄詞告げ奉らくをうまらに聞食せと白す

一一三 発葬誄詞

これの小床を仮の喪屋と斎い定めて暫し置き据え安め奉る故天理教△△分教会よふぼく△△
△△大人の御柩の御前に慎み敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く 春山に咲き乱れる花の梢にも
吹き荒ぶ嵐の嘆きあるが如く あわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わず未
だ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しとも悲しく口惜しくとも口惜しき限りにぞあ
る

汝大人はやその妻なる△△夫人の導きにより○分教会の草分けの頃よりたすけ一条の道の
影武者となり殊には教会が大東亜戦争によりて灰燼の憂き目にある時 いち早く汝大人の誠
心もて十数里隔てたる立川の町に出で山なす木材を大八車に乗せて遠き道程を横浜なる西戸
部の里に運び込まれ 戦災復興の第一人者となられしが そは地域社会の眼の見張るところ
となり 為に親神の名を光り挙げられしのみならず 上級に一時鎮め遷し奉りしお目標様を
迎え 朝に夕におつとめをつとめ 勞づく角目の道を開かれたり かくて○分教会の信徒総
代として節々には固く真面目なる性質のまに／＼集まりの處には静かなる姿を見せられ あ
るいは又会社休みを利用しひのきしんに親しまれし時なぞ一息する暇さえなく げに”口さ
きのついしよばかりはいらんもの 心のまこと月日みている”の御言葉を地で行かれたり
近く△△分教会が末代だすけの道場たる神殿ふしんにかゝられし時なぞ 汝大人は頼みもせ
ず頼まれもせず病み倒れし故△△△△刀自の心を思い 仕事場の片付けに余念なかりし伏せ
込みはあゝ今も尚忘れ得ぬ語り草の涙なり

大声を挙げず黙々として生涯を貫かれしその働きに守られ生かさされ これの○○家の子たち
みなそれぞれに修養科に学び 全員よふぼくとなり一手一つのひながた家族へとすすまれし
汝大人の功績は○○分教会ある限り後に続く者の道標とならん さわれ空蟬の世は定め難き
ものかは 重き御病に床に伏されしが 家族親族相共にひたすらに親神に乞ひ祈み奉り 元
の如く壮健なる体に帰し 今暫時の余生を樂しまれんことをし願ひけるに その甲斐もなく
医師の業も尽き果て、この年この月二十五日午後二時齡八十才を生きの涯りと今年六、七、
八の修養科の学びを来世に向うみやげとし花道として逝く水の還らぬ如く 入る月の影消ゆ
るが如く忽ちに朝霞のごと夕霞のごと果敢なく身退り坐しつるは 云わぬ術為む術知らに今
更に夢見る心持になむ あわれ悲しきかもあわれ口惜しきかも 今日よりは汝大人がポツポ
ツ漏らされる言葉聞こえずやなりけむ あすよりはいそ／＼と絶えず立ち働かれる汝大人の
御姿永久に見えずやなりけむと 雨雲の空かき曇る心持なもするを人々暗夜に灯火を失うが
如く 漂う船の舵なきが如く憂い惑い 枕辺に棲這い脚辺に匍匐い歎き悲しみ慕い参るも現
世の人の情の理なれど 身退りし人の蘇えるべくもあらず今は御教の定め式のまに／＼一
世の終の式儀仕え奉りて永き別れを告げ奉らくと 御前に御酒御食海川山野の種々の味つ物
を捧げ奉りて事の由を告げ奉らくを平らげく安けく諾い給いて 我が親神の思恵を思い頼み
百足らず八十の隈路を迷う事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて 遺れる家族親族た
ちを己が向々あらしめ給わず清き赤き直き心もて 先ずは眼先に迫れる教祖九十年祭の仕上
げのつとめに勞き奉らしめ給い 汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安
らかに出て立ち給い 汝大人は再び新しき着物を召されていち早く これの世に出直し給え
と○○分教会に伏せ込まれし功績を深く感謝しつゝ、 露けき袖の涙をはらい謹み敬いて白す

一一四 火葬場祭詞

言ふも悲しく思えば涙ぐましき故天理教○○分教会○
代会長△△△△大人の御柩の御前に白さく

あわれ汝大人はや世の遠人永人と思ほせどもこの年○
月○○日おたすけの帰り道にて俄に倒れられ救急車に
て○○病院に入院されしが遂に意識も回復すること
なくいと安らかに身退り坐しけるは誰やし人が思い
奉りしかさわれ云うて帰らず思うも甲斐なし

されど病床にありて些かも苦しみの表情なく痛みを
訴えられし事の無かりしは実に親神の温かき親心なら
むあ、最後のお別れの玉串捧げ奉らくを平けく安らけ
く聞食して御遺骸はこれの火葬の場に御供仕え奉り空
しき烟と成さしめ奉らむとす

御遺骸は鑄に収めて一時大人の衣の住所ともなりつら
む

あ、この状を甘らに安らに聞食し諾い給いていきどお
り給う事なく淀み給う事なく御霊は正しく親神のふ
ところに抱かれ給いて現世の家族親族諸人等を夜の
守り日の守りに恵まい幸え給えと露けき袖の涙をしぼ
りつ、慎み敬い恐み／＼も白す

一一五 葬後祭並に十日祭詞

これの靈代に齋い定めて令坐奉り鎮め奉る故天理教○
○分教会○代会長△△△△大人の御靈の御前に慎み敬
いて白さく

あわれ汝大人はや久方の空行く月の清き明き御心に
よく御教の蘊奥を極め 常に己がいんねんの自覚を強
め おたすけに励み 家族親族はもとより道の子たち
の上うへに心こころを注そそぎその成人せいじんを心掛こころがけ 自らみずからは教祖おやさまひなが
たの道みちを見つめて忠実まめにいそしく己おのが務つとめを重いかしみ仕
え奉りてありけるを 果敢はかなくもこたび出直でなおし坐ましつ
るは夢ゆめに夢ゆめみる心持こころもちになむ 今尚いまなお何処いづくにか在いますが如ごとく
思おもほゆるも あ、今いまは矢張やはり呼よべど答こたえはなく見渡みわたせど
御姿みすがたはあらず 心こころは千々ちぢぢに碎くだけていと淋さびしき中なかに今いまは
葬後はらひのあとの御祭みまつりに併あわせて十日とつかの御祭みまつり仕つかえ奉まつる時ときとはなりむ
汝大人ながの面影おもかげを浮うかべ 在いませし世よの事ことどもとりどりに語かた
り合あいてあの日ひこの時ときの功績いさおしを偲しのび奉まつり 教祖おやさま年祭ねんさいを
目指めざして汝大人ながが心こころにかゝる教会きょうかい内容ないようの充實じゅうじつを計はかり
併あわせて大教会だいききょう移転いいてん神しん殿でん普請ふしんに精一杯せいいつぱいの眞実しんじつの伏ふせ込こみ
を誓ちかいつゝ、かくの如ごとく拜おろがみ仕つかえ奉まつる状さまを聞食ききしめし諾うすない
給たまいて御子みこを始め道みちの子供達こどもたち一同いっとうを彌次々つぎつぎと向榮むくまに幸
え恵めぐみ給たまえと恐かしこみ／＼も白ます

これの奥床を仮の靈舎と齋い定めて安置奉り鎮め奉る
故天理教○○分教会○代会長△△△△大人の御靈の御
前に慎み敬いて白さく

あわれ汝大人はや　かくもゆくりなく果敢なく出直し
坐しつるは　げに夢に夢みる心地になむ　今尚何処に
か存在すが如く思ほゆるも　あゝ今は矢張り呼べど答は
なく見渡せど御姿はあらず　心は千々に碎けていと淋
しき中に御葬の式仕え奉り竟えぬるを以て　家の内外
を祓い清め　御前に真榊挿しはやし　時の花立て並べ
心づくしの品々置き足らわし葬後の御祭に併せ十日の
御祭仕え奉る時とはなりむ

汝大人の面影を瞼に浮べ　在せし世の事どもとりどりに語り合いて　あの日この時の功績を偲び奉り　遺れる心を受け継ぎ　今日より後は一層互い立て合い助け合
い　それぞれ持場　立場から進んで世の為人の為に
ならむと誓いつゝ、　かくの如く拝み仕え奉る状を聞食
し諾い給いて御子御子孫を始め道の子一同を彌次々と
向榮に守り幸え恵み給えと　恐み／＼も白す

一一七 六柱合祀祭

これの靈代に只今厳かにお鎮まり下さいました○○家の先祖六柱の靈様方の御前に慎んで申し上げます

先ずは大正五年○月○日六十歳で現身を隠された故△△△△大人 翌大正六年○月○日可愛い盛りの幼い三歳で早くもこの世を去られた故△△△△△△若子 昭和十年○月○日将来を期待されていた二十四歳の若さで今生を終えられた故△△△△△△大人 その後を追うようにして同じ年○月○日あたたら蓄のまゝ、二十二歳で散られた故△△△△△△刀自 その涙も乾く間もない昭和十一年○月○日八十二歳をの長寿を全うされた故△△△△△△刀自 併せて終戦後の未だ厳しい時代の昭和二十六年○月○日惜しくも六十一歳で出直された故△△△△△△大人 以上六柱を既にお鎮まり頂いている故△△△△△△刀自 故△△△△△△大人の許に甚だ遅まきながらお迎えさせて頂きました

親という理戴くなら いつも同じ晴天

とお諭し頂いておりますが 親神様はもとより先祖の靈様方あればこそ今日の日と 改めて朝夕の御礼怠らず仕えさせて戴きます どうかこれから後○○家一同を安らかにお護り頂き 更に世の為人の為に 人とある誠の道を強く正しく辿れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

一一八 埋葬祭詞

これの所を暫し住所と安く穩にその衣を遷し奉り鎮め
奉る故△△△△大人の御墓の御前に慎み敬い恐み／＼
も白す

先程汝大人の家族親族を始めて その縁につながる親
しき人々相寄り集い 現世にありし日の壮健なる俤を
偲び 明るき笑顔を思い起こしつゝ、あの日この時の
事などとりどりの花を咲かせ 厳かに五十日の靈祭を
仕え奉りしが 今し諸人たち打ち揃いて これの御墓
所に歩を運び 御遺骸を納め奉りて種々の味物を捧げ
奉り 拝み奉らくを甘らに安らに聞食し諾い給いて 汝
大人が真心をかけて開かれし△△△布教所の充実を期
し いや／＼親神の御教を体し ひながたの道を身近
に拝して明るく勇みて一日々々を送り迎え 負持つ祖先
の名を高めむものと それぞれ固く心を定め相誓える
態を御心持美わしく受け給い 遺れる子たち孫たちの
行末を見守りつゝ、汝大人はまた新しき衣を召され
いち早くこれの世に出直され 次の世こそ一層の長き
命を賞でつゝ、人救いの道 生業の道も更に勢もて押
し進められる共に 汝大人自身か思召される陽氣ぐら
しの実を 家族親族また世の諸人と共により永くより深
く樂しまれ給えと恐み／＼も白す

一一九 水子埋葬詞

これの所にまだ縫い上がらないままの着物を静かにお鎮め致しました△△△△水子若子の御墓の御前に慎んでお願い申し上げます

汝若子は父△△△△母○○の三人目の子供として今年夏には可愛い顔を見せられることと心から楽しみに待っておりますのに 如何なる親神様の思召であったのでしょうか この○月○日胎児のまま来世に旅立ってしまったわれました この予期しない節を通し改めて親としてのあり方を思案し 鮮やかな芽を出すよう誓いながら諸人等と共にこれの御墓に歩を運び 只今古い着物を奥深くお埋め申し 種々の味物を御供して深く頭を垂れて 伏し拝む姿を心安らかにお受け取り下され この世に遺っております両親や兄達二人ばかりでなく○○家並びに○○分教会に縁深い人々を三才心の無垢なまま精一杯お守り下され 汝若子は今度こそ新しく強い着物を着けて一日も早くこの世に出直され 来世こそ長い命を賞でつゝ陽氣遊山の世界づくりに役立つて下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

一二〇 改葬埋葬詞

この度〇〇家の家族の方々が 先祖を思う真心から買
い求められましたこれの新しい御墓に 只今静かにそ
の衣をお遷し申し上げられました八柱の靈様方の御前
に慎んで申し上げます

改めてご生前の名をお出直し順に敬称を省き読み上げ
ますと △△△△△ △△△△△ △△△△△ △△△△△

△△△△△ △△△△△ 次いで△△△△△ △△△△△の八
柱ですが 先程横浜市西区〇〇町なる〇〇家に寄り集
い それぞれご生前の面影を偲び笑顔を瞼に浮かべ

あの日この時のことなど語り合いながら 靈代に六柱
の靈様方を厳かにお迎え申し合祀祭をつとめさせて頂
きました 引続きこれの墓前に心を籠めて種々の味物
を御供申し 靈様方の長年に亘る親心溢れる養育に

改めて深く感謝し 一人ひとり玉串を手に取り参拝さ
せて頂きます かくてこの意義ある節を通し”人間は
この世に働きに來たのや はたらくとははた／＼を樂
させることやで”と仰せ頂いたお言葉を心に体し そ
れぞれの持場立場から世の為人の為に誠の限りを尽く
させて頂きますが どうか私達一同を先になり後にな
りお見守り下さいますと共に 新しい衣を召された來
世こそ より一層の長命で 〇〇家の周辺に陽氣ぐら
しの輪が広く大きく拡がって参りますようお導きの程
を一同と共に慎んでお願い申し上げます

これの所に静かにその衣をお鎮め申しました故△△△
△大人の御墓の御前に慎んで申し上げます

汝大人は昭和六十年○月○日未だ春秋に富む齡五十五
歳というをこの世の限りとして いとしき妻と我が子
三人を遺して俄に現身をかくされましたが それから
月日は流れて早くも十年が過ぎ去りました ところが
去る○月○日九十五歳という長寿を全うされ出直され
ました汝大人の義母の明日は五十日祭に引続き その
御遺骸を新しい墓地に埋葬させて頂きますので この
機会に家族親族一同の真心より汝大人の衣を共にお移
し申しお鎮め申し上げますに相成りました かくて
改葬の御祭をかくの如く執り行わせて頂いております
一同改めて汝大人の健やかかなりし頃の面影を瞼に浮か
べ とやありけむかくやありけむと懐かしく話の花を
咲かせておりますが 天翔り国翔り先になり後になり
更に温かく力強くお見守り下さいまして 思召下さる
陽気ぐらしの実がそれぞれの家庭に見えて参りますよ
うお導きの程を 併せて汝大人は新しい○○家墓地に
平けく安けくお移り下さいますよう一同と共に慎んで
お願い申し上げます

一一二 年祭前墓前祭

久保山なるこれの所を千代の納めどころと　その古い衣を脱がれました天理教○○分教会○代会長故△△△△大人の御墓の御前に慎んで申し上げます

汝大人が大東亜戦争下の昭和十九年○月○日　丸々六十歳でゆくりなくも　この現世を出直され親神様の温かいふところにお帰り下されてより早くも五十年の歳月が流れ去りました

この後十二時半より改めてお鎮まり頂きました新神殿の祖霊様の御前で　汝大人の遺されたご家族はもとよりご親戚　道の子供たち一同と共に五十年祭を執り行いありし日の面影を偲び　昔話にとりどりの花を咲かせたいと存じます

教祖を通してお伝え下さいました御教によれば　汝大人は最早や新しい衣をつけて　この世で生き／＼と勇んでお暮らし頂いている事と拝察致しますが　神ならぬ身の私たち人間に詳しく判る術はなく　徒らに生前中のあの日あの時　幾山坂を越えられた道すがらを思い浮べ　汝大人の人柄を讃えると共に　その偉業と遺志を改めて深く広く大きく受け継ぐ固い決意を定めさせて頂きます

墓前に心より御供申しました汝大人の好物を　心よく味わい下さいまして　私たち一同の行く手を　親神様教祖を通して温かく御見守り下され　お導き下さいますよう　これのところからも慎んでお願い申し上げます

一二三 年祭前墓前祭2

これの所を千代の納めどころと 他の子達と共に その古い衣をお鎮め申しました○代会長故△△△△刀自の御墓の御前に慎んで申し上げます

汝刀自は昭和三十年長男○○の○代会長就任のお運びを喜ばれ 更に昭和六十年初孫の私が○代会長に任命されるという光榮に浴され その間三十年の長きに亘って親会長と慕われつゝ、昭和六十三年○月○日九十二歳という長命にて親神様のふところにお帰り下さいましたが それから早くも十年の歳月が流れ去りました

この墓前祭の後一同神殿に寄り集い十一時からおつとめ学び 引き続いて祖霊社の御前で午後一時から十年祭を執り行わせて頂きます

思い返せば汝刀自は昭和十八年三月○日 大教会長より”関東へ道を”との指示を受けられ 丹波から東京に出られた東本の初代中川よし先生を心に抱き せめて遅咲きの桜であっても鮮かに咲いてみたいと願って二十六日おぢばから こゝ横浜へと文字通り単身布教に踏み切られました 奇しくも昭和六十年真柱様が親しくお入り込みを下され お迎えの玄関先にて汝刀自と握手をされ 諒々お言葉を頂いた後 客間にて”元一日”の揮毫を賜りましたことは 汝刀自にとって来世へのこよなき花道であったと称えずにはおられません 過ぐる横浜での汝刀自のたすけ一条の道は五十五年に及んでおりますが その間に数々のよふぼくを産み育てられた許かりでなく その理の子達が理の孫を授かる布教師にまで丹精の眞実を尽くされた事を 私達一同改めて心に体し 今後のにをいがけおたすけに一層拍車をかけて参りますが 親神様教祖が思し召し下された眞正の平和世界はまだ＼／遠く どうか汝刀自は来世 より広くより大きく御活躍下され 陽氣ぐらしの実をより一層深めた御多幸の人生を歩まれますよう 一同と共に慎んでお祈り申し上げます

一二四 年祭後墓前祭

これの所に静かにその衣をお鎮めさせて頂きました天理教○○分教会初代会長故○○○○刀自の御墓の御前に慎んで申し上げます

汝刀自が遺された家族親族又懐かしい教友達と共に 先程永年勤められました○○分教会の祖霊社の御前で 心を籠めて一年祭をつとめさせて頂きましたが 只今は一同この御墓の御前に打寄り集い 九十五年に亘る長きご生前のあの日この時を思い浮べ 健やかかなりし頃の面影を瞼に描き 昔話にとりどりの花を咲かせておりますが 生涯を一日の如く貫かれました上級○○分教会への日参を始め素朴で真面目な神港の道すがらに 今更の如く深く感謝せずにはおられません

その上から 此の御前に種々の味物を御供申し これより後も一同心を合せ いよ／＼○○家の家門を守り 負持つ祖先の名を高むるはもとより 一人々々が持場立場を通し 世の為人の為に真心の限りを捧げ 更に真実の神名を流し 人の世の正しいあり方をまわりの人々に取次ぎ ひたすらたすけ一条の道を力強く押し進めむものを固く心に誓い 深々と御礼と決意の頭を下げ 厳かに墓前の御祭を仕えさせて頂いておりますが どうか先になり後になり 汝刀自が御心にかゝる家族親族は申すまでもなく ○○○分教会にお引き寄せ頂く道の子たちの行く末を幸せにお守り下され すさび勝ちで欲にきりない泥水のような人々の心に お望み下さる陽氣遊山の明るく清らか灯が点じられますよう 併せて汝刀自は次の世こそ一層恵み多い人の世を長く楽しくお味わい下さいますと共に きりなしふしん のよふぼくとし 更に末代に光る教会の長として 今生以上のお働きをして下さいますよう一同と共に慎んで御願ひ申し上げます

一二五 夫婦年祭後墓前祭

これの所に御生前の衣を厳かにお鎮めさせて頂きました天理教○
○布教所前所長故○○○大人並びに夫人△△刀自の御墓の御前に
慎んで申し上げます

汝夫人達が遺された家族親族又懐かしい人達と共に 先程○○分教
会の御霊の御前で 心を籠めて一年祭並びに五年祭をつとめさせて
頂きましたが 只今は一同この御墓の御前に打寄り集い ○○大人
の七十年及び△△刀自の六十五年に亘る御在世中のあの日この時を
思い浮べ 健やかかなりし頃の面影を懐に描き 昔話にとりどりの
花を咲かせておりますが 生涯を一日の如く貫かれました真面目な
御働き 今更の如く深く感謝せずにはおられません
その上から これの御前にとりどりの味物を御供申し 次々と玉串
をととりつ、これより後も一同心を合せ 御在世中に遺された話の
種や道すがらを改めて深く味わい生かしつ、いよ／＼○○家の
家門を守り 負持つ祖先の名を高むるはもとより 一人々々が持場
立場を通し一層世の為人の為に真心の限りを捧げ 更に真実の神名
を流し 人の世の正しいあり方をまわりの人々に取次ぎ ひたすら
たすけ一条の道を力強く押し進めむものを 固く心に誓い 深々と
御礼と決意の頭を下げ 厳かに墓前の御祭を仕えさせて頂いてお
りますが 汝夫人達は親神様の御恵みのまに／＼ 古い着物を脱い
で新しい着物とお着替え下された来世はよりよきよふぼくとなりて
世界のふしんの上に今生以上のお働きをされますよう 尚又 送り
迎えされる一日々々を今生以上に長く楽しく幸せにお通り下さいま
すよう一同と共に慎んでお祈り申し上げます

一二六 五十日祭合祀祭

此の小床を被い清めて今し祖霊社に遷し奉り鎮め奉る故△△△△刀自の御霊の御前に 天
理教 分教会長 慎み敬い恐み／＼も白さく

青空を行く麗かなる陽の光にも 俄に黒雲が蔽いて 厳しき雨風に変るが如く 秋の野山を
飾る紅葉の美わしきにも吹き荒ぶ嵐の嘆きあるが如く あわれ汝刀自はも現身の慣い得免
がれ給わずして 九十五歳という長寿ながらこれの現世を退向になして 覆水盆に返ら
ずの言葉の如く果敢なく来世に隠り給いぬ 今も尚現世に壮健に立ち働きて何処にか在す
が如く思ほゆるも 矢張り呼べどもその答はなく 戸の外に出でて見渡せどその御姿はあ
らず 誠に云わぬ術為す術なし 限なき月影を見ればありし日を偲び さ、やかなる風の
音を聞けば つとめ勞かれし長の年月を思い起こしつゝ、露に花咲く忘草 忘るゝ日なく偲
び出でぬ時なく 早くも五十日は夢の間と過ぎ去りて あわれ淋しき中にも今し合祀の
御祭に併せて五十日の霊祭かくの如く仕え奉る時となりにけり

故に家族親族相識れる人々 これの席に打寄り集い 汝刀自より耳にせし語り草たる
琵琶湖の辺なる田舎での幼き頃 あるいはその度毎眼を細めていと懐かしげなる面持を見
せられし中国は漢口での初婚の頃 また△△△△氏と再婚されし後 長の年月山形なる△
町にて幾多の風雪をしのぎ山坂を踏み越えられし中年の頃 次いで西武△ヶ丘の程近き
入間市○○なるこれの自宅にて静かに老いの身を預けられし晩年の頃など 日を追ひ月を追
ひ年を追ひて汝刀自の面影を思い浮かべ臉に描きとりどりの話の花を咲かせつゝ、心より
御霊を宇良賀志奉らくと 御前に御酒御食種々の味物を供え奉りて 露の玉串捧げ奉り拜
み奉らくを平けく安けく聞食し諾い給い ひき続き遺れる家族親族たちが真心を籠めてこ
の程購われし千代の住所と定め奉れる新しき御墓所に 汝刀自の御遺骸を納め奉る御墓の
御祭仕え奉らんとす

時にいとしき汝刀自が娘婿であり 眼に入れても痛くなき可愛い孫たちの父親なる△△△
△大人が 今を去る八年前未だ若き五十五歳ながら一足先に親神のふところに帰り給いそ
の衣を○○分教会の御墓に暫しお鎮め申し 時機の到るを待ち望みてありしが この旬に汝
刀自と共に埋葬の御祭を執り行い 母子の契りを更に深めんとす 故にこの態を甘らに安
らに聞食し これより後汝刀自が幾多の節又節の中些かも挫けることなく生涯を貫かれ
その姿を○子△子の二人に移されしお道の信仰を末代かけて守り抜かれ 思召下さる陽氣
ぐらしの人の世が これの地上に見えてくると共に 天翔り国翔り○○家△△家を始めとし
て その縁深き人々を幸く真幸く恵み幸え給えと恐み／＼も白す

一二七 五十日祭

これの仮かりの小床おとこの靈代みたましろに暫しばしお鎮しずまり下さいます天理教〇〇分教会
初代会長故△△△△刀自とじの靈みたまの前に天理教 分教会長
慎つしんで申し上げます

久方ひさかたの空行からいく月のさやかな光ひかりにも 立ち迷まよう浮雲うきぐもの障さわりがある如ごとく
いつまでも健すこやかに明るくお暮くらし頂いたきたいと 心こころより願ねがっており
ましたのに 汝なが刀自とじは去さる一月三日 齡よわい九五歳の 長命ながいきのちながら 入はい
月の影かげ消きえるが如ごとく はかなくも現身うつしみを隠かくされてしまいました 夜空よそら
にかゝる月影つきかげを見みては ありし日の笑顔えがおを思おもい浮うべ 懐なつかかしき面影おもかげを
睨まぶたに画えがいておりますが 早はやや五十日の月日つきひが夢ゆめの間に過すぎ 今宵こよひ茲ここに
靈祭みたままつりをつとめさせて頂いたく日ひと相成あいりました 御前おんまえに汝なが刀自とじの
家族かぞく親族しんぞく又親またしき人々ひとひと寄り集つどい 改あらめてご生前せいぜんの道みちすがらをあれこれ
と語かたり合あい 共ともに喜よろこび 共ともに涙なみだした 昔いにしえをそれぞれ思しのんでおります
改あらめて思おもい返かえせば 四十年よんじゅうねんと雖いえどもも言葉ことばではほんの一言ひとことで終おわります
が 人ひと一倍いちばい案あんじられた可弱かよわい体からだの頃ころから それこそ白髪はくはつの高齡こうれい者と
なっても尚なお 毎年まいねんの元旦がんとんから大晦日おおみそかに至いたる吹雪ふぶきの舞まう酷寒こつかんの朝あさも
裾すそまでずぶ濡ぬれのどしゃぶりの雨あめの夜よも親神おやがみさま様おやさま教祖おんむすねんを念頭ねんとうから放はなさ
ず こゝろから△△△へのだら／＼坂ざかを登のぼり降おりして よくぞ一日いちにち
も欠かかさず上級じょうきゅう△△分教会への日参にっさんをお続つづけ下さいました 前日ぜんじつは
今年ことしの初風呂はつぷろに身みを清きよめ 夕食ゆうしょくを済すまして来世つぎのよへ門出かどでされた見事みごとな
花道はなみちは 葬儀そうぎにお出掛でかけ下くだされた方々かたがたから一様いちように「大往生だいおうじょうですネ 私わたし
もあやかりたい」の声こゑとなっておりました
心配しんぱいされた墓地ぼちの話はなしも恙つつがなく治あきまり 近く埋葬祭まいそうさいの日ひとなりませんが
今宵こよひの五十日祭ごじゅうにちさいの御前みまえにとりどりの品々しなしなをお供みなえさせて頂いたき 一人ひとりひ
とりが心こころを籠こめて伏ふし拜おろがむ姿すがたを御覽ごらん下さいまして 汝なが刀自とじはよ
りよき来世つぎのよをお迎むかえ下さると共ともに 天翔あまかけり国翔くにかけり先さきになり後あとになり
〇〇家はもとより〇〇分教会に縁えにし深ふかき人々ひとひとを夜よるの守まもり日ひの守まもりにお
見守みまもり下くだされ 尚なお又またそれぞれの持場立もちばたちば場ばを通して世界せかいのふしんの榮は
えあるよふぼくとなりますようお導みちびきの程ほどを一同いちどうと共ともに慎つしんでお願ねが
い申し上げます

一二八 会長一年祭

これの祖霊社に静かにお鎮まり下さいます天理教○分教会初代会長故△△△
△刀自の霊の前に 天理教 分教会長 慎んで申し上げます

久方の空行く月のさやかな光にも 立迷う浮雲の障りがあるように また春の
山に咲き乱れる美わしい梢の花にも吹き荒ぶ嵐の嘆きがある如く いつまでも
明るく健やかに この世でお暮らし頂きたいと家人はもとより一同心より願っ
ておりましたのに 汝刀自は昨年一月三日齢九十五歳という長命ながら 逝く
水の還らぬ如く 入る月の影消えるが如く はかなくも来世への旅路を発たれ
てしまいました 夜空にかゝる月影を見ては ありし日の笑顔を偲び 露に花
咲く勿忘草のように忘れる日は無く 早や一年は夢の間に過ぎて 未だ深い淋
しさが心に残るまに、一年祭をこのようにつとめさせて頂く日と相成りまし
た 御前に後任会長○氏 又孫の○氏○氏を始め一同こゝに寄り集い
改めてあの日この時をそれぞれに語り合い共に喜び共に涙した昔日を次から次
へと思ひ起こしております

顧みますれば汝刀自は 昭和二十年○月○日△△△△△姉に案内され 初めて上級
○分教会に参拝されましたが 二十六年七月修養科を終えると間もなく△△
△△氏の身上願いから上級○○の朝夕勤に日参する心定めをされました 二十
六年十月○日以来文字通り元旦から大晦日まで 豪雨の日も暴風の中も酷暑の
夏も厳寒の冬も嫌わず続けられ △△△△△氏亡き後もその日参が実行され 遂
に四十余年の長きに及びました その間汝刀自の自動車事故による入院中に新
築された○家には不釣り合いな程大きな神床及び上段が設けられました
毎日汝刀自の眼に神棚が見えない時はなく 喜びにつけ悲しみにつけ四六時中
神様と対面 否応なく心の成人が促され 三十年○月布教所開設 四十年○月
二十六日には栄ある○分教会の設立となり 汝刀自は末代に光る初代会長を
拝命されました 同時に人一倍弱かった半病人の体が 人一倍長い人生を樂し
まれ 忽然として何の苦しみも無く現世を去られました かくて今尚汝刀自を
偲び懐かしむ心 いと深きまに、かくの如く一同御前に馳せ参じて伏し拝
む様を心安らかに御覧下され 今後は更に○家はもとより この教会を通し
てその周辺に繰り広げられるたすけ一条の先々にも尚一層のお力添えを賜り
思召し下さる陽気ぐらしの輪が次々と拡がって参りますようお導きの程を一
同と共に慎んで申し上げます

一二九 若年者五年祭

これの靈舎に鎮め奉り坐せ奉る故△△△大人之靈の御前に慎み敬い恐み／＼も白さく

久方の空行く月の清き光にも 立迷う浮雲の障りがある如く 春山に咲き乱る、梢の花にも吹き荒ぶ嵐の嘆きがある如く 行末かけて頼みたりし汝大人はもあわれ現身の慣い得免がれ給わず 何時迄も残り惜しきこれの現世を退向になして過ぐる昭和六十年○月○日齡二十五歳というをこの世の限りとして 逝く水の還らぬ如く 入る月の影消えるが如く 果敢なく遠く遙けき親神のふところに隠り入り給いぬ 今も尚 現世の何処かに健やかに在すが如く思ほゆるも 矢張り呼べどもその答えはなく 戸の外に出でて見渡せどその御姿はあらず まことに云わぬ術為す術なし 隈なき月影を見ればありし日を偲び さ、やかなる風の音を聞けば あの日あの時を思い起こしつ、 春を迎え秋を送りしに早くも丸五年は夢の間と過ぎ去りて 未だに淋しき中にも今し五年の靈祭かくの如く仕え奉る時となりにけり

故に家族親族教会の人々 これの席に打寄り集い 徳薄き生まれながら その故にこそむしろ大切に育てられし 幼き頃はいより小学生の頃中学生の頃次いで○工業高校に学ばれし頃の汝大人の童顔と丸くぼちやっとした姿を偲びつ、学舎を卒えるといち早くぢばを慕いて修養科三ヶ月の人となり 引続き 神奈川学生会に席を置き 親神の御教 教祖のひながたを求める若き道の子たちと深く交わりつ、月を重ね年を経されたり 今にして思えば汝大人はひたすらその中に生き甲斐を見出し 厭しき世を生き抜く力を得むと望まれしならむ やがて○工務店をふり出しに 内装屋の仕事に青春をぶち込み 「父亡き後は僕が母の力とならむ」といとけなげなる言葉を出しておられた その後は○に通いしものと思いきるに 母が横浜に出られし留守中 △△△の○○荘より俄にただ一人淋しく旅立たれるとは…… あ、汝大人だけは母の信仰を受け継ぎ 近き将来よふぼくとして道を力強く歩まれむものと心より期待せしに…… 汝大人を懐かしむ心もいと深きまに／＼ 心より靈を宇良賀志奉らくと 御前に御酒御食種々の味物を供え奉りて 露の玉串捧げ奉り拝み奉らくを平けく安けく聞食し諾い給いて 遺れる○○家の家族親族諸人等のこれからの遙けき道を己が向々あらしめ給わず 互い立て合う陽氣ぐらしの態に 更に深く近づかしめ給えと恐み／＼も白す

一三〇 親子合同年祭

これの祖霊社にお鎮まり下さいます天理教〇〇分教会初代会長故△△△刀自並びに令息故〇〇〇〇大人の霊の前に 天理教 分教会長 慎んで申し上げます

久方の空行く月のさやかな光にも 立ち迷う浮雲の障りがあるが如く また春山に咲き乱れる美わしい花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きがあるように 長命でしかも健やかにたすけ一条の道にお励みいただきましたいと心より願っておりましたのに かしものかりものの現身の慣い免がれ得ず いつになっても名残惜しい今世を後にして 〇〇大人ははまだ春秋に富む四十五歳という短い命で また△△刀自は六十五歳を生きの限りとして 逝く水の還らぬ如く 入る月の影消えるが如く はかなくも朝露の如く夕霧の如く来世への旅路を発たれてしまいました 夜空にかゝる月影を見ては ありし日の御心を偲び さや／＼と流れる風の音を聞くと 元気で立ち働いておられた長い年月の面影を思い起こし 露に花咲く勿忘草のように忘れる日は無く 思い出さない時はなく 早や一年は夢の間に過ぎて 深い淋しさが心に残るまま一年祭をこのようにつとめさせて頂く日となりました

御前に後任会長△△△△姉以下遺族親戚 また〇〇分教会につながる役員よぶく信者を始め 今は亡き御霊様たちと親しい間柄であった人たち寄り集い 改めて生前の道すがらをあれこれ語り合い 共に喜び共に涙した昔をそれぞれに偲んでおります

思い返せば御霊様たちは病院通いの可弱い身でありながら △△△△伯 引き続きいて△△△△大人を我が家に引き取って 文字通り真実の看護に当たられました が その当時 このお道の人となられてから 凡そ四十年の長きに亘って 親神様の御教を心の定規とし いかなる節の中も教祖のひながたを見つめて その足跡を辿り深くいんねんを自覚してたんのうに徹し ひのきしんの先頭に立ち 朝は朝星夜は夜星を見上げつゝ、にをいがけおたすけの道に身も心も捧げられました 遂には末代かけて榮ある名称の理〇〇分教会を設立されました が あるいは先になりあるいは後になり 時には表に立ち時には陰にあって働かれた御霊様 お二人のそれぞれの功績を一同脳裡に浮べ臉に描いて 今そこに居られるが如く その御声が聞こえるが如く懐かしさが私たち一同の心に溢れております

さて御前に海川山野のとりどりの御神饌を御供申し 長い間お導き頂きました感謝と御礼を籠め一人々々心より玉串を奉獻させて頂きますが 御霊様たちお二人を引き続いてしまいました後 その悲しみその淋しさを深く味わいつゝも ただ徒に嘆き悲しんでいては却って申し訳ないことと 一同〃節から芽が出る〃お言葉のまにまに涙をふるって立ち上がり 御心にひたすらかけられた教祖九十年祭を一手一つにつとめ上げ さらに百年祭を目指して勢いよく今は前進を続けております

これもまた偏に親神様教祖の厚い親心によることは申し上げるまでもありませんが また御霊様たちが蔭からお働き下さる賜物と深く御礼申さずにはおれません

どうかより一層思召の教会内容の充実を目指して 一にもおたすけ 二にもおたすけと懸命の努力を続けて参りますが 御霊様たちは天翔り国翔り〇〇家につながる家々はもとより△△分教会の理の子たちの家族の先々にも 陽気ぐらしの実が見えて参りますようにお導きの程を一同と共に慎んで申し上げます

一三一 夫婦合同年祭

これの霊代にお鎮まり下さいます故△△△△刀自の霊並びに故○○○○大人の霊の御前に天理教 分教会長 慎んで申し上げます

久方の空行く月のさやかな光にも 立ち迷う浮雲の障りがあるが如く 何時までも健やかに明るくお通りいただきたいと心より願っておりましたのに ○○大人は昭和三十九年○月○日○○症が元で六十才で出直され 又△△刀自は昭和五十九年○月○日八十才を生きの限りとして 逝く水の還らぬ如く来世への旅路を発たれてしまいました 夜空にかゝる月影を見ては ふとありし日の面影を偲び 厚い親心のとりどりを思い起こしておりますが 早や春秋は幾度も夢の間と過ぎ去り 茲に二十年祭並びに四十年祭をつとめさせて頂く日と相成りました

御前に汝刀自 汝大人の遺族遠近より これの席に寄り集い 改めて生前の道すがらを とやありけむ かくやありけむと懐かしく語り合っております

思い返せば○○大人は明治三十五年○月○日 神奈川県愛甲郡石田村に生を享けられました が 幼くして父母に死別 その後は叔母に育てられ 兄弟もなく 天涯孤独の人であると聞いております 一方△△刀自は若狭湾本郷なる○○村の農家の娘として 明治三十六年○月○日誕生されましたが やはり不幸にして父親に早く亡くなられ 為に厳しい風雪の中をよくぞしのいでこられました 幸い○○大人と結婚され 新舞鶴に新居を構えられました が 親子の縁の薄い流れを悟るべきか 三度に及ぶ流産の憂目を体験されたのであります この頃海軍工廠に勤務中の○○大人が○○文具店で万年筆一本を買い求められたのが お道の信仰への手引きとなり その後は一男三女の子宝に恵まれ順風満帆の幸せに浴されました 別科六ヶ月のおぢば生活を心に浮べつ、 終戦後は海洋氣象台につとめ劳かれ △△刀自は畑仕事や田植えの手伝い 或いはパンや菓子之行商など朝は朝星 夜は夜星を戴きつ、 地味で静かで辛抱強い天来の資質を生かしてこまめに働き抜かれ 夫に対する内助の功を捧げられました 夫亡き後の昭和四十九年○月○日夜半 隣家の○○商よりの火災を受けて 我が家が類焼するという大節を越え ○○分教会に一時は仮住まいという形を経て 自衛官官舎へ 次いで新しい住宅へと進展されましたが これ偏に長年に亘り 伏せ込まれた数々の芽生えであり △△刀自の御徳の至すところと信じて疑いません 何分にも思い出は尽きず 口や筆に尽くせませんが あの日のこの時の喜びや悲しみが 今走馬燈の如く脳裡に浮かんで参ります

汝刀自汝大人亡き現在 遺れる子達孫達一同互いに助け合いつ、 それぞれの幸せを噛みしめつ、 茲に昭和四十年○月○日に開設された○○布教所の霊代の御前に種々の物を御供申し 長年に亘ってお連れ通り頂いた感謝と御礼の玉串を一人ひとり奉献して頂きますが どうかこれより後も天翔り国翔り先になり後になり思召し下さる陽氣ぐらしの実が遺族たち一同の先々に見えて参りますようにお導きの程を一同と共に慎んで申し上げます

一三二 夫婦合同年祭2

これの小床を靈代に齋い定めて令坐奉り置き据え奉る天理教〇〇分
教会初代会長故△△△刀自並びに二代會長故〇〇〇〇〇大人の御靈
の御前に天理教 分教會長 慎しみ敬い告げ白さく

今は早くも一年並びに五年の年うつり月代わりて五穀豊穰の秋深き
今日この頃となりしがかくて家族親族寄り集い 汝が刀自 汝が大人
への面影を浮かべ 在せし世の事どもとりどり相語り合いて数々の尽
せぬ思い出を御前に繰り広げつゝ、今し御酒御食海川山野の種々の
味物を捧げ奉りて 茲に一年並びに五年の靈祭 任え奉る日となりぬ
今も尚現世に壮健に立ち働きて何処にか在すが如く思ほゆるも
矢張り呼べどもその答はなく 戸の外に出でて見渡せど その御姿
はあらず 誠に云わぬ術 為す術なきも あの日の頃の功績を偲
び奉りて 懐かしき心些かも消えず この席に侍れるものみな古
を慕う心いよいよ募るばかりなり

つらつらに顧み思えば 汝が刀自並びに汝が大人の現世に坐しける
頃は二人の男の子たちに恵まれ世の交際も疎かならず 家の業に
一途につとめ勞かれ 家庭も常に円満に 祖先の名を汚すことなく
忠実に己が務を重しみ仕え奉り その後打ち続く節に見舞われてよ
りは ひたすら親神の御声にすがり 教祖ひながたを見つめ たす
け一条の日々を明け暮れされたり

旬来たりて 遂に〇〇の名称の創立となり ささやかな教会なりしが
その初代並びに二代會長となり なつてもならないでもの眞実に燃えて
陽氣ぐらしの道を辿られつゝ、ありしを 重き御病の憂瀬に沈み給いて
〇〇〇〇大人は昭和四十一年〇月〇日 齢七十才を以て △△刀自は昭
和四十四年〇月〇日 六十八才を以て 此の世を出直し坐しけるは誠に
口惜しき限りなむ

こゝに靈祭を厳かに仕へ奉らくを甘らに安らに聞き食し諾い給い
て 今ゆ後これの席に列なる各も 〳〵の家毎を天翔り 国翔り 見守り 給
い 此の教会につながる道の子 始め子孫の八十連綿 五十彊 八桑枝
の如く 向榮に立ち榮えしめ 給えと 笑ましき姿を偲びつゝ、恐み 〳〵
も白す

この二十六日ご本部の月次祭を参拝し、詰所に戻ってきた途端、〇〇から緊急の電話を受けました。

「オイ、△△が出直したよ」

「エッ、本当か」

一瞬、私は自分の耳を疑ったほどです。

「〇〇、〇〇にも連絡済みだ」

「よし、判った。」

と私は言ったきり、もう後の言葉は全然出ませんでした。

思い返せば、大先輩の柏木庫治先生が三島公会堂を会場として“ぢば提灯会”を始められた頃から、一人々々前席の講話にお引き出し下さったのが機縁となつて、何時しか柏木教室の優等生（？）五人組と噂されるようになりました。

でも事實は未熟な私達は講師仲間として互いに励まし合い、戒め合い、時には口角沫を飛ばして談じ合い、教祖をひたすら慕う余り、たゞたゞ憂教の至情に燃えて、御指命のまにまに全国の講演会場を昨日は北に、今日は南にと馳せ巡らせて頂きました。

あゝ、あれから早くも歳月は流れて三十有余年、あの日この時の貴兄のすらっとした勇姿が、今私の瞼に浮かびます。

「まだまだ四五年位は頑張らねばならないぞ」

とおぢばの街角で会う度、肩を叩き合いながら誓っておりましたのに…。あゝ、俄に△△の訃報に接しようとは…。

でも遺された四人で、今生は君の分まで引き受けて立ちます。どうか天翔り国翔つて心ゆくまで応援して下さい。

願わくば△△が一番先に旅立ったのだから、来世も又私達の陣頭に立つて”一に勢い”の真実で突き進んでくれるよう……。

では心安らかに、しばらく親神様のふところでお休み下さい。さよなら。

一三四 秋季大祭

この名稱の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
分教会長 慎んで申し上げます

親神様には深い親心の上から いろ／＼と心の成人への道をお連れ
通り下され 日々は届かぬ乍らも栄えある世界のふしんのよふぼく
としてお使い頂き 洵に感謝の念に堪えません

中にもこの十月二十六日は 教祖魂のいんねん やしきのいんねん・
旬刻限の理により 親神様直々の最後の教が垂示された元一日に当
たりますので 御本部では立教一六△年の秋季大祭がとめられま
すが その理を受けて只今からこれの教会の秋季大祭を明るく勇ん
でつとめさせて頂きます

茲に改めて立教の元一日は 教祖を通し「世界一列をたすけるため
に天降った」であり、だん／＼とよふぼくにてはこのよふをはじ
めたをやがみな入りこむで、このようをはじめたをやが入り込め
ば、どんなことをもするやしれんで、どのお言葉通り 将来の陽気
世界を目指し 世界中の多くの人々の中から一日早くこのお道にお
引き寄せ下された私達よふぼくは、その使命の重さを一段と強く
自覚し、先ずは周囲の人々の身近な心の闇路にたすけの手を伸ばす
べく、一手一つに歩ませて頂いておりますが、いよいよ来春三月〇〇
日にはこれの教会の創立〇〇年をお迎えさせて頂きます、かかる
意義深い時旬を臨む今日の大祭を通し、改めてその活動目標たる
”「教祖伝」を熟読し、真の親心を学ぼう、” 教会の創立記念祭
に向って一日一枚のパンフレット配りの実現、をそれぞれの心に体
し、混迷を深める今日の世界に真の親を知らせ、真の親の働きを教
えて一列を澄ます努力を重ねて参りますが、親神様には私達の馳
せ巡る先々に不思議々々の理が現われ、地域社会に思召下さる
神人和楽、親子団欒の陽気ぐらしの輪が更に広く大きく拡がって参
りますようお導きの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます

一三五 秋季大祭2

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

親神様は陽氣遊山の世界づくりを楽しみに長の年限絶え間なくお働き下され 私達を今日の成人へとお導き下さいました御高恩の程は片時も忘れることなく 朝夕御礼申し上げ精一杯御恩報じの道に専念させて頂いております

中にもこの十月二十六日は 旬刻限の到来と共に人間宿し込みの元の地場に於て 魂のいんねんある教祖をやしろとして 親神様が直々この世の表に御現れ下さいました元一日に当たりますので 御本部では立教一六〇年の秋季大祭が執り行われますが この理を受けて只今からこれの教会の秋季大祭を一手一つに勇んでつとめさせて頂きます

私達一同は「世界一列を救ける為に天降った」と仰せられた第一声を改めて心に体し 世界一列兄弟姉妹の具体像を おつとめ完成に求め 心を澄み切る努力を傾けつ、一身一家の都合を越えて 未だ元の神実の神を知らず 徒に人間思案に明け暮れしている世の人々に 親神様によって生かされ育てられている現実を伝え その思召しに添う人間本来の道を復元するよう 心新たににをいがけおたすけに馳せ巡りたいと強く念願いたしております

殊に去る〇月〇日には前会長の年祭をつとめ 神一条に徹しられた道すがらを共々に偲ばせて頂きましたが 今年初頭の「一人のよふぼくが必ず一人のおぢばがえりを」と誓い合った心定めを思い起こし よふぼくとしてお使い頂ける幸福を一層深く自覚し 持場立場を生かし 余すところ三ヶ月足らずを励まし合いつ、 「一に勢い」で進んで参りますが 親神様には私達の行く先々に 不思議／＼の理の動きが鮮やかに見えて参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

一三六 秋季大祭代理

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教

分教会長

に代わり

慎んで申し上げます

親神様は人間創造の目的と救済の方向を陽氣遊山の世界づくりと定められ 長の年限絶え間なき親心のまに／＼私達を今日の成人へとお導き下さいました御高恩の程は片時も忘れることなく 朝夕御礼申し上げ精一杯御恩報じの道に専念させて頂いております

中にもこの十月二十六日は 旬刻限の到来と共に人間宿し込みの元のぢばに於て 魂のいんねんある教祖をやしろとして 親神様が直々この世の表に御現れ下さいました元一日に当たりますので 御本部では立教一年の秋季大祭が執り行われますが この理を受けて只今からこれの教会の秋季大祭を一手一つに勇みに勇んでつとめさせて頂きます

殊に今年は去る○月○日に九十才の高齢ながら○代会長が出直されその五十日祭を終えた直後の○月○日 現会長が交通事故のため入院を余儀なくされました この重なる大節を通し 今後の歩み方に対する親神様の切なる御警告と 止むに止まれぬお仕込みの程を痛感いたします

茲に私達一同は この世界たすけの最後の御教えを 教祖がたったお一人からお創め下されたひながたの道を改めて思い起し 尚子供の出直しから此処横浜の地に単身布教を開始された当教会の元一日を味わい直して 一層の心のふしんに励むと共に ひたすらよぶほどの増加を期して 何よりも未信者へのにをいがけ・おたすけに懸命の努力を傾けさせて頂きますが どうか親神様には一同のこの真実の定めをお受け取り下さいまして 節から芽が出る御守護を頂き 教会内容が一段と充実しますと共に 一同が馳せ巡るたすけ一条の先々に 不思議なお働きが次々と現われ 思召下さる陽氣ぐらしの輪が周辺に広く大きく拡がって参りますようお願い申し上げます 会長に代わり慎んでお願い申し上げます

一三七 月次祭一六六

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
△△分教会長 慎んで申し上げます

” 日々ををやの思案と云うものわ 救ける模様ばかり思うてる “
と仰せ下さいましたが 私達は早くから栄えある月日のやしろであ
り ひながたの親なる教祖の道具衆としてこのお道にお引き寄せ頂
き 洵に感謝の念に堪えません

その中にも今日の吉き日は これの教会にお許し頂きました月次祭
の日柄に当たりますので 只今から鳴物の調子を合せ 声高らかに
明るく勇んでたすけつとめを勤めさせて頂きます

さて 去る御本部の秋季大祭の於いて 真柱様は” 諭達第二号 “を
公布されましたが 今尚病む人は絶えず 悩みの種は誠に尽きないそ
れは元を知らぬからであるとして仰せられ「この元」を知らせることこ
そこの道の神髄である 徒に我欲に走り 安逸に流れがちな人々に心
の定規を提示し 元なるをやの思いをにをいがけすることの大切さ
を強調されました

更に 身上に苦しみ事情に悩む人々へのおたすけこそ よぶぼくの
何よりの任務であると加えられました 尚私達の身近な今年の目標
たる” 因縁の自覚を通して信仰信念の確立を期し 年間おぢばがえ
り○○○名を達成しよう! “を改めて心に強く味わい直し

「人を救ける心は真の誠一つの理で 救ける理が救かる」

との御教示を胸に 常々に人救いを念じて誠に心で通るところ 内
々は自づと睦まじく治まり 世の人々にも成程の理が映り 土地所に
陽気ぐらしの種を蒔くことになる。私達は愈々教祖百二十年祭を身
近な目標として 誠の道を踏み行い 一層「今からたすけするのや
で」と世界ろくじに踏み均しに出られた教祖の大いなるお心に御応
えできますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

” 日々ををやの思案と云うものわ 救ける模様ばかり思うてる “
と仰せ下さいましたが 私達は早くから栄えある” 月日のやしろ “
であり” ひながたの親 “なる教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き
洵に感謝の念に堪えません

その中にも今日の吉き日は これの の月次祭の日柄に当
たりますので 只今から一手一つに勇んで陽氣づとめを勤めさせて
頂きます

さて 去る御本部の秋季大祭の於いて 真柱様は” 諭達第二号 “を
公布されましたが 今尚病む人は絶えず悩みの種は誠に尽きない
それは元を知らぬからであるとして仰せられ「この元」を知らせること
こそこの道の神髓である 徒に我欲に走り 安逸に流れがちな人々
に 心の定規を提示し 元なるをやの思いをにいがけすることの
大切さを強調されました 更に 身上に苦しみ事情に悩む人々への
おたすけこそ よふぼくの何よりの任務であると加えられました

「人を救ける心は真の誠一つの理で 救ける理が救かる」

との御教示を胸に 常々に人だすけを念じ 陽氣づくめの世の実現
を期して弛むことなく 世界たすけの歩みを一手一つに進めようと
申されました 尚一人ひとりが誠の心で通るところ 内々は自づと
睦まじく治まり 世の人々にも成程の理が映り 土地所に陽氣ぐらし
の種を蒔くことになる。私達は愈々教祖のひながたを目標として
誠の道を踏み行い 一層「今からたすけするのやで」と世界ろくじ
に踏み均しに出られた教祖の大いなるお心に御応えできますようお
導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

一三九 青年会女子青年合同總會一六五

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教青年会△
△分会委員長 慎んで申し上げます

“日々ををやの思案と云うものわ 救ける模様ばかり思うてる”
と仰せ下さいました。私達一同栄えあるこの御教に兄弟として早くか
らお引き寄せ頂き お蔭で届かぬ歩みながら世界のふしんを目指して
一日々々を明るく暮らせるように相成り まことに御礼の申しようもご
ざいませぬ

その中にも今日の吉き日は 青年会○○分会第○○回 ○○女子青年会
第○○回合同總會をつとめさせて頂く日柄でございますので 只今から
たすけづとめを一手一つに勇んでつとめさせて頂きます

さて去る十月二十七日御本部での第七十八回青年会總會の席上 青年会
長でもある真柱様は「意氣と情熱を以て一手一つに一丸となって、お道
の勇んだ姿を世界に映し出す役割を」と期待され 会員達は教祖百二十
年祭に向かって勇み心を持って邁進することを誓い合ったのであります
それには先ず育たねばならない会員一人ひとりが 先ず身を以て親神様
に働いて頂くだけの徳を積む努力を真剣に重ねることであり かくて自
分たちが心を掛けた人達が成人していつてくれ、ば 人材育成に向かっ
て努力したことがひとまず報われたと感じることになるのであります
とに角” 救けて頂く信仰から 人を救ける信仰へ “と心を修め その後
はどんな御用にもお使い頂けますように自分を磨き育てることが肝心で
あります

「人を救ける心は真の誠一つの理で 救ける理が救かる」

と「おかきさげ」にあります。思召の陽氣ぐらし世界建設のふしんの
用材として お使い頂く幸福を深め 青年の徳分である若さを充分に活
かし 今後は一層会員一同一手一つとなって 強く”にをいがけ”お
たすけ”に励ませて頂きますが どうか私達の馳せ巡る先々に真の陽氣
ぐらしの輪が一層大きく拡がって参りますようお導きの程を 一同と共
に慎んでお願い申し上げます

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

” 日々ををやの思案と云うものわ 救ける模様ばかり思うてる “
と仰せ下さいましたが 私達は早くから” 月日のやしろ “であり
” ひながたの親 “なる教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き 洵に感
謝の念に堪えません

その中にも今日の吉き日は これの の 日柄に当
たりますので 只今から一手一つに勇んで陽氣づとめを勤めさせて
頂きます

さて静かに私達の周囲を見ると 今尚身上や事情の悩みに苦しんで
いる人々が数多く居ます それはお道のおつとめは勿論のこと 教祖
ひながたの道をも知らないからであります おかきさげに示された

” 人を救ける心は真の誠一つの理で 救ける理が救かる “
との御教を新たに心に刻みつ、 私達は陽氣づくめの世の実現を期
して 勇んで世界だすけの歩みを一手一つに進めねばなりません
また よぶよく一人ひとりが誠の心で通るところ 内々は自づと睦
まじく治まり 世の人々にも成程の理が映り 土地所に陽氣づくめ
の輪が次第に拡がっていくことにもなります

私達は教祖のひながたを目標として 身近に誠の道を踏み行い 一層
「今から救けするのやで」と世界ろくじに踏み均しに出られた教祖
の大きいなるお心にお応えさせて頂き 立教一六九年一月二十六日のお
迎えする教祖百二十年祭を成人の節目として真実を集め 力を尽く
された先人達の上に更なる実を積み重ねるべく 一手一つとなって
勤め切らせて頂きます 今後とも陽氣ぐらし世界建設に向かつて一
段とお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

一四一 腹帯受け渡し祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の
御前に天理教 分教会長 慎んで申

し上げます

たいないゑやどしこむのも月日なり

むまれだすのも月日せわどり

と仰せ下さいましたが この度親神様の不思議な

ご守護により 父 母 の第二子が

お腹に宿り 順調に日々成長をとげております

その中にも今日の吉日 尚一層の安定をお与え頂

くべく帯の受け渡しの御式をさせて頂きます

この上は益々親神様の御教えを心の定規とし 教

祖のひながたを心に体して

”人をたすけて我が身たすかる“

の教えのもと 陽気ぐらしの世界建設に役立つよ

うな魂を持った子供へと その身二つになるまで

お育て下さいますよう 一同と共に慎んでお願い

申し上げます

此の所に神籠立て、招ぎ奉り令坐奉る掛巻くも畏
き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉り

△△△△家はも家族三人心を合わせ朝な夕ないと
睦じく明るく暮らされ世の勤務の道も極めて順調
に辿られしが 家族同様に可愛く慈しみつゝ、育て
し秋田犬○○が永の年月健やかにしを奇しき重
き御病に冒され生命の限りと思ぼしき程に来世に
又新しき望みをかけて止みなくこの家より送り出
したり

こゝに○○の御霊に幸多かれと祈りつゝ、御酒御食
海川山野の味物を捧げ奉りて拝み奉らくを諾い聞
食し給い これより後も△△家の家族親族共々身
も心も壮健に起き伏し出来るばかりでなく この
家を芯とし陽気ぐらしの実が周囲の社会に次々そ
の輪を拡がらめ給えと恐み恐みも乞祈み奉らくと
白す

これの名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます私達は早くから”この世治める真実の道”にお引寄せ頂き 栄えある親神様によふべく 教祖の道具衆としてお使い頂く我が身の幸せを味わい乍ら お陰で日々を明るく勇んで通らせて頂くことが出来 洵に感謝の念に堪えません わけても今日の吉き日は これの教会の秋の靈祭の日柄に当たりますので 只今から靈様の御生前を偲び お残し下されたご功績に感謝しつゝ、一同鳴物の調べ美わしく声高らかにてをどりを一手一つにつとめさせて頂きます

さて本年は教祖百二十年祭活動の二年目の秋を迎え私達一人ひとりの動きが 正しく年祭活動の成果を左右する年であります 当教会では今年の年間成人目標として 心新たに

一、一日生涯の心で「笑顔の彫刻師」へ！

一、ちば中心の心を高め にをいがけの実践を！

と一手一つの実動をお誓い申しましたが かく誓う一同の心定めを充分にお受け取り下さいまして この上とも私達の馳せ巡る先々に不思議／＼な理の動きが見えてまいりますよう お導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
慎んで申し上げます

” 月日にはにんげんはじめかけたのは よふきゆさんがみたいゆへ
から ”

と仰せ下さいましたが 私達は早くから栄えある” 月日のやしろ “
であり” ひながたの親 “なる教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き
洵に感謝の念に堪えません

その中にも今日の吉き日はこれの 月次祭の日柄に当た
りますので 只今から一手一つに勇んで陽氣づとめを勤めさせて頂
きます

さて 去る十月の秋季大祭に於いて真柱様は 教祖百二十年祭の仕上
げの年を迎えるに当たり ” このお道が迫害や干渉の無い往還道に出
られたとは云え それだけに救け一条に對する氣のゆるみや停滞が
懸念される いつの日か親神様のお望みになる世界一列の陽氣ぐらし
を必ず実現するのだという強い信念を固め 一歩一歩足元から陽氣ぐ
らしの輪を拓げていくことが肝心である ”と申され 仕上げの年を歩
む決意と態勢をお示し下さいました

” いつもたすけをせくからに はやくよふきになりてこい ”
と仰せられた教祖のお言葉を味わいつ、

一、おかきさげの精神に戻り親心を深く悟ろう！

一、かぐらづとめの信仰を芯におぢばへおぢばへと向おう！

を今年の合言葉として いよいよ成人の道に拍車を掛けて参りますが
どうか親神様には思召し通りの陽氣ぐらしの輪が 更に広く大きく
私達の周辺に拓がって参りますようお導きの程を 一同と共に慎
んでお願い申し上げます

